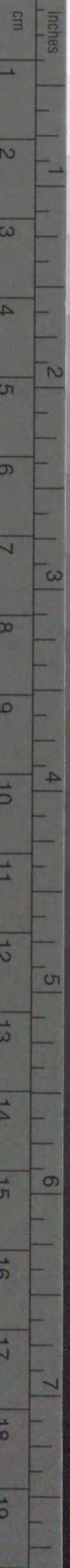


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

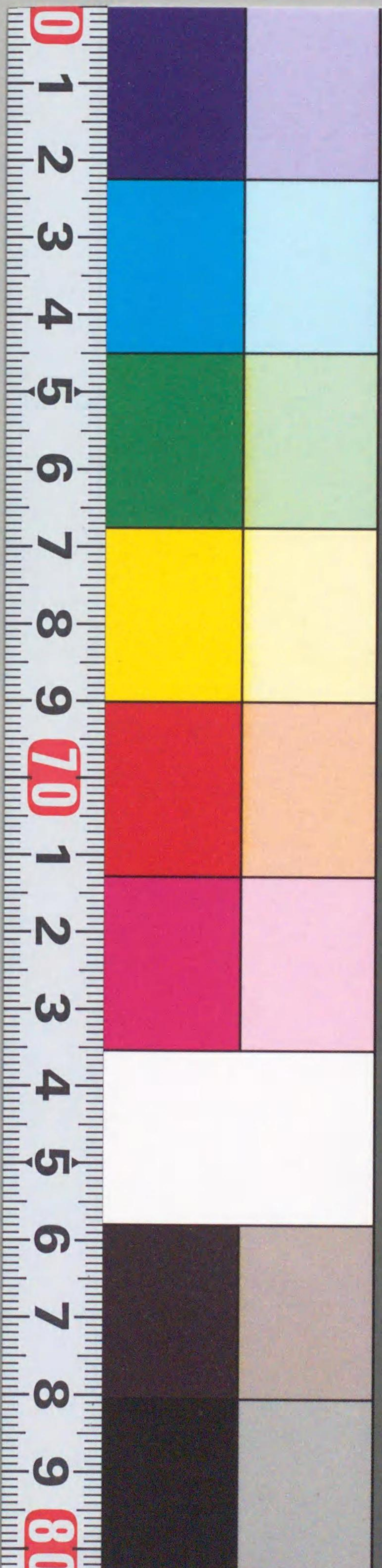
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



(印刷ヲ以テ筆記ニ代フ)



大正十四年四月

Y994-J9836



\*1200901198040\*

全國主要都市ニ於ケル

# 食料品配給及市場狀況

其ノ三近畿及中國部地方

商工省商務局



Y994

J9836

本書ハ執務ノ參考資料トシテ大正十三年五月ヨリ大正十四年三月  
 ニ亘リ全國ノ主要都市ニ於ケル新鮮食料品ノ配給並ニ其ノ市場ノ  
 狀況ニ關シ調査シタルトコロヲ編纂シタルモノニシテ短時日ノ間  
 充分ナル調査ヲナシ難ク又統計資料ノ缺乏セル爲推測ヲ掲ゲタル  
 點少カラズ

全國主要都市ニ於ケル食料品配給及市場狀況

一、津

(一)	津市ト消費經濟上ニ體ヲナスヘキ隣接町村	一
(二)	津市ニ於ケル新鮮食料品ノ集散及消費ノ狀況	一
(三)	津驛ニ於ケル新鮮食料品發着統計	六
(四)	津市ニ於ケル市場	八

(イ)	株式會社津魚市場	八
-----	----------	---

(ロ)	株式會社津青物商會	一二
-----	-----------	----

市	市	一五
---	---	----

(一)	堺市ト消費經濟上一體トナスヘキ隣接町村	一五
-----	---------------------	----

(二)	堺市ニ於ケル新鮮食料品ノ集散及消費ノ狀況	一五
-----	----------------------	----

(三)	堺市ニ於ケル公設小賣市場	一七
-----	--------------	----



I 種  
W





(四) 堺市ニ於ケル市場 ..... 一八

(イ) 堺魚問屋市場 ..... 一八

(ロ) 堺市宿院青物市場 ..... 二四

三、和歌山市 ..... 二九

(一) 和歌山市ト消費經濟上一體ヲ爲スヘキ隣接町村 ..... 二九

(二) 和歌山市ニ於ケル新鮮食料品ノ集散及消費ノ狀況 ..... 二九

(三) 和歌山市ニ於ケル公設小賣市場 ..... 三一

(四) 和歌山市ニ於ケル市場 ..... 三二

(イ) 和歌山市市場協商會 ..... 三二

(ロ) 和歌浦魚市場 ..... 四〇

四、姫路市 ..... 四三

(一) 姫路市ト消費經濟上一體ヲナスヘキ隣接町村 ..... 四三

(二) 姫路市ニ於ケル新鮮食料品ノ集散及消費ノ狀況 ..... 四四

(三) 姫路市ニ於ケル公設小賣市場 ..... 四八

(四) 姫路市ニ於ケル市場 ..... 五六

(イ) 姫路農水産食品市場 ..... 五六

(ロ) 株式會社姫路海産物青物定市場 ..... 六六

(五) 姫路海産物青物定市場規程 ..... 七四

五、岡山市 ..... 七七

(一) 岡山市ト消費經濟上一體ヲナスヘキ隣接町村 ..... 七七

(二) 岡山市ニ於ケル新鮮食料品ノ集散及消費ノ狀況 ..... 七八

(三) 岡山市ニ於ケル公設小賣市場 ..... 八二

(四) 岡山市ニ於ケル市場 ..... 八三

(イ) 京橋魚市場 ..... 八三

(ロ) 二日市魚市場 ..... 九三

(ハ) 内山下青物市場 ..... 九七

六、廣島市 ..... 一〇三

(一) 廣島市ト消費經濟上一體ヲナスヘキ隣接町村 ..... 一〇三

(二) 廣島市ニ於ケル新鮮食料品ノ集散及消費ノ狀況 ..... 一〇三

(三) 廣島市ニ於ケル公設市場小賣市場 ..... 一〇七



(四) 廣島市ニ於ケル市場……………一〇七

(イ) 東洋水産市場……………一〇九

(ロ) 廣島ヤマ三魚市場……………一一一

(ハ) 廣島魚市場……………一二五

(ニ) 天満市場……………一二七

(ホ) 廣島新市場……………一三〇

(ヘ) 荒神町青物市場……………一三五

(ト) 草津町魚市場……………一三七

七、下 關 市……………一四一

(一) 下關市ト消費經濟上一體ヲナスヘキ隣接町村……………一四一

(二) 下關市ニ於ケル新鮮食料品ノ集散及消費ノ狀況……………一四一

(三) 下關市ニ於ケル公設小賣市場……………一四九

(四) 下關市ニ於ケル市場……………一四九

(イ) 唐戸魚市場……………一四九

(ロ) 下關市岬之町魚市場……………一五二

八、防 府

(ハ) 下關市青物市場……………一六五

(ニ) 下關市阿彌陀寺魚市場……………一七七

(ホ) 下關新地魚市場……………一八一

防 府 町……………一八五

(イ) 防府町三田尻魚市場……………一八五

(ロ) 防府町宮市魚市場……………一九〇

九、鳥 取 市

(一) 鳥取市ト消費經濟上一體ヲナスヘキ隣接町村……………一九一

(二) 鳥取市ニ於ケル新鮮食料品ノ集散及消費ノ狀況……………一九二

(三) 鳥取市ニ於ケル公設小賣市場……………一九五

(四) 鳥取市ニ於ケル市場……………一九五

(イ) 鳥取魚鳥市場……………一九五

(ロ) 鳥取青物市場……………二〇四

(五) 鳥取市ニ於ケル市場規程……………二〇八

(イ) 鳥取魚市場規程……………二〇八



(ロ) 鳥取青物市場規程……………二一〇

一〇、松江市……………二二三

(一) 松江市ト消費經濟上一體ヲナスヘキ隣接町村……………二二三

(二) 松江市ニ於ケル新鮮食料品ノ集散及消費ノ狀況……………二二四

(三) 松江市公設小賣市場概況……………二二七

(四) 松江市ニ於ケル卸賣市場……………二二九

山陰松江水產株式會社魚市場……………二二九

全國主要都市ニ於ケル食料品配給及市場狀況

一、津市ト消費經濟上一體ヲナスヘキ隣接町村

町名	人口
新町(安濃郡)市ノ西北部ニ隣接ス	四、一六〇人
神戶村(同)	二、七二九
計	六、八八九
津市……………	四七、七四二
以上總計	五四、六三一

(大正九年國勢調査ニヨル)

二、津市ニ於ケル新鮮食料品ノ集散及消費ノ狀況

(市當局ノ調査數字並推定數字ニ基ク)



(イ) 鮮魚

生産額 一、一六、二二八圓  
入荷額 一、一八三、七七二圓

内 譯

關西線其他鐵道入荷

漁船ニヨル入荷

漁船以外ノ船舶ニヨル入荷

出荷額

内 譯

二八二、〇〇〇圓 (關西線其ノ他)

三四、九二六圓 (船 船)

九八三、〇七四圓 (魚市場扱一、三〇〇、〇〇〇圓)

消費額

津港經由ノ分 (大正十一年度市統計)

縣外ヨリ移入

縣外へ移出

六二七、〇〇〇圓 市消費ト見 五九二、〇七四圓  
三一三、〇〇〇圓 市消費ト見 二九七、三〇〇圓  
三四、九二六圓 ルヘキ分  
一五、七〇〇圓

(ロ) 鹽干魚

生産額 一四三、六〇〇圓 (市ノ生産) 二四、六五〇貫  
入荷額 二七三、一〇〇圓

内 譯

船 船

關西線其他

出荷額 一八八、二〇〇圓

内 譯

一八六、二〇〇圓 (關西線其ノ他)

二、〇〇〇圓 (船 船)

二二八、五〇〇圓 (魚市場扱二〇〇、〇〇〇圓)

消費額

津港經由ノ分 (大正十一年度市統計)

縣外ヨリ移入

縣外へ移出

一四六、六〇〇圓 市ノ消費ト見 一〇二、一〇〇圓  
一六三、〇〇〇圓 市ノ消費ト見 一三二、六〇〇圓  
四四、五〇〇圓  
三二、四〇〇圓

(ハ) 蔬菜



生産額 一九七、一〇六圓  
入荷額 一八八、〇七二圓

内 譯

七〇、四六一圓 (船 舶)

一一一、六一〇圓 (關西線其ノ他)

六、〇〇〇圓 (新町、神戸村生産)

二七、九四六圓

出荷額  
内 譯

二三、〇〇〇圓 (關西線其ノ他)

四、九四六圓 (船 舶)

三五七、二三一圓

消費額

(三) 果 實

生産額

三六、〇〇〇圓

入荷額

一五二、〇〇〇圓

内 譯

出荷額

一四〇、〇〇〇圓 (船 舶)

一二、〇〇〇圓 (鐵 道)

一四、七五〇圓

内 譯

八、〇〇〇圓 (船 舶)

六、七五〇圓 (鐵 道)

一七三、二五〇圓

消費額

(木) 津市ニ於ケル魚類、青果ノ生産高

鮮魚、鹽干魚水産製品

二五九、八二八圓 (大正十一年)

同

一四八、五一一 (十年)

同

一〇七、〇二九 (九年)

農産物

一九七、一〇六圓 (蔬菜)

三五、〇〇〇圓 (果 實)

一五〇、〇〇〇圓 (其ノ他)

三八三、一〇六圓  
(大正十一年度)



神戸村、新町ニ於ケル生産額

蔬 菜	六、〇〇〇圓 (大正十一年度)
果 實	一、〇〇〇 (同)
鶏 卵	二五、九五四 (大正九年)
	一五、一七三 (十年)
	一七、九六九 (十一年)
	二二五、九七七 (十二年)

三、津驛ニ於ケル新鮮食料品發着統計 (大正十二年度)

一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月 十二月 計

活 鮮 魚	發送	五	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
	到着	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
鹽 干 魚	發送	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
	到着	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
生 野 菜	發送	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
	到着	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

生 甘 藷	發送	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
	到着	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
其ノ他生果 樹ノ他生果 ヲ除ク	發送	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
	到着	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

他ニ柑橘、生馬鈴薯アルモ頗ル少量ナリ

津驛ヨリ發送サルル貨物ノ仕向地

活 鮮 魚	山 田	湊 町	梅小路	伊賀上野	高 岡
鹽 干 魚	高 松	前 橋	松 江	湊 町	魚 津
生 野 菜	名 古 屋	龜 山	松 阪	四 日 市	梅小路
生 甘 藷	丹波市				龜 岡
其ノ他生果	龜 山	梅小路	松 阪	山 田	四 日 市
津驛ニ到着スル貨物ノ仕出地					
活 鮮 魚	梅小路	下ノ關	湊 町	名 古 屋	熱 田
	氷 見	福 山	豊 橋		魚 津
鹽 干 魚	梅小路	名 古 屋	湊 町	富 田	燒 津
				伏 木	
				氷 見	
				敦 賀	



熱田

生野菜	枇杷島	桑島	神戸	梅小路	豊橋	蒲郡
生甘藷	神戸	桑名	四日市	枇杷島	三島	
柑	橋	和歌山				

運賃表

名	古屋	鮮魚	小口(百斤)貨物(一噸)	野菜	小口(百斤)貨物(一噸)
梅	小路	三二・五 <sup>錢</sup>	二・七〇 <sup>円</sup>	二二・五 <sup>錢</sup>	一・九五 <sup>円</sup>
湊	町	三三・五	三・二五	二六・〇	二・三〇
神	戸	四七・〇	三・九五	三一・〇	二・八〇
下	關	五五・五	四・七五	三六・〇	三・三〇
		一四二・〇	一一・三〇	八七・五	八・一〇

四、津市ニ於ケル市場

(イ) 株式會社津魚市場

一、市場ノ所在地並其ノ組織

本市場ハ津市魚町ニ在リ即チ津市橋内ノ区域内ニアリテ市ノ中心地域ニ位ス但水陸ノ連絡  
 惡シ  
 其ノ組織ハ株式會社ニシテ資本金二五〇、〇〇〇圓拂込資本金六二、五〇〇圓ニシテ株主  
 ノ大多數ハ本市場ノ仲買人ナリ  
 配當ハ年八分ノ割合ナリ

二、取扱品目

鮮魚介、鹽干魚、青物

三、市場ノ規模

市場敷地ハ一〇坪ニシテ其ノ他事務所二四坪アリ物置三棟ヲ有ス

四、問屋、仲買其ノ他

問屋業務ハ會社之ヲ行ヒ市場荷ハ全部會社ニ對スル委託荷ニシテ會社ノ買付ニ依ルモノナ  
 シ  
 仲買人ハ其ノ數八〇名アリ市場賣買ニ參加シ得ルモノハ仲買ニ限ルヲ以テ小賣人ハ小座ト  
 シテ仲買ニ從屬ス



小賣人(小座)ノ數凡ソ三〇〇名トス一日ノ平均買出人ハ三四〇名位ナリ仲買人ノ中ニテモ無論小賣ヲ兼業スル者アリ

五、賣買方法並代金決済

賣買方法ハ糶賣ニ依ル  
賣買代金ノ決済ハ

- (イ) 會社對荷主  
賣買ト同時ニ仕切ヲ爲ス
- (ロ) 會社對仲買人  
毎月五日及二十日ノ二回ノ清算ナリ

- (ハ) 仲買人對小賣人

大體會社對仲買人ノ場合ニ於ケルト同シク月二回ノ清算ナレトモ必ラスシモ一定セス順繰支拂ノ場合モアリ小座ニ對スル信用關係ニ依ルナリ

六、手數料並歩戻

會社手數料トシテハ  
鮮魚ニ付……………一・二二三

鹽干魚ニ付……………一・二一〇

干物ニ付……………一・〇五三

鯉節其ノ他ニ付……………一・〇〇〇

仲買歩戻……………〇・六六五

小賣(小座)歩戻(仲買ヨリ)……………〇・二又ハ〇・三

七、取引高

本市場ノ取引高一、五〇〇、〇〇〇圓(大正十一年度)ニシテ此ノ中

鮮魚介……………一、三〇〇、〇〇〇圓

鹽干魚……………一、二〇〇、〇〇〇

見當ナリ(青物ハ殆ント取扱ヒ居ラス)

津市ニ於ケル魚類ノ供給ハ殆ント本市場ニ於テ一手ニ爲サル狀況ナリ

本市場ニ對スル魚荷ノ發送地ハ縣下トシテハ度會、志摩等ニシテ其ノ他ハ紀伊沿海、尾三、駿遠、北海道、京阪地方、下ノ關等トス

本市場ヨリノ出荷地方トシテハ伊賀、大和、近江、尾張、三河及京阪地方トス

右ニ掲ケタル數字ノ内大體百萬圓近クカ津市並其ノ隣接町村ニ於ケル鮮魚介ノ消費高ニシ



テ、鹽干魚ノ市並其ノ隣接町村ニ於ケル消費高ハ右ノ數字ヨリモ幾分多ク二十三萬圓程度トス

八、開閉時刻並休業日

市場ノ開閉時刻ハ午前五時ヨリ六時半迄ノ賣買時間トス必要ニ應シテ伸縮スルハ妨ケス  
休業日ハ一月一日、三日、十二月卅一日ナリ

九、市場ノ沿革

沿革不明ナルモ往古ヨリノ市場ヲ大正元年株式會社組織トセルモノナリ

本縣ニハ市場取締規程類ノ制定サレタルモノナク本市場ハ市場トシテノ監督ヲ受ケ居ラス

(口) 株式會社津青物商會

一、市場ノ所在地並其ノ組織

本市場ハ津市入江町ニ在リ即チ津市橋内ノ區域内ニ在リテ市ノ中心區域ニ位ス、水陸ノ連絡惡シ

其ノ組織ハ株式會社ニシテ資本金二〇、〇〇〇圓拂込資本金一一、五〇〇圓ナリ年一割五分五厘ノ配當ヲナス

二、取扱品目

蔬菜、果實

三、市場ノ規模

本市場ノ敷地ハ八十四坪倉庫三十二坪アリ市場トシテノ特別設備ナシ

四、問屋、仲買其ノ他

問屋業務ハ會社之ヲ行フ

仲買人ノ數三十四名ニシテ市場賣買ニ參加シ得ル者ハ仲買人ニ限ルヲ以テ小賣ハ小座トシ

テ仲買ニ從屬ス其ノ數百五十名アリ勿論仲買モ小賣ヲ兼業スルアリ

本市場ニ對スル荷主ハ約二百名トス

本市場ニ於ケル一日ノ平均買出人ハ凡ソ百七十名トス

五、賣買方法

市場ニ搬入サルル荷ハ會社ニ對スル委託販賣ニ係ルモノ全部ヲ占メ會社ノ買付ニ依ルモノナシ

賣買方法ハ糶賣トス

六、手数料並歩戻

會社手数料ハ一割ニシテ仲買歩戻ハ六分ナリ仲買人ハ此ノ六分ノ中二分ヲ小賣(小座)ニ戻



七、取扱高

ス  
本市場ノ取扱高ハ約二七九、〇〇〇圓トシ此ノ中七萬圓見當ハ果實ノ取扱高ニ當ル  
津市コ於ケル蔬菜供給ノ大部分ハ本市場ノ司ルトコロニ係リ果實ハ反之市中間屋ノ取扱量  
ニハ及バズ

本市場ヘノ荷ノ發送地方ノ主タルモノハ縣内安東、藤水、神戸各村ナリトス

八、市場ノ沿革

沿革ハ不明ナルモ往古ヨリノ市場ヲ大正四年株式會社組織トシタルモノナリ  
本縣ニハ市場取締規程類ノ制定サレタルモノナク本市場ハ市場トシテノ監督ヲ受ケ居ラズ

一二、堺市

一、堺市ト消費經濟上一體ヲ爲スヘキ隣町村

(大正九年國勢調査ニ據ル)

町村名	人口
舳松村(泉北郡)市ノ南部ニ隣接ス	四、六七六人
三寶村(同)市ノ北部ニ隣接ス	一、七二八
神石村(同)市ノ南部ニ隣接ス	二、四六〇
濱寺町(同)市ノ南部ニ隣接ス	八、五一一
計	一七、三六五
堺市	八四、九九五
以上總計	一〇二、三六〇

二、堺市ニ於ケル新鮮食料品ノ集散及消費ノ狀況



鮮魚 三、五〇〇、〇〇〇圓

堺魚市場ヲ經由セサル分	二五〇、〇〇〇圓(大阪方面行)
五〇〇、〇〇〇圓	二〇〇、〇〇〇圓(堺市消費)
堺市場賣上高	五〇、〇〇〇圓(郡部行)
三、〇〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓(大阪方面行)
...	一、五〇〇、〇〇〇圓(堺市消費)
...	五〇〇、〇〇〇圓(郡部行)

鹽干魚 一、〇〇〇、〇〇〇圓

三〇〇、〇〇〇圓(堺市消費)
七〇〇、〇〇〇圓(郡部行)
一、〇四〇、〇〇〇圓(堺市消費)
二六〇、〇〇〇圓(阪神地方並郡部行)

青果 一、三〇〇、〇〇〇圓

青果ノ賣上高トシテ二市場(堺宿院青物市場、堺七道青物果物市場)賣上高合計ハ百萬圓程度ナレトモ市隣接町村ニ於ケル生産(果實ハ殆ントナシ)ニシテ市ニ入ルモノヲ加ヘ市當局ノ推算ニ基キ百三十萬圓ト見タリ

堺市消費額總計

三百四萬圓

内譯

鮮魚

百七十萬圓

鹽干魚

三十萬圓

蔬菜果實

百四萬圓

國勢調査人口

品名	消費額	一人當消費額	備考
鮮魚	一、七〇〇	二〇、二三	市場扱
鹽干魚	三〇〇	三、五七	同
蔬菜果實	一、〇四〇	一二、三八	同

市、當業者ノ見込數字ニ基ク(十二年)  
千円 三、〇四〇  
円 三六、一九  
千円 八四、〇〇〇人

青果物ハ荷主ヨリ市場ノ手ヲ經テ賣出サルルモノ全部ヲ占メ魚類ハ堺魚市場ヲ經由スルモノト附近ノ海ニテ漁獲セラレ市場ヲ經由セスシテ市中小賣商ニ直賣セララルルモノトアリ魚類ニ付テハ大阪方面ヨリ移入セララルルモノ勿論アリ少量ナリ

### 三、堺市ニ於ケル公設小賣市場

公設小賣市場ハ何レモ大正九年頃ニ設立セラレ現在四ヶ所アリ何レモ道路ノ片側ニ建物ヲ設ケタリ創立費ハ各二千圓程度ノモノニシテ店舗ハ二十五、六軒ヨリ四十軒程度ナリ公設市場ニ隣接シテ私



設店舗附屬ス開市時限ハ午前八時ヨリ正午ニ至ル  
賣上高左ノ如シ

市場名	大正十一年	大正十二年
九間町市場	一二四、五八二 <sup>円</sup>	一一四、七六三 <sup>円</sup>
天神南門市場	五一八、九〇〇	四八七、〇〇二
川尻市場	一四二、二三〇	一五九、〇〇九
少林寺橋市場	二八一、二七七	二九六、七七四
計	一、〇六六、九八九	一、〇五七、五四八

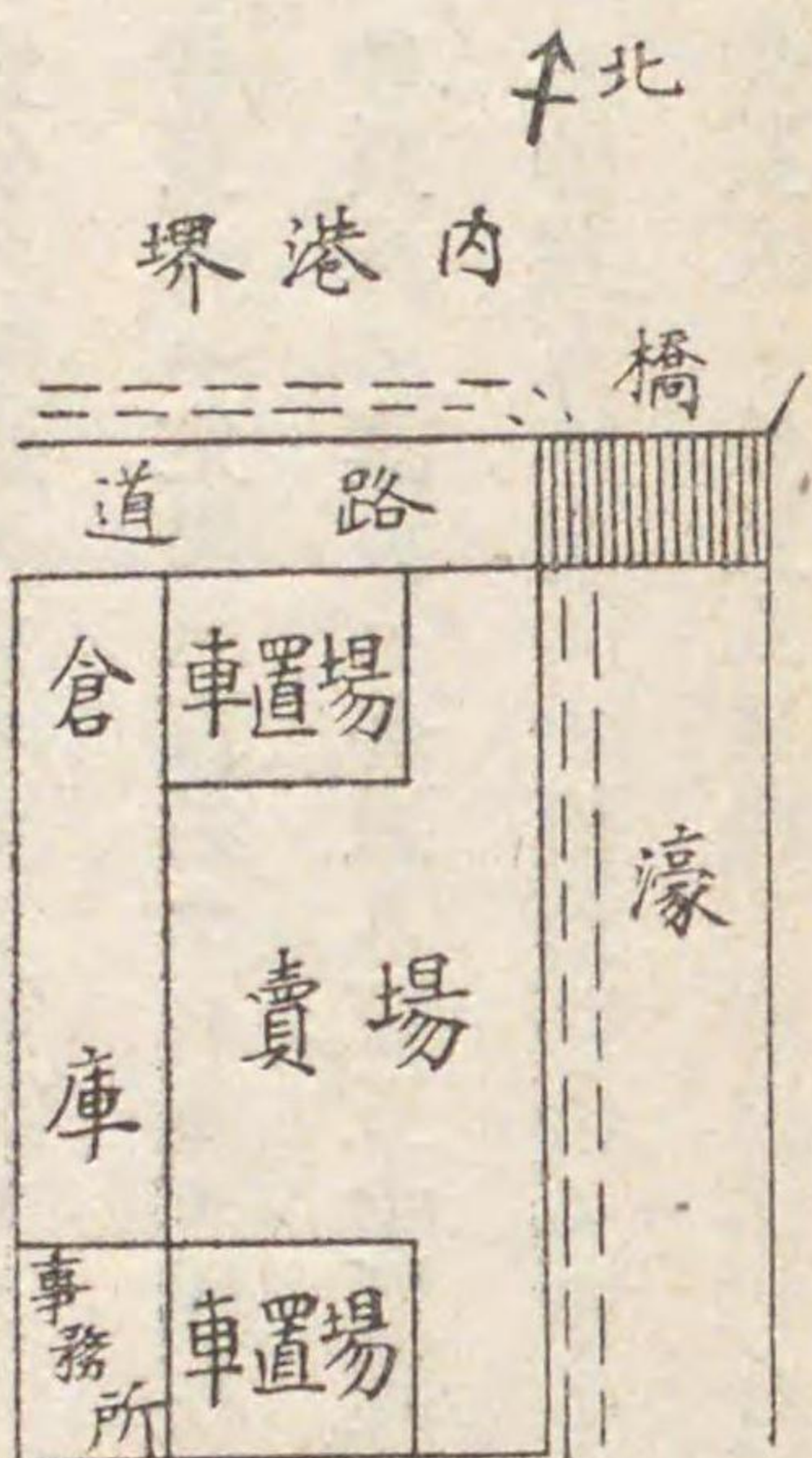
店舗使用料ハ一月坪三圓平均トス

#### 四、堺市ニ於ケル市場

##### (イ) 堺魚問屋市場

##### 一、市場ノ位置

本市場ハ堺市大濱通二丁目一番地ニ在リ  
市場ノ見取圖左ノ如シ



##### 二、市場ノ組織並規模

取扱品目ハ鮮魚介ナリ

本市場ハ魚問屋六軒ノ共同賣場ナリ

市場ノ地所ハ問屋六名其ノ他一名ノ私有地ナリ

市場ノ敷地ノ面積ハ四百五十坪ニシテ車置場、事務所併セテ六〇坪倉庫四〇坪ナリ倉庫ニハ何等ノ設備ナク問屋六名夫々場所ヲ定メテ容器類ヲ保管スルニ用フ

右ノ市場ノ他ニ夏六、七、八月ノ期間ニ於テハ堺市新田海岸ニ於ケル砂濱ヲ賣場ニ使用ス此ノ地所ハ官有地ニシテ三千坪餘リノ廣サアリ無償ニテ借用シ居レリ此ノ夏場ニ於ケル賣場ノ變更ハ夏ニ於テハ開市時限自ラ早朝トナリ船舶モ輻輳シ又堺港ニ於ケル汐ノ満干等ノ原因ニモ依ル堺港入口ハ干潮ノ際ニ於ケル水深極メテ淺ク小型ノ發動機船、ランチ等モ航



行スル能ハサル狀況ニアリ

### 三、問屋並仲買

(イ) 問屋ハ現在六名アリ問屋權ノ讓渡ハ全然自由ニシテ何等ノ權利金ノ如キモノヲ認メ居ラス勿論地上權ノ讓渡ノ如キハ之レアリ

市場ニ於ケル問屋ノ賣場ハ六ヶ所ニシテ濠ニ近キ賣場ニハ自然ト買手謂集スルノ傾向アリ各十五日ヲ以テ順次ニ賣場ヲ交代スルモノトス

問屋ハ買付ヲ殆ント爲サス問屋ニ對シテ販賣ノ委託ヲナスハ所謂出買ナリ出買ハ產地ノ商人又ハ堺市ノ商人ニシテ漁業者其ノ他ノ者ヨリ漁物ヲ買受ケ市場ニ搬入シ來ル仲買人ニシテ殆ント皆自ラ發動機船ヲ所有セリ故ニ生産地ニ於ケル漁業者ニ對シテハ市場問屋ハ直接ニ仕入金ヲ賦與スルコトナク仕込ハ出買ノナストコロニ係ル出買ニ對シテ問屋ハ資金ノ融通ヲナスコト無論アリ

(ロ) 仲買人ハ定員三百名ナレトモ現在百九十二名アリ多ク小賣ヲ兼業ス

仲買株ノ讓渡ハ普通八百五十圓程度ノ權利金ニ於テ認メラル勿論此ノ權利金中ニハ從來ノ仲買人ノ有スル債務ヲ含ムモノナリ債權ヲ有スル問屋ハ此ノ權利金ニ付先取權ヲ有ス仲買人ハ仲買人組合ニ對シテ組合受金トシテ信認金最低一千圓ヲ納付スコレハ現金ヲ以

テスルモノナルガ以前ハ公債ニヨリタリ其ノ性質ハ問屋ニ對スル保證金ト同様ナリ

市場ノ賣買ニハ仲買人以外ノ者ハ參加スルコトヲ得サルモノナレハ市中其ノ他ニ於ケル

小賣人ハ附子(小座)トシテ仲買人(附親)ニ附屬ス此ノ附子ハ現在約五百名アリ

仲買人タル者ハ堺市居住者ニ限ラル

### 四、賣買方法、手数料其ノ他

賣買方法ハ糶賣ヲ原則トス唯鱈ノ如キモノハ大阪ノ各魚市場ノ開市ニ間ニアハセル爲メ迅速ニ取引ヲ要スルヲ以テ相對賣買ニ依ル

問屋手数料ハ一定シ居ラス其ノ範圍ハ七、八分ヨリ四、五分ノ見當ナリ此ノ手数料ノ一定シ居ラサル主ナル理由トシテハ本市場ハ近クニ大阪ノ噓喉場魚市場ノ如キヲ控エ居リ本市場ニ於ケル魚價ハ絶エス噓喉場魚市場ノ制肘ヲ受クル爲メ市場問屋ハ其ノ懸引上及危險負擔上斯クノ如ク手数料ヲ一定スルコト能ハサルモノトセリ勿論問屋間ニハ賣買ニ當リテ手数料ノ協定アルナリ此ノ如ク堺魚問屋市場ハ近クニ有力ナル市場ヲ有スル爲メ常ニ其ノ牽制ヲ受ケ充分發展スヘクシテ發展シ得サル狀況ニアリト問屋筋ハ云フ

仲買人ニ對スル歩戻ハ

(イ) 一圓ニ付二厘



(ロ) 奇數月ニ於テハ二厘ニ更ニ一錢五厘ヲ加フ

(ハ) 六ヶ月毎ニ六錢五厘

ノ如ク一年ヲ通シテ一定シ居ラス

附親(仲買)ノ附子(小賣)ニ對スル歩戻ハ仲買人ニ依リ一定シ居ラス例ヘハ一圓ニ付二厘ナルアリ三厘ナルアリ又六ヶ月毎ニ六錢三厘ナルアリ下ツテハ二錢八厘ノ如キアリ然レトモ奇數月ニ依ル歩戻ハナシ要スルニ小賣人ニ對スル信用關係ニ依ルナリ

賣買代金ノ決済ハ問屋對荷主間ハ賣買ト同時ニ仕切ヲナシ問屋對仲買人間ハ月一回ノ清算トス(以前ハ二ヶ月ニ一回ナリキ)仲買人對小賣人間モ同様ノ決済ヲナス

賣買單位ハ問屋ノ有スル容器ニ魚物ヲ入レ其ノ十箱ヲ以テ相場ヲタツ尤モ賣買成立シ引取ヲナストキハ勝手ニ自己ノ欲スル量(箱)丈ヲ十箱中ヨリ引出スモ差支ヘナシ

其ノ餘リノ箱ハ他人カ任意ニ引取ルナリ斯クスルモ取引ニ澁滯ヲ來セシコトナシ

### 五、運送並製氷

運送並製氷貯藏ニ關シテ附屬業ノ如キヲ營ミ居ラス運送ハ堺市ノ<sup>④</sup>通運業者專ラ之ニ當ル梅田驛(大阪)ヨリ一噸積約三十箱トシテ自動車一臺十二、三圓ヨリ十五圓ノ見當ナリ又南海電車ノ堺驛ヨリ市場ヘ八町餘ノ間隔アリ自動車一臺四、五圓見當、高野線(南海鐵道經

營)堺驛ヨリ市場ヘハ約十五、六町ノ距離アリ自動車一臺六圓乃至八圓見當ナリ

製氷ニ付テハ市場ノ附近ニハ日東製氷、隅田製氷アリ其ノ製造能力ハ日東製氷ハ、二十五噸トシ隅田製氷ハ、十五噸トス日東製氷ハ冷藏庫ヲ有シ其ノ保管料ハ魚箱一ヶ八錢(一日)

トス氷價ハ噸十圓程度トシ水産會買入ニハ噸七圓五十錢見當ヲ以テ供給ス市場ノ一日ノ氷使用料ハ約六噸見當ナリ

尙本市場ニ對スル入出荷運輸機關トシテノ南海鐵道、高野鐵道ハ特ニ鮮魚車ヲ使用ス

### 六、取扱數量

本市場ニ於ケル一ヶ年ノ取扱數量約三百萬圓ニシテ出荷地方別ニテハ大阪方面ヘ約百萬圓郡部(大和、河内、濱寺)方面ヘノ五十萬圓ニシテ殘部分百五十萬圓ハ市及其ノ接續村ノ消費ニ係ルモノナリ

入荷數量モ約三百萬圓ニシテ内三十萬圓カ陸運(鐵道、自動車)ニ依ル分ナリ

大阪方面ノ百萬圓ノ中ニ、三十萬圓ハ本市場ノ商人(仲買、小賣)ニシテ大阪ノ噓喉場魚市場、天滿魚市場、木津魚市場内ニテ販賣スル分ナリ

本市場ニ對スル出荷地方トシテハ淡路島、徳島、紀州、土佐等ヲ主タルモノトシ其ノ他小田原、燒津方面ヨリハ鐵道ヲ以テスル出荷アリ



七、市場ノ開閉時刻

市場ノ開閉時刻ハ別ニ一定セサルモ凡ソ午前五時頃ヨリ六時半頃ノ間ニ賣買行ハル  
休業日ハ一月一日、二日、十二月卅一日ナリ

八、市場ノ沿革

本市場ハ三百年ノ往古ヨリ存スル市場ナルモ現在ハ明治四十四年三月大阪府令第十四號ノ  
市場取締規則ノ適用ヲ受ケ府知事ノ下ニ監督ヲ受ケ  
營業許可期限ハ無期限ナリ

(口) 堺市宿院青物市場

一、市場ノ所在地並其ノ組織

堺市宿院町東二丁目二六ノ一ニ在リ市ノ殆ント中心ノ繁盛ナル地ニ位シ地所ハ市有地ナリ  
問屋二軒ノ共同賣場ナリ

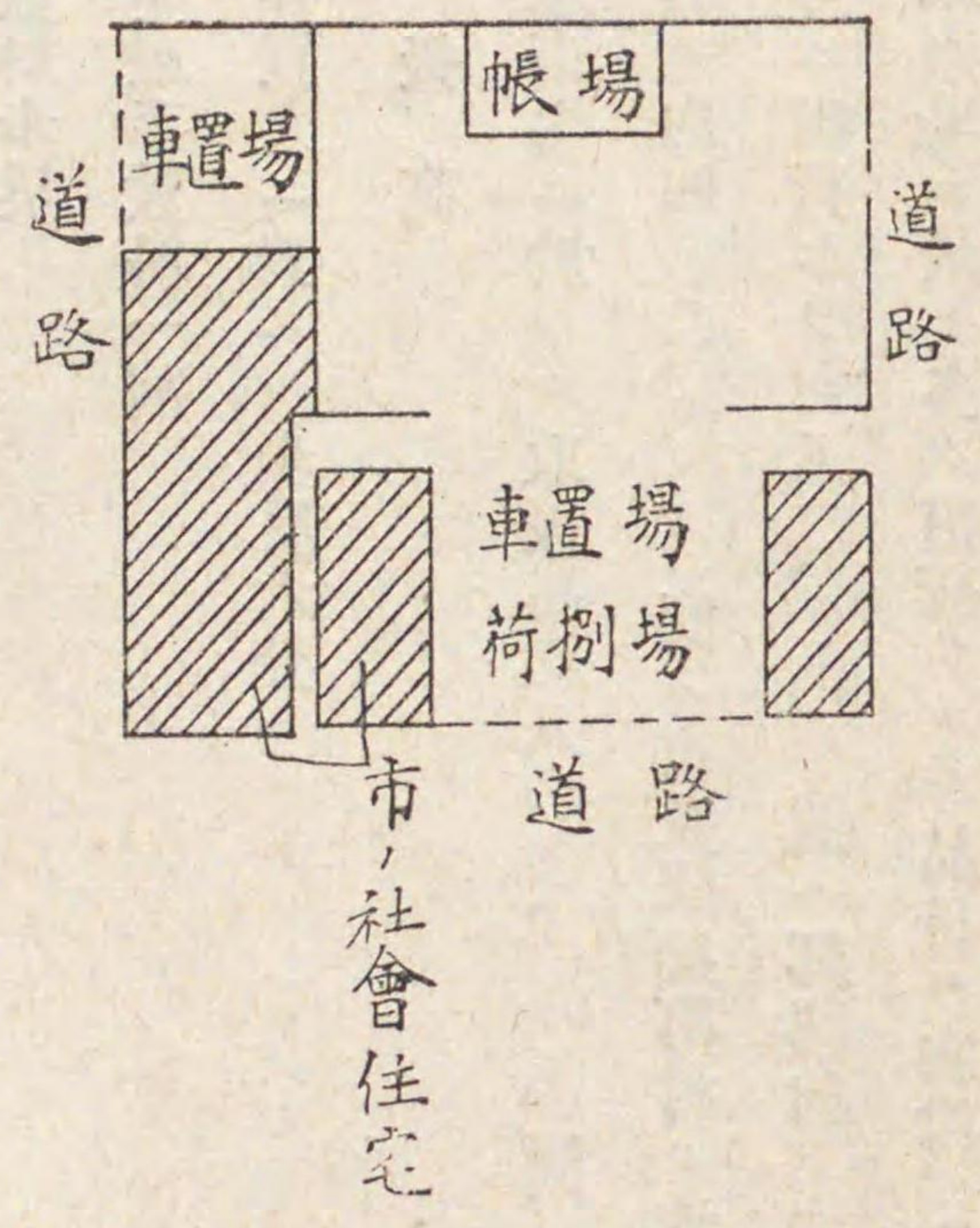
二、取扱品目

蔬菜、果實

三、市場ノ規模

市場敷地百三十二坪平家建ナリ

市場ノ前面ニ百坪西側ニ五坪ノ空地ヲ有シ車置場荷捌場ニ之レヲ充ツ



四、問屋、仲買其ノ他

問屋ハ前述セル如ク二軒ニシテ、仲買ハ總數四十五名ナリ此ノ仲買(附親)ニ附屬スル小  
賣(附子)百十二名アリ  
一日ノ平均買出人約百四十名ナリ

五、賣買方法並代金決済

全部問屋ニ對スル委託販賣ニシテ問屋ノ買付ニ係ルモノナシ問屋ニ對スル委託買付ニ付テ



ハ問屋ハ仲買人ニ買入ヲ委嘱シテ内輪ノ計算關係ニス

賣買方法ハ糶賣ニシテ糶上ノ方法ニ依ル

賣買代金ノ決済ハ

(イ) 問屋對仲買人間ハ月二又ハ三回ノ勘定トス

(ロ) 問屋對荷主間ハ賣買ト同時ニ仕切ル

(ハ) 仲買人對小賣間ハ現金制度ナルモ二、三日遅延スル場合多シ

### 六、手数料歩戻

問屋手数料一割

仲買人ニ對スル歩戻六分

### 七、取扱高

本市場ニ於ケル取扱高約八〇〇、〇〇〇圓(大正十二年度)

右ノ内四〇〇、〇〇〇圓ハ市及隣接町村ノ消費ニ係ルモノニシテ三二〇、〇〇〇圓ハ阪神地

方ニ出荷セラレ八〇、〇〇〇圓ハ郡部向トナル

本市場ニ最モ多ク出荷サル品目ハ密柑、筍、松茸ニシテ和泉、河内ヨリ來ルモノナリ

### 八、取引時間

本市場ノ取引時間ハ午後一時ヨリ二時又ハ三時ニ至ルモノニシテ午後市ナリ

### 九、市場ノ沿革

本市場ハ大正四年開始ニシテ明治四十四年三月大阪府令第十四號ノ市場取締規則ノ適用ヲ

受ケ府知事ノ監督ヲ受ク營業許可期限ハ大正十四年十月迄ナリ



### 三、和歌山市

#### 一、和歌山市ト消費經濟上一體ヲ爲スヘキ隣接町村

中之島村(海草郡)市ノ東北部ニ隣接ス……………	五、五〇四人
他ニ宮村(海草郡)ノ一部分アリ……………	
和歌山市……………	八三、四九八人

總計 八九、〇〇二人

(大正九年國勢調査ニ據ル)

#### 二、和歌山市ニ於ケル新鮮食料品ノ集散及消費ノ狀況

和歌山市ニ於ケル新鮮食料品ノ供給ハ和歌山市場協商會市場ノ一手ニ係ルト云フモ不可ナシ他ニ新鮮食料品ノ卸賣市場殆ントナク唯個人問屋(山京<sup>●</sup>問屋)アリテ果實ヲ取扱フモノアルニ過キス而シテ和歌山市ヨリ距ル一里ノ和歌ノ浦ニ和歌浦魚市場アリ本市場ノ取扱ニ係ル魚類ハ一方ハ和歌山市場協商會市場ニ於テ販賣セラレ他方ハ縣外阪神地方ニ移出セラル

集散及消費ノ數字ヲ示セハ次ノ如シ郡市場協商會市場ノ取扱量ニ基ク



蔬菜百萬圓 〔三十七萬圓(附近村ノ生産者ニ依ル立賣) 六十三萬圓(市場問屋扱)〕

果實二十六萬圓 〔六萬圓(附近村ノ生産者ニ依ル立賣) 二十萬圓(市中問屋扱)〕

和歌山市驛ヨリ南海線關西線ヲ以テ約百二十萬圓見當ノ青果ノ移出アルモ縣内各處ヨリ縣外各處ヘノ移出ニシテ市場取扱數量中ニハ含マス

鮮魚五百萬圓 〔二百萬圓(板店タル仲買人カ立賣ヲ爲スモノ) 二百萬圓(市場問屋扱)〕

鹽干魚五十萬圓(市場問屋扱)

卵七萬圓(市場問屋扱)

蔬菜及果實ハ殆ント市ノ消費ニ充テラレ、鮮魚ハ五百萬圓ノ取扱高中三百五十萬圓カ市ノ消費ニカカルモノニシテ百五十萬圓カ郡部ニ供給セラル鹽干魚ハ五十萬圓ノ中二十五萬圓ハ市ノ消費他カ郡部ニ供給セラル卵ハ全部市ノ消費ナリ

國勢調査人口品名

八三千人

消費額

一人當消費額

備考

當業者調査ノ數字ニ基ク(十二年中)

鮮魚	三、五〇〇	四二、一六	市場扱	五〇〇 <small>万円</small>
鹽干魚	二五〇	三、〇一	同	五〇
蔬菜	一、〇〇〇	一一、〇四	同	一一〇
果實	二六〇	三、一三	同	六〇
卵	七〇	八四	同	七

三、和歌山市ニ於ケル公設小賣市場

公設小賣市場ハ大正九年末ノ創立ニカ、リ現在五ヶ所アリ賣上高(大正十一年中)及創設費左ノ如シ

湊市場(七曲リ)	一一七、〇〇〇 <small>円</small>	五、三五六 <small>円</small>	一七〇
元博勞町市場(杉ノ馬場一丁目)	一一三〇、〇〇〇	四、六五三、三三〇	
鈴丸市場(北新五丁目)	一二九、〇〇〇	四、一〇五、〇二〇	
大橋市場(橋向丁)	一一〇、〇〇〇	四、〇〇三、二三〇	
吹上市場(洲崎丁)	一〇二、〇〇〇	二、七五三、六一〇	
計	五八八、〇〇〇	二〇、八七一、三六〇	



使用料一店舗ニ付七十錢以上一圓五十錢ニシテ現金ニテ徵收シ平均使用料ハ七十錢ナリ  
各市場ニ於ケル各品目ニ付テノ賣上高ハ添付書類參照

#### 四、和歌山市ニ於ケル市場

##### (イ) 和歌山市場協商會

###### 一、市場ノ所在地並名稱

本市場ハ和歌山市萬町南大工町東鍛冶屋町西ノ店ニ在リ和歌山市場協商會ト稱ス

###### 二、市場ノ規模並組織

市場ト稱スルモ街路ニ軒列セル商店街ニ過キササルヲ以テ特ニ市場設備ヲ有スルニアラス年  
中毎朝道路ヲ使用スルノミニシテ日覆ヲ有スル「アーケード」式ノモノナリ

此ノ市場ノ店舗先ノ延長間數三百六十二間ニ達ス  
組織トシテハ問屋、仲買人、小賣人、市場立賣人カ和歌山市場協商會ヲ組織シ市場ヲ維持  
スルモノニシテ共同市場ニ他ナラス

##### 三、市場協商會ノ組織

市場協商會ハ其ノ目的トシテ和歌山市場ノ繁榮ヲ圖リ又市場ト密接關係ヲ有スル村農產物

類ノ販路ヲ擴張發展セシメ且市場居住者ト市場立賣人トハ常ニ意思疏通セシメ互ニ親善ヲ  
圖ラムトスルニアリ而シテ市場ニ於ケル總テノ經營整理及執行方法ハ本會ノ司ルトコロニ  
シテ本會員ハ市場居住者ト市場關係ヲ有スル各村ノ市場立賣人並食果物問屋市場立賣人ヲ  
以テ組織ス但シ會員タラムトスルモノハ一村又ハ一組合ニテ十名以上ノ團結セシモノニシ  
テ協商會ノ決議ヲ經タルモノニ限ル  
本會協商委員ハ左ノ標準ニ依リ會員中ヨリ選舉ス

- 和歌山市場居住者ヨリ 五名
- 海草郡野崎村ヨリ 三名
- 同 中之島村ヨリ 二名
- 同 湊村ヨリ 二名
- 和歌山食問屋ヨリ 二名
- 其他ノ組合ヨリ各壹名

本會協商委員中ヨリ左ノ役員ヲ設置ス

- 會長 一名 (市場居住者ヨリ)
- 副會長 一名 (關係村ヨリ)



幹事 若干名 (市場居住者ヨリ三名關係村ヨリ若干名)  
監査役 二名 (市場居住者及關係村ヨリ各一名宛)

協商委員及各役員ノ職務ハ左ノ如シ

- 一 會長ハ本會一切ノ事務ヲ總理シ諸般ノ事項ヲ執行ス
- 一 副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其ノ代理ヲナス
- 一 幹事ハ會長ノ諮問又ハ協議ヲ受ケ市場經營又ハ日々ノ整理ニ就テハ其ノ意見ヲ述ヘ且庶務會計等ノ事務ヲ執ル
- 一 監査役ハ本會ノ收支ニ對シ之レカ監査ヲ爲シ且決算報告書ニ其ノ承認ヲ與フヘキモノトス

一 協商委員ハ本會ノ其ノ年度ニ於ケル收支豫算會議ニ參與シ且市場ニ於ケル重要ナル問題生シタル際はレカ解決ヲナスヘキモノトス

本會及市場ニ要スル經費ノ負擔ハ左ノ標準ニ因ル

市場居住者ヨリ 豫算額ノ約十分ノ三

關係村及倉問屋ヨリ 同 約十分ノ七

經費ハ各自分擔額ヲ前月二十五日迄ニ一括ニテ各協商委員ヨリ會長ノ許ニ納入ス本會員以

外ノ立賣人ニ對シテハ事務員ヲシテ經費ヲ徵收セシム又立賣人ノ名簿ハ其ノ出場スヘキ關係村ノ協商委員ニ於テ作製シ事務所ニ提出スルモノトス

#### 四、問屋、仲買

市場地居住者タル問屋ハ左ノ如シ

青物問屋	二三	鮮魚問屋	二三
鹽干魚問屋	七	乾物問屋	一三
砂糖商	三	日用品卸	六七
鶏卵	四	駄菓子屋	六
壽司屋	三	饅頭卸	六

仲買ハ鮮魚ノ販賣ニ付テノミ存シ所謂板店ト稱スル者五〇名アリ板店ハ賣買ニ際シテ用フル板ヲ問屋ニ預ケ置クヨリ其ノ名稱生シタリ而シテ板店ハ市場問屋ヨリ荷物ヲ買取ルニアラスシテ和歌浦市場ヨリ荷ヲ持チ來リテ市場ニ於テ賣買スルナリ

#### 五、市場立賣人

立賣商人ハ青果物ニ付テノミ認メラレ市場地居住者以外ノ者ナリ

市場立賣人ノ心得ハ大體左ノ如シ



- 一 立賣者置場ハ居住者ノ都合ニ依リ其ノ門前全部若クハ半部ヲ使用スル事但青物問屋業門前ハ季節ニ依リ當該居住者全部使用スルモノトス
- 二 各居住者ノ通路ハ如何ナル場合ト雖モ閉鎖セサル事
- 三 居住者ノ建築物、家屋ヲ毀損シ若クハ居住者ノ迷惑ヲ感スル行爲ヲナササル事
- 四 土砂ノ離散スヘキ物品ハ成ルヘク洗滌若クハ土砂ヲ除去スヘキモノトス
- 五 車上又ハ他人ノ妨害トナルヘキ設備ヲナシ販賣セサルコト但設備ヲ要スル販賣物品ハ此ノ限ニ在ラス
- 六 市場雜踏ノ時間内ニ車輛ノ通行ヲ停止ス其ノ時限ハ時々事務所ヨリ規定ス
- 七 物品販賣ノ目的ヲ以テ入場スル者ハ入場料金既納ノ證トシテ事務所ノ記號アル木札各一人一枚宛ヲ携帯スルモノトス若シ木札ヲ紛失シタルモノハ至急事務所ニ届出ツヘシ但協商以外ノ町村ヨリ出場スルモノ若クハ連續出市セサル者ニハ其ノ日附ヲ記シタル事務所發行ニ係ル一定ノ記號ヲ料金引換ヘニ携帯スルモノトス其ノ料金ヲ定ムル左ノ如シ
  - 一 草履賣一日金一錢五厘一ヶ月前納者ハ一ヶ月分三十五錢其他ノ物品ヲ販賣スルモノハ一日金三錢一ヶ月前納者ハ一ヶ月分金六十錢
  - 一 木札ノ携帯ヲ怠リタルモノニハ其ノ理由ノ如何ニ不拘其當日ノ料金ヲ徵收スルモノトス

八 前各項ニ違背シタル者及市場ノ秩序ヲ紊シ他人ニ妨害ヲ加ヘタル者若クハ風紀衛生等ヲ紊ス者ハ請願巡查ニ申告シ市場ヲ退去セラルヘシ又場合ニ因リ永久市場ノ出入ヲ禁止セラルルコトアルヘシ

九 市立者ニ意見アルトキハ其ノ居村又ハ組合ノ協商員ニ申出テ決シテ居住者ト單獨ニ意見ヲ交換セサルコト

市場立賣人ハ籍ヲ有スル者四〇〇名ナルモ日々市場立スルハ一二〇名位ナリ

立賣人ハ其ノ賣場トシテハ市場地居住者ノ店先ノ道路巾三尺ヲ無償ニテ使用スルコトヲ許サル

目下市場立賣人ト市場地居住者トノ間ニ紛争生シ移轉問題モ議論セラレツツアリ縣當局ハ市並商業會議所ニ對シ市場問題ニ關シ回答ヲ促シ居レリ問題ノ中心ハ元來和歌山市協商會市場ニ於テハ市場立賣人ハ實際ニ於テ市場經費ヲ納付シ居ラス協商會側トシテハ經費ヲ負擔セシメントシタルトコロ立賣人側ノ言ヒ分ハ自分等カ市場ニ於テ販賣スルニ因リ市場カ繁榮スト云フニアリテ經費納付ヲ肯ンセス而モ協商會側ニテ此ノ上其ノ主張ヲ貫ヌカントスルナラハ現在ノ市場ヲ移轉セシムルカ又ハ他ニ新市場ヲ別ニ開設セシムヘシト強硬ナル態度ヲ持シ居レリ於茲乎移轉問題モ現在場所ノ狹隘ナルニ鑑ミ論議セララルニ至レリ



六、一日平均買出人

約三五〇名ナリ和歌山市ニ於ケル小賣商、郡部並ニ近在ノ小賣商ナリ

七、賣買方法

鮮魚ノ賣買方法ハ殆ント糶賣ナリ鹽干魚ノ賣買ハ相對ナリ

青果物ノ賣買ハ糶賣及相對ナリ即チ市場立賣人ノ賣買ハ相對ナリ順序カ輻輳シタレトモ茲

ニ市場立賣人ト云フモ純然タル關係村ノ生産者タルモノト云フヘギニアラス勿論純粹ニ生

産者ニシテ立賣人タル者ナキニアラサレトモ中ニハ地方ノ商人ニシテ生産者ノ荷物ヲ買集

メ市場ニ來リテ立賣人トシテ賣買スル者ナキニアラス

市場居住者タル問屋商人ノ取引ハ一ヶ月信用取引ニシテ又郡部ニ對シテハ六ヶ月ノ信用取

引ナリ反之市場立賣人ノ取引ハ總テ現金取引トス

八、手數料並歩戻

鮮魚ハ問屋手數料一割小賣歩戻二分ナリ

青果物ハ問屋手數料八分小賣歩戻二分ナリ

九、市場ノ賣買ニ參加スル者

市場ノ賣買ニ參加スル者ハ市場居住者タル問屋ヲ初メトシ仲買、小賣、市場立賣人、一般

消費者ナリトス

十、賣上高

本市場ハ其ノ總賣上高トシテ市場居住者、仲買人並市場立賣人ノ賣上高ヲ合計スルニ約一

千二百萬圓(大正十二年度)見當トス

右ノ内譯ハ

百 萬 圓 (青 物)

六 萬 圓 (果 實)

五百萬圓 (鮮魚)

五十萬圓 (鹽干魚)

七 萬 圓 (卵)

其ノ他ノ分ハ日用品卸、雜貨、飲食物等ノ種々ニ亘ルモノノ賣上ナリ

右果實ノ取扱高ハ殆ント市場立賣人ノ取扱ニ係ルモノニ當リ問屋ノ取扱ヲ分ハ殆ントナシ

他ニ三十萬圓見當ノ取扱ハ市中問屋ノ取扱フトコロニ係ル

十一、市場ノ沿革

本市場ハ今ヨリ三百年ノ昔紀州藩主ノ青物魚類ノ買入ニ關シ青物ハ和歌山市萬町、魚類ハ



同市湊ノ指定商人ヨリ納入セシメタルニ始マル同商人ハ特別ノ保護ヲ受クルト同時ニ新シキ品ヲ納入スルヲ例トセルヲ以テ湊及萬町ヲ中心トシテ青物魚類ノ市場ヲ生シタリ其ノ後市内ニ散在セル各市場ハ萬町ニ集リ所謂萬町ノ名實ヲ備フルニ至レリ又湊市場モ東鍛冶屋町ニ移轉シ來リ現在ノ如キ市場ヲ形成スルニ至レリ

(□) 和歌浦魚市場(和歌山市ニ於ケル魚類ノ配給狀況ヲ考察スル上ニ於テ和歌浦市場ヲ併セテ知ルヲ要スル故之ヲ附記セリ)

一、市場ノ位置並其ノ組織

本市場ハ和歌山市ヲ距ル約一里ノ和歌浦町ニ所在シ魚問屋ノ共同賣場ナリ

二、取扱品目

鮮魚介

三、市場ノ規模

市場ノ敷地ハ六三六坪四合ニシテ別ニ市場建物ナク露天市場ニシテ海岸ニアリテ下ハ「コシクリート」ヲ以テ固メタリ

四、問屋、仲買其ノ他

問屋 五軒

仲買 二軒

一日ノ買出人ハ附近ノ商人約四百八十名和歌浦町ノ行商人約百七十名、板店(和歌山市場協商會ニ於ケル)約二十五名合計六百餘名ナリ

五、賣買方法並代金決済

市場ニ搬入セラルル魚荷ハ問屋ニ對スル委託販賣品ニ限ラレ市場ニ於ケル賣買方法ハ糶賣ニ依ル

賣買代金ノ決済ニ付テハ次ノ如シ

(イ) 問屋對荷主

賣買ト同時ニ仕切ヲナス

(ロ) 問屋對仲買人

現金取引ニシテ翌日勘定トス

(ハ) 仲買人對小賣人其ノ他ノ者

一定セスシテ順繰拂ナルアリ月二、三回ノ勘定ナルアリ要ハ得意信用等ノ關係ニ依ル

六、手数料並歩戻



問屋手数料一割

仲買歩戻ナシ

仲買人ヨリ和歌浦町行商人ニ對シ四分ノ歩戻ヲナス

七、取扱高

年 二、五〇〇、〇〇〇圓(大正十二年度)

右ノ内朝鮮ヨリノ入荷約六〇〇、〇〇〇圓ナリ

本市場ヘノ出荷地方トシテ最タルモノハ紀州沿岸、土佐、阿波及朝鮮等ナリトス

荷主ハ本市場ニ於テ値段ノ出來サル場合ハ電話ヲ以テ大阪、泉州、神戸地方ニ照會シ値段

高キ場合ハ其ノ地方若ハ湯淺方面ニ發送ス

右取扱高ノ中二百萬圓近クハ板店ノ取扱フトコロトナルナリ

四、姫路市

一、姫路市ト消費經濟上一體ヲ爲スヘキ隣接町村

姫路市ハ明治二十一年市町村制ノ發布ニ伴ヒ同二十二年四月市制施行同年八月市役所ヲ開廳シ市自治行政ヲ施シ今日ニ至ル、市ヲ中心トシテ道路四通シ山陰本線、播但線ノ主要驛ヲ占メ交通至便ニシテ中國ニ於ケル物貨ノ集散地ナリ、本市ト消費經濟上一體ヲ爲スト認メラルヘキ町村ハ次ノ七ヶ村ニシテ其ノ人口次ノ如シ。

姫路市	人口	面積
姫路市	五二、七〇〇人	四五〇萬坪

(大正十三年現在、同年城北村ヲ併合セリ)

水	城	花	高
水上村	城南村	花田村	高岡村
七、四一七人	六、〇〇九	四、〇七七	四、六三五



手柄村	二、九七〇
安室村	二、五七三
砥堀村	一、七九二
隣接七ヶ村合計	二九、四七三

大正九年十一月一日國勢調査ニ依ル人口

姫路市	四五、七四五
-----	--------

### 二、姫路市ニ於ケル新鮮食料品ノ集散及消費ノ狀況

#### (イ) 蔬菜及果實

本市ニ於テ消費サル、果實ハ其ノ殆ト全部カ他府縣ヨリ供給セラルルニ反シ蔬菜ハ飾磨郡内及市ト接續スル近村ニ於テ生産セラルルモノヲ主トシテ消費スル状態ニ在リ

蔬菜	
入荷額	三二〇、七四〇圓
出荷額	二八、一四〇圓
消費額	二九二、六〇〇圓
果實	
入荷額	三九六、六〇〇圓
出荷額	二二三、一五〇圓
消費額	一八三、四五〇圓

鐵道	一、七八二噸	一二四、七四〇圓	(千葉、福岡、福島、奈良、静岡)
陸路	四〇二噸	二八、一四〇圓	(明石其他)
鐵道	三、三〇五噸	三九六、六〇〇圓	(岡山、静岡、山形、三重、和歌山、廣島、愛媛)
陸路	五二七噸	六三、一五〇圓	(播但線倉吉其他)
陸路	一五〇、〇〇〇圓		(飾磨郡其他)

#### (ロ) 鮮魚及鹽干魚

鮮魚	
入荷額	一、〇三〇、八〇〇圓
出荷額	四二〇、〇〇〇圓
消費額	六一〇、八〇〇圓
鹽干魚	
入荷額	五七五、七五〇圓
出荷額	二一八、五〇〇圓
消費額	三五七、二五〇圓



(ハ) 鮮肉

本市生犢牛豚屠殺數次ノ如クニシテ殆ント市及附近町村ニ於テ消費サル大正十三年中ニ於テハ鐵道水運ニ依ル移出入ナシ

姫路市屠殺牛豚數(大正十三年中)

生牛	八〇六頭	二〇一、五〇〇圓
犢牛	一四五	二一、七五〇
豚	一三八	六、九〇〇
計		二三〇、一五〇

(二) 姫路市ニ於ケル青果、魚類、鮮肉ノ消費高

本市ノ青果、魚類及鮮肉ノ消費高ハ總高一、六七四、二五〇圓ニシテ一年一人ノ消費割合三七圓ニ〇錢ニ當ル

年消費高	一人當消費高	備考
二九二、六〇〇圓	六、五〇	國勢調査ニ依ル人口四萬五千トシテ算出ス

蔬 菜	二九二、六〇〇圓	六、五〇
果 實	一八三、四五〇	四、〇八
鮮 魚	六一〇、八〇〇	一三、五七
鹽 干 魚	三五七、二五〇	七、九三

鮮 肉	二三〇、一五〇	五、二二
計	一、六七四、二五〇	三七、二〇

備考 本項諸數字ハ姫路市調査材料並ニ市内當業者ノ研究ヲ參考トセリ(大正十三年中)

參考ノ爲メ大正十二年中姫路驛貨物發着噸數及大正十三年中姫路商業會議所調査ニ依ル貨物移出入數量ヲ舉ク

發 送 到 着

小口扱貸切扱計	主ナル着驛	小口扱貸切扱計	主ナル發驛
生 甘 藷	七 類 一 七	七 類 二 九	三 吳
生馬鈴薯	三三 七 三〇	二〇 一四二	二六二
生 野 菜	二五二 三七 二九	七一 六五	一、三六 大阪、佐野、神戸
鹽 干 魚	二五 元 二九	九五 三一	一、二六 兵庫、大阪、神戸
活 鮮 魚	四八四 二八 六二	一、〇九八 一、六九二、七七	下ノ關、長崎、岡山
鮮 肉	七 一三 二〇	九 一	九
牛	一、〇六〇 一、〇六〇	一、七五 一、七五	瀨戶、幡生、尾道
柑 橘	一五 二四 一八九	一五 三 一五	倉吉 尾道



其他ノ果物 五 一五 六

八五二、四二二、九六、神戶、畝傍、兵庫、櫻井

(大正十二年分貨物發着統計 神戶鐵道局調査)

大正十三年中食料品移出入數量(姫路商業會議所調査)

	移出	移入	移出	移入
生甘藷	一	三四五	鹽干魚	五四三 一、六二九
生野菜	四〇二	一、二八七	活鮮魚	四三八 二、六九三
生馬鈴薯	一	一五〇	牛	一、二五三 二、二二〇
柑 橘	一七一	九五	馬	三二六 一八五
其他ノ果物	三五六	三、二一〇		

(移出數量五十噸以上ノモノニ付調査セリ)

### 三、姫路市ニ於ケル公設小賣市場

姫路市公設小賣市場ハ大正八年八月市内本町ニ建設シ東部公設市場ト稱シタルヲ始メ大正十一年十月二月西魚町ニ西部公設市場ヲ増設セリ、其ノ附近住宅多キヲ以テ比較的成績良好ナルニ依リ北部公設市場ヲ防主町市營住宅地附近ニ増設計畫ヲ爲シ目下建築中ニシテ本年五月ヨリ開市スル見込ナリ

リ各市場ノ概況次ノ通りナリ

位置	敷地	建物	店舗數	賣上高
東部公設市場	姫路市本町 二二〇坪	一一〇坪	二三店	二四〇、三七九圓
西部公設市場	同 市西魚町 一八〇	一〇二	二二	二六五、五六五
北部公設市場	同 防主町	目下建設準備中		

#### 一、店舗及販賣品目

各市場ニ於ケル販賣品ハ白米、雜穀、薪炭、蔬菜、醬油、味噌、漬物、牛豚肉、鳥肉、鶏卵、砂糖、乾物、生魚、鹽干魚、果物、饅頭、食麵麩等ニシテ一店舗ハ間口二間奥行一間半ニ區劃ス

#### 二、市場設備

販賣店舗及事務所ノ他塵埃置場、便所ヲ設ケタル他特殊設備ナシ

#### 三、店舗使用料

各店舗建坪一坪ニ付月一圓五十錢トシ毎月二十八日限リ翌月分ヲ前納ス

#### 四、開市及休業日

開市時刻午前八時ヨリ午後七時迄



休業日一月一日

五、販賣價格ノ決定及販賣品ノ購入方法

本市場販賣人ノ販賣物品購入ハ各自個々ニ之ヲ行ヒ仕入價格ヲ市係員ニ報告ス、市ハ市内卸値ニ依リ標準卸價格ヲ決定シ之レニ依リ販賣價格ヲ指定シテ販賣セシム其ノ後ハ市價ノ騰落ニヨリ其ノ都度變更ヲ命ス、蔬菜ノ販賣人ハ農會及市町村ノ後援ニ依リ生産者ヲシテ直接販賣ニ從事セシム、現在蔬菜ノ販賣敷地ハ拂下ヲ爲シタル關係上常設ニ非サレトモ季節毎ニ市ハ生産者ヲシテ蔬菜ノ販賣ヲ許可シツ、アリ

六、各市場販賣高

東部公設市場賣上高(大正十三年中)

Table with columns for commodity types (品目) and months (一月 to 十二月). Rows include items like 米穀, 薪炭, 味噌漬物, 砂糖, 海産物, 昆布, 生魚, and 計. Values are listed for each month and a total for the year.

西部公設市場賣上高(大正十三年中)

Table with columns for commodity types (品目) and months (一月 to 十二月). Rows include items like 肉類, 生果野菜, 菓子, 荒物, 文具, 計, 白米, 薪炭, 味噌漬物, 牛豚鳥肉, 砂糖乾物, 生魚, 麵麩菓子, 昆布, 荒物, 文具, and 蔬菜. Values are listed for each month and a total for the year.

總計六五、五五、九七



本市公設市場賣上高ハ大正十三年中ニ於テ五〇五、九四五圓二〇五ニシテ同年現在人口五二、七〇〇人ニ對シ年一人平均購入高ヲ算出スルトキハ九圓七三錢ナリ、即

科 目	賣 上	計	一人當
賣上總高	東部市場 二四〇、三七九、二三五 西部市場 二六五、五六五、九七〇	五〇五、九四五、二〇五	九、七三
生 魚	東 部 二一、九九九、九二〇 西 部 二、一二三、〇〇〇	二四、一二二、九二〇	〇、四五
肉 類	東 部 一二、二六七、一五〇 西 部 二〇、四六二、〇九〇	三二、七二九、二四〇	〇、六二
生果 蔬菜	東 部 二九、七八八、四〇〇 西 部 三六、七五七、四一〇	六六、五四五、八一〇	一、二七
味噌 漬物	東 部 一三、一九九、一〇五 西 部 一五、八九五、〇一〇	二九、〇九四、一一〇	〇、五四
砂糖 乾物	東 部 五五、八五二、五〇〇 西 部 五九、〇〇八、七二〇	一一四、八六一、二二〇	二、一九
海 産 物	東 部 二、五六三、九五〇 西 部 三、八九〇、七五〇	六、四五四、七〇〇	〇、一一
其 他	東 部 一三三、一三七、二〇五 西 部 四、五五		

姫路市公設市場規程

第一條 本市公設市場ハ市民ノ生活ニ必要ナル日用品ヲ廉價供給スルヲ以テ目的トス

第二條 市場ニ於テ販賣スヘキ物品ノ種類概ネ左ノ如シ

白米、雜穀、薪炭、蔬菜、醬油、味噌、漬物、牛豚肉、鳥肉、鶏卵、砂糖、乾物、生魚、鹽干魚、果物、饅飽、食麵麩

第三條 市場ハ毎日午前八時ヨリ午後八時迄開場ス

但シ日ノ長短ニ依リ伸縮スルコトアルヘシ

第四條 市場ヲ分ツテ賣店室及蔬菜販賣所ノ二トス

賣店ヲ使用シテ出店スル者ヲ出店入トシ蔬菜販賣所ニ於テ販賣スル者ヲ販賣入トス

第五條 出店入ハ生産者若クハ身許確實且信用アルモノニ限ル

第六條 蔬菜販賣人ハ市町村農會ノ推薦シタル者又ハ本市指定ノ商人ニ限ルモノトス

第七條 出店入タラントスル者ハ住所氏名、商品ノ種類、出店期間ヲ記シ市ヘ願出テ許可ヲ受クヘ



シ出店期間ハ三ヶ月以上一ヶ年以内トス但シ滿期出願スルヲ妨ケス

第八條 販賣品ニハ必ス正札ヲ附シ現金取引トシ一切割引懸賣ヲ爲スコトヲ得ス其ノ價格不當ト認ムルトキハ之ヲ更正セシム

官公署、學校病院等ノ購買ニ對シテハ市長ノ承認ヲ經テ懸賣ヲ爲スコトヲ得

第九條 出店人及販賣人ハ毎月三回以上市ノ指定期日ニ販賣品種毎ニ價格ヲ届出ツヘシ

第十條 出店人及販賣人ハ毎日品目毎ニ當日ノ賣上金高ヲ市ニ届出ツヘシ

第十一條 出店人ハ休業スルコトヲ得ス 但止ムヲ得サルトキハ前日迄ニ市ノ承認ヲ受クヘシ

第十二條 出店人及販賣人ハ腐敗其他衛生上有害ト認ムルモノヲ販賣スルコトヲ得ス

第十三條 賣店ニ特別ノ設備ヲ爲サントスルトキハ市ノ承認ヲ受クヘシ

第十四條 出店人ハ市ヨリ指定セラレタル賣店ヲ他ニ轉貸シ若クハ其權利ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得ス

第十五條 市ニ於テ必要アルトキハ承認シタル賣店ノ使用ヲ停メ之ヲ返還セシムルコトアルヘシ

第十六條 出店人及販賣人ハ其殘品ヲ藏置スルコトヲ得ルモ市ハ其ノ保管ノ責ニ任セス

第十七條 出店人及販賣人ハ前各條ノ外市場ニ關シ發スル命令其他係員ノ指示事項ハ確實ニ之ヲ遵守

スルヲ要ス前項ノ規定ニ從ハサルモノハ出店ノ許可ヲ取消シ又ハ退場セシムルコトアルヘシ

シ

公設市場使用料條例 大正十年四月條例第十七號

第一條 本市公設市場ヲ使用シテ出店スル者ハ本條例ノ定ムル使用料ヲ毎月前納スヘシ但市長ニ於

テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ之ヲ輕減又ハ免除スルコトアルヘシ

第二條 使用料ハ販賣ノ物品ヲ參酌シ左ノ範圍内ニ於テ市長之ヲ定ム

一坪 一ヶ月 金貳圓以内

第三條 已納ノ使用料ハ之ヲ還附セス但市長ニ於テ相當ノ事由アリト認メタルトキハ其ノ全部又ハ

一部ヲ還附スルコトアルヘシ

第四條 本條例ニ違反シタルトキハ使用許可ヲ取消スコトアルヘシ

第五條 本條例施行ニ必要ナル規程及施行期日ハ市長之ヲ定ム

公設市場使用料條例施行細則 大正十四年四月告示第五八號

第一條 公設市場ノ使用料ハ一坪ニ付一ヶ月壹圓五十錢トス

第二條 使用料ハ毎月二十八日限り翌月分ヲ前納スヘシ

但シ許可ヲ受ケタル月ノ使用料ハ許可ノ日ヨリ五日以内ニ納付スヘシ

第三條 使用料ハ坪數一坪未滿ハ一坪トシ一坪以上ノ端數ハ四捨五入ニ依リ算定シ使用日數一ヶ月



未滿八日割（一ヶ月ヲ三十日トシ）ヲ以テ計算ス

附 則

本則ハ公設市場使用料條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

#### 四、姫路市ニ於ケル市場

##### (イ) 姫路農水産食品市場

###### 一、市場ノ名稱及位置

名稱、姫路農水産食品市場ト稱シ姫路市坂元町一七番地ニアリ。即チ市ノ稍中央ニ位シ鐵道ニ依リ市場ニ入荷スル貨物ハ姫路驛ヨリ配達サレ、四國及縣下沿岸ヨリ入荷スル柑橘等ハ飾磨港ニ陸上ケシ荷車ニ依リ市場ニ搬入ス

###### 二、取扱品目

鹽干魚及果實、蔬菜ヲ取扱ヒ一部乾物及生魚ヲモ販賣ス

###### 三、組 織

問屋業者八名集團シテ共同經營ス、本市場ニ出入スル仲買人約四、五十名アリ  
問屋業者八名ハ別ニ共同競賣上ノ資本金トシ一名壹萬圓宛出資シ敷地及建造物其他ノ已拂

金ハ各自均等ニ支拂濟ニシテ自己相對販賣ニ要スル資金ハ市場資本以外トス

###### 四、規模設備

市場敷地ハ東西二十間南北二十二間總坪數四百十餘坪ニシテ中央幅五間奥行二十二間ノ空地ハ通路及貨物積卸場ニ充テ其ノ兩側ニ奥行七間半間口二十二間ノ二階造リ家屋ヲ建築シテ競賣場、市場事務所及各問屋ノ店舗、商品置場トシ本市場外ノ姫路城外濠水面官有地三間ニ二十二間約六十坪ヲ借受ケ石材及木材ヲ以テ平地並ニ掛出床張ヲ爲シ商品整理及荷車又ハ空箱籠ノ收容場トシ市場内ニ排水路汚物溜塵埃置場等ヲ設備ス  
市場面積 四百十坪

他ニ借地水面六十坪

建物敷地 二百六十坪

通 路 百 坪 (幅五間奥行二十二間)

車置場 六十坪

店舗、市場通路兩側ニ階造リ家屋ヲ間口四間宛ニ區劃シ兩側十店舗トス、其ノ中八店舗ハ各個問屋ノ店舗及商品置場トシ残り二店舗ノ中一店舗ハ市場事務所他ノ一店舗ハ市内問屋十四人ノ賣場トシテ使用セシム



五、出荷者

本市場ニ出荷スル海産物ノ出荷者ハ長崎、福岡、大分、宮崎、愛媛、高知、和歌山、千葉、福島、宮城、島根、鳥取、山口、石川、福井ノ各縣下ニ亘リ出荷品ハ殆ント鐵道ニ依リ入荷ス

農産物ノ出荷者ハ柑橘ハ三重、和歌山、廣島、愛媛ニ亘リ、梨、桃ハ岡山、愛知、愛媛、静岡各縣下ノ生産者ニシテ蔬菜ハ福島(午莠)愛媛、大分、長崎、愛知、長野、奈良(西瓜)ノ各縣ニ亘ル、葉菜類ハ市外及飾磨郡下ニ於ケル生産者ニ依テ出荷サレ、筍、胡瓜、松茸等ハ本市場ニ出荷スル他、他ノ地方ニモ出荷ス

是等出荷者ノ員數ニ付テハ生産及漁獲ノ關係上毎年一樣ナラス概數ニ付テモ推シ難シト言フ  
毎日市場ニ出荷スル出荷者員數ハ約百五六十名ニシテ中荷車百臺前後、自轉車五六十臺ニ達ス

六、問屋

市場ヲ經營スル八戸ノ問屋業者ハ主トシテ委託品ニ付袖中及算盤ヲ用ヒテ相對取引ヲ爲シ買付品ハ極メテ少ク蔬菜及生魚ノ二種ニ付テハ委託者ノ希望ニ依リ糶賣ヲ爲ス

問屋員數。八名

- ⑤ 横道榮一郎 福前田時藏
- 舎大西安次 下三和藤次
- 下高野豊吉 列高島熊吉
- ⑥ 筒井嘉右衛門 列吉田萬治

外ニ本市場外ニ居住スル問屋ト稱スル者十四名アリ舊來同業者ナル關係ヨリ市場糶賣場ヲ無代使用セシメ委託品ノ糶賣ヲ爲サシムレトモ其ノ間何等ノ規程取極等無シ

資格。別ニ定メ無シ單ニ營業上不正ナル行爲ヲ爲ササルモノハ本組合ニ加入セシメ得ト云フ

加入金及信認金等ナシ

問屋組規約。

特別ニ制定セル規約ナク、單ニ市場内居住問屋八戸ニ依リ取極メラレタル營業細則及業務規程ニ依リテ營業ヲ爲シツツアリ(賣買ノ項參照)

荷主ニ對スル負擔。

特別ノ負擔ナシ、農會斡旋ニ依リ農産品ヲ出荷セルトキ荷主ノ要求ニ依リ荷主ト交渉ノ上等別ノ手数料ニテ取扱ヒ又ハ運賃ノ一部ヲ負擔スル場合アレトモ通常ハ然ラズ



店舗。各店舗共間口四間奥行七間

一店舗従業員。二―四名

委託販賣手數料 百分ノ八、中三分ヲ仲買人ニ共戻ス

七、仲買人

市場ニ出入スル仲買人三十六名アリ

仲買人ハ需要者ノ注文ヲ受ケ問屋ヨリ買受タル物品ヲ直接需要者及小賣業者ニ販賣ス時季ニヨリ他地方ニモ出荷スル場合アリテ大部分小賣兼業者ナリ

資格。信用アルモノニシテ百圓ノ積立金ヲナシタル者ハ仲買人トナルコトヲ得、其ノ他加入金又ハ信認金等ノ定メナシ

八、買出人

現金支拂確實ナル者ハ何人モ市場ニ出入シテ買出ヲ爲スコトヲ得、毎日出入スル買出人ハ百名乃至百五十名ニシテ荷車四、五十臺、自轉車七、八十臺ノ出入アリ、一人買受高ニ付テハ別ニ制限ナク稀ニ一日二、三百圓位購入スル者アリト稱ス

九、運賃

他縣ヨリ入荷スル貨物ノ運賃ハ鐵道賃及配達賃ニシテ驛ヨリ配達サル、市内運賃ハ鐵道公

認運賃ヲ標準トシ左ノ如シ

石油箱一ケ 六 錢 十貫物 七、八 錢

百斤迄 十 錢 百斤以上 十五錢以上

一〇、賣買高

大正十一年中賣上高

總計 六六〇、九〇〇圓

内 譯 競賣ノ部

蔬 菜 四六、五〇〇圓

生 魚 七、五〇〇圓

相對販賣ノ部

果 實 三〇五、〇〇〇圓

乾 魚 一一二、五〇〇圓

乾 物 八二、〇〇〇圓

鹽 魚 五五、二〇〇圓

蔬 菜 五一、二〇〇圓



生魚 一、〇〇〇圓

本市場取扱總高ニ對スル四割ハ市内ニテ消費サレ其他ハ宍粟郡、山崎、瀧野、曾根、高砂、河西郡飾磨港ニ再ヒ出荷サル、モノニシテ其ノ大部分ハ荷車、自動車、自轉車ニ依リ一部汽車便ニ依リ搬出ス

一、開市及休業日

市場開市時刻 午前六時開市午前十時前後閉市

休業日 一月一、二、三日ノ三日間

二、賣買方法

市場ニ於ケル賣買方法ハ左ノ規程ニ依リ行フ

營業細則及業務規定

一、市場ニ於テ取扱フ商品ノ種類ハ農産物、水産物、乾物、漬物等ノ食料品ニシテ蔬菜生魚ノ二種ハ競賣ト爲シ得ルモ其他ノ種類ハ相對販賣ヲ爲スコト

二、市場ニ於テ競賣ニ付スル商品ハ一定ノ場所ニ配列シ總テ之レカ検査ヲ行ヒ腐敗物及有害物ト認ムルモノハ賣買ヲ禁止ス

検査終了セハ競賣場ニ配列シ順次賣却スルモノトス

三、市場參集者ハ當市場規約及食料品市場取締規則並道路取締規則ヲ遵守セサル時ハ入場ヲ拒絶ス

四、當市場ハ午前六時開市シ午前九時閉市ス但シ相對販賣ハ時間ニ制限ナシ

五、市場内ハ毎日數回掃除シ汚物ノ取除ニ注意シ市場内外ノ清潔ヲ保持ス

六、當市場ハ出荷主ニ對シ即日支拂ヲ爲ス  
販賣手数料ハ百分ノ八トシ中三分ヲ仲買人ニ口錢トシテ歩戻ス

七、市場資金ニ不足ヲ生セシトキハ經營者各自ニ支出シ市場ノ名義ニテ他人ニ資金ノ借入ヲ爲ササルコト  
毎年六月、十二月ニ收支計算ヲナシ利益金ハ經營者均等ニ分配シ損失金ヲ生スルトキハ經營者均等ニ割當支出スヘキナリ

八、當市場ニテ自己相對販賣ヨリ收得スル手数料金ハ各々自己ノ所得トシ損失金モ亦同シ(以上)

九、大正八年十二月二十六日開市許可  
期間 大正十三年十二月三十一日迄



再許可 大正十四年一月一日ヨリ向フ五ヶ年間繼續許可ヲ受ケタリ

問屋荷主間ニ於ケル賣買方法ハ委託販賣ノ方法ニ依リ販賣代金ハ現金ニテ即時支拂ヲ受ケルカ場合ニ依リ送金セシムルコトアリ、問屋ト問屋間ノ賣買ハ相對ノ方法ニ依リ行ハレ月末又ハ即時ニ代金決済ヲ爲ス、問屋仲買人間ニ於ケル賣買ハ殆ント相對取引ニシテ現金支拂ヲ爲ス定アルモ多クノ場合一ヶ月拂トナルコト多シ、問屋小賣人間ノ賣買ハ相對及糶賣ノ方法ニ依リ全部現金支拂ヲ爲ス規定ナルモ行ハレス一部貸付ヲ行フ、仲買小賣人間ハ相對又ハ注文取引ニシテ支拂ハ現金取引トス

市場名宛ニテ入荷スル委託品及競賣品ノ賣買ハ市場内中賣場ニ於テ行ヒ毎年六、十二月ノ二回收支計算ヲ爲ス、開市以來常ニ損失金ヲ生シ經營者八名ニテ均等支出ヲナセリト云フ

### 一三、市場ノ金融制度

整然タル金融制度存セス經營者八名ノ積立金（現在三萬餘圓）ノ金融ヲ行フ他各個別々ニ銀行其他ヨリ金融シツツアリ

大正九年開設ニ要セル費用約七萬圓

（内地買收費坪平均五十圓、當時）

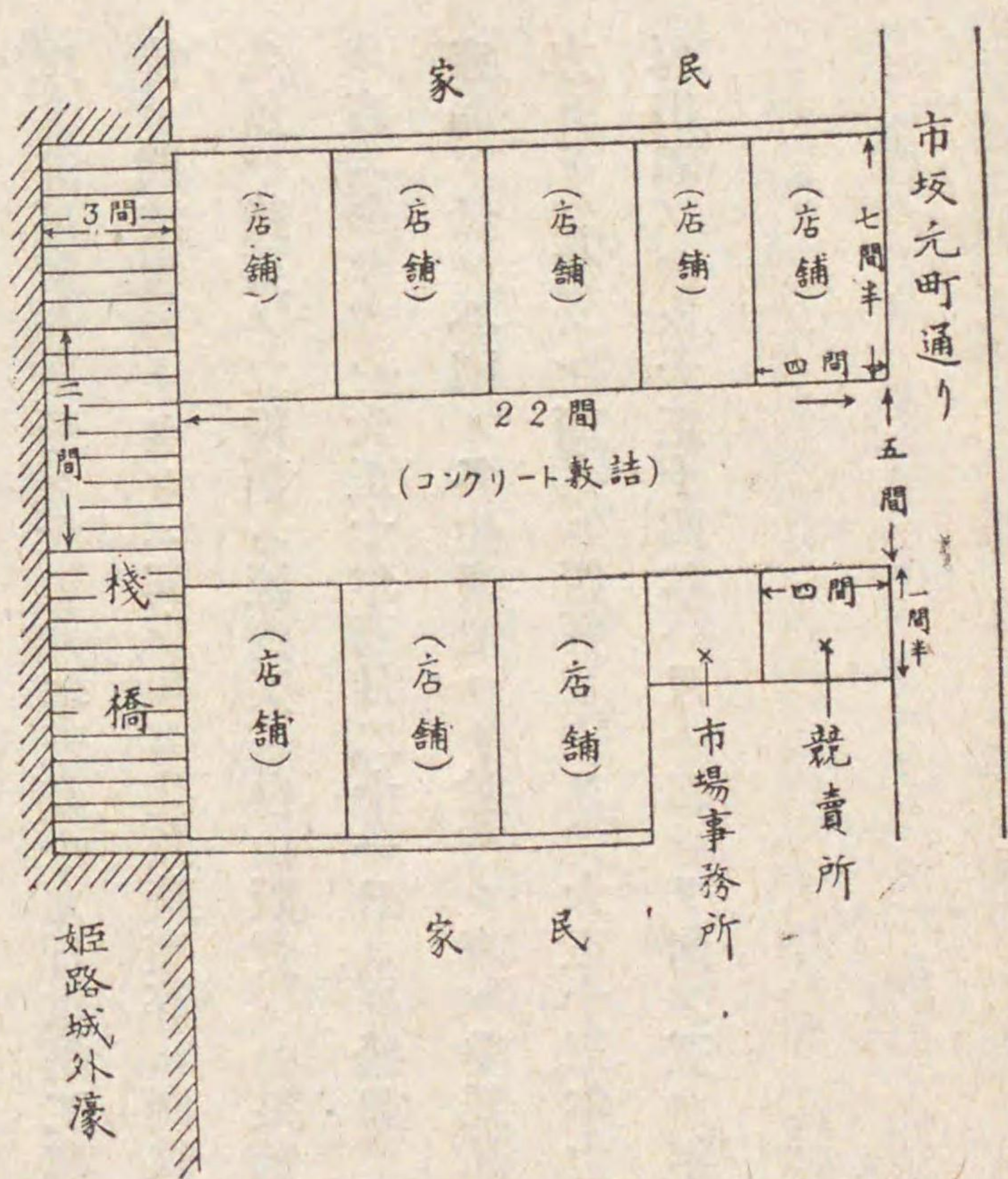
（現在地價坪百圓乃至百四、五十圓）

### 一四、沿革

姫路市ニ於テ數十年來青果物及海產物類ノ委託販賣業者八名ノ共同經營ニテ食料品市場ノ設立ヲ企テ大正六年中現所在地ヲ買收シ大正八年三月五日付ヲ以テ果實、蔬菜、鹽干魚、生魚、乾物等ノ食料品定市場設立ヲ出願セシニ同年十二月二十六日縣指令第一九二三號ヲ以テ許可指令ヲ受ケ大正九年三月十九日建築工事落成届出ヲナシ同年五月二十日検査濟ヲ待チ開業セントセシニ同市場ハ生魚蔬菜等ニ制限サレシ故他種類ノ追加出願ヲ爲セシ結果生魚、蔬菜ノ二種類ハ競賣又ハ自由販賣トシ果實、鹽干魚其ノ他ノ水產物ハ相對販賣ヲ爲ス事ニ命セラレ大正十年三月二十一日ヨリ營業ヲ開始シ、問屋ハ市内及本市接續農村ノ生産品ヲ始メ全國ノ各生産地ヨリ送荷シ來ル委託品ヲ販賣シ仲買人ハ市内及附近町村其他諸方ヨリ參集スル商人ニ販賣シタリ、大正十三年十二月三十一日ヲ以テ許可期間滿了セル爲再出願ヲナシ大正十四年一月一日ヨリ向フ五ヶ年間繼續認可ヲ受ケタリ



一五、市場略圖



(口) 株式會社姫路海產物青物定市場

一、市場ノ名稱及位置

名稱、株式會社姫路海產物青物定市場

位置、姫路市福中内新町六九番地ノ十

二、取扱品目

魚鳥、青物及乾物

三、組織

株式會社

資本金 三萬圓 (内一萬八千七百五十圓拂込濟)

(六百株 一株五十圓)

株主七名、社長 大多庄右衛門

四、規模設備

市場敷地、百七十五坪

通路 (空地) 三十四坪

建物 百四十一坪

事務所 (二階建) 二十坪

賣場 (上屋アル二階建) 百十三坪五

冷蔵庫 (倉庫代用ノモノ) 七坪五



バナ、醱酵室(三室) 十五坪  
KK KK  
 (一室ハ2×3深サ六尺、一室ハ1.5×2深サ九尺)  
 其他ノ設備ナシ

五、出 荷 者

本市場ニ出荷スル海産物ノ出荷者ハ兵庫、山口、鳥取、島根、九州北部、茨城、北海道ノ各府縣ニ亘リ出荷品ハ殆ト鐵道ニ依リ市場ニ送荷ス  
 農産物ノ出荷者ハ千葉、山形、廣島、岡山、静岡、福岡ノ諸縣下ニ亘リ何レモ鐵道便ニ依リ入荷ス  
 毎月本市場ニ出荷スル者月平均二百五、六十名乃至三百名ニシテ出荷品ハ殆ント全部汽車積トシ運送店ニヨリ市場ニ配達ス

六、問 屋

會社ハ問屋業ヲ營ミ荷主ヨリ海産物農産物ノ委託ヲ受ケ糶賣及相對賣ノ方法ニ依リ買出人ニ販賣ス、會社ノ收受スル販賣手数料ハ一割ニシテ其ノ中買出人ニ對シ三步ヲ割戻ス、會社ハ荷主ニ對シ閉市後直チニ手数料ヲ差引仕切金ヲ交付スル規程ナルモ行ハレス、普通月二回(十日、二十五日)ニ各荷主毎ニ精算シ送金ス、買出人ニ對スル販賣ハ相對又ハ糶買ニ依リテ行ハレ代金ノ精算ハ毎月末拂トス

七、買 出 人

本市場ニ出入シテ買出ヲ爲スモノ毎日百三、四十名アリ、其ノ中俗ニ仲買人ト稱スル仲買兼小賣業者ハ市内ニ七十名、市外ニ四十名アリ、其他ノ買出人ハ小賣業者ニシテ隨時市場ニテ買出ヲ爲ス者ナリ  
 買出人ノ買受高ニ付テハ別ニ制限ナシ、一人一日買受高百四、五十圓乃至二百圓ニ達スルハ多キ方ニシテ普通ハ日々百圓内外ノ購入ヲナス、毎日市場ニ出入スル荷車四、五十臺ニシテ自轉車五、六十臺、其他擔キ籠ヲ以テ買受品ヲ搬出ス

八、賣 買 高

本市場ニ於ケル賣買高ハ次ノ如シ

大正	七年	五七、四六七、二一
同	八年	七〇、八一七、八二
同	九年	七三、〇〇四、九〇
同	十年	八六、九七五、五〇
同	十一年	九八、六三五、〇〇



大正十三年中見積高 約十萬圓ト云フ

市場取扱品ノ主ナル仕出地及賣捌方面ハ次ノ通り

仕出地	入荷品目	賣捌方面
三—四月	海産物—山口縣、其他 陸産物—千葉、山形	鮮、鹽干魚 牛蒡、苹果 市內六分 飾磨郡二分 其他二分
五—六月	海産物—縣下、鳥取、島根 陸産物—廣島、岡山	鮮、鹽干魚 胡瓜、夏橙 同、右
七—八月	海産物—縣下、北海道 陸産物—靜岡、岡山	鮮、鹽干魚 梨、桃 市內五分 飾磨郡三分 其他二分
九—十月	海産物—九州北部、北海道 陸産物—靜岡、岡山	同 市內四分 飾磨郡二分 其他四分
十一—十二月	海産物—九州、茨城 陸産物—福岡、千葉	鮮、鹽干魚 牛蒡、柿、苹果 市內六分 飾磨郡二分 其他二分
一—二月	海産物—九州、茨城 陸産物—福岡、千葉	鮮、鹽干魚 牛蒡 市內七分 飾磨郡二分 其他一分

九、市場開閉時及休業

開市時刻 午前六時 閉市 午前九時

休業日 正月三日間

一〇、賣買方法

市場ニ於ケル賣買ハ糶賣及相對ノ方法ニ依リ行ハル、會社ハ荷主ノ委託品ヲ販賣所ニ配列シ營業主ノ指揮ヲ待ツテ買受人ハ販賣品ノ周圍ニ集團シテ賣買ヲナシ從業員ニ依リテ賣上ノ記帳、商品ノ引渡ヲ爲ス

一一、生産者ノ直接販賣

本市場ハ大正元年開設以來其ノ成績擧ラス大正六年悲況ノ極ニ達セル中生産者ヲ保護スル意味ニ於テ市場内販賣所ノ一部ヲ貸與シテ生産者ノ直接販賣ヲ爲サシメタリ、從來之カ慣例トナリ現在ニ於テハ飾磨郡揖保郡下ニ於ケル生産者約二百名ヲ以テ生産者ノ組合ヲ組織シ毎日交互ニ生産品ヲ市場ニ搬入シテ市内小賣商人其他ノ需要者ニ對シ直接販賣ヲ爲ス、年賣上見積高八萬圓内外ニシテ毎日出荷スル生産者五、六十名アリ、殘品ハ各自市内ヲ引賣シテ歸路ニツク、會社ハ市場販賣所使用料トシテ一ヶ月八十圓ヲ納付セシム

一二、沿革



大正元年十一月資本金參萬圓ヲ以テ成立セル市場ニシテ大正二年五月十六日ヨリ向フ十ヶ  
年間ノ營業許可ヲ受ケタリ、其ノ後大正六年七月ニ至リ成績舉ラス會社ハ解散スルノ已ム  
ナキニ至レル以テ現在ノ社長大多庄右衛門他六名ハ土地、建造物等一萬圓ヲ以テ引受ケ營  
業ヲ繼續シ今日ニ至レリ

營業許可期限大正二十二年二月十五日迄

一三、營業報告

第二十三期 (自大正十二年九月 至大正十三年三月)

未拂込株金	一一、二五〇、〇〇〇	資本金	三〇、〇〇〇、〇〇〇
土地建物	八、七三六、七七〇	法定積立金	一一〇、〇〇〇
什器	五八〇、〇二〇	準備積立金	七〇、〇〇〇
賣掛金	一四、八五二、〇五〇	未拂金	一三〇、一五三
現金	二五〇、五五〇	繰越益金	三、六八五、七九七
		銀行	一、六四六、六九〇
		利益金	一六、七五〇

合計 三五、六六九、三九〇 計 三五、六六九、三九〇

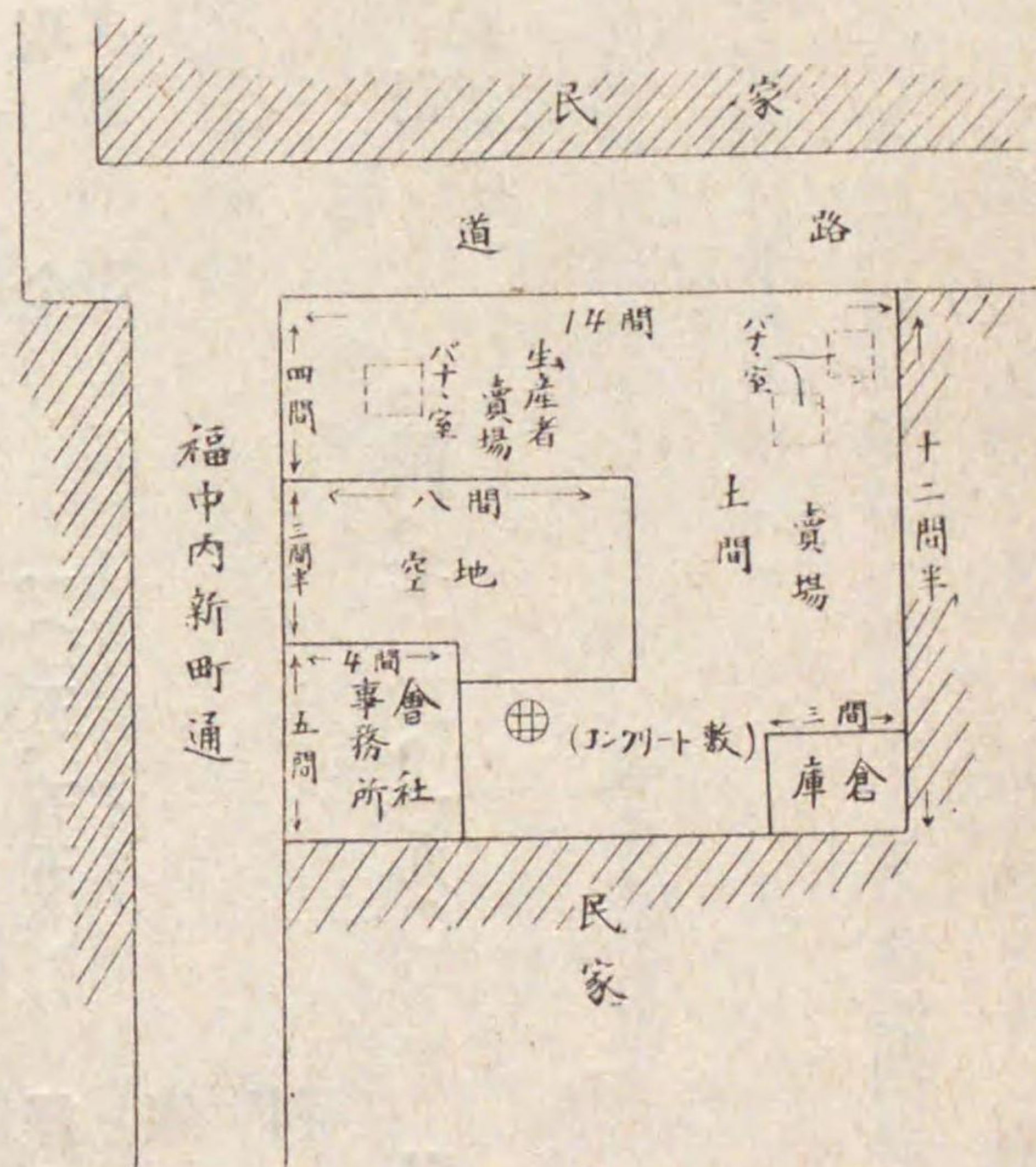
第二十四期 (自大正十三年三月二十五日 至大正十三年九月二十五日)

未拂込株金	一一、二五〇、〇〇〇	資本金	三〇、〇〇〇、〇〇〇
土地建物	八、七三六、七七〇	法定積立金	一一〇、〇〇〇
什器	五八〇、〇二〇	準備積立金	七〇、〇〇〇
賣掛金	一四、〇五〇、八五〇	未拂金	五〇、八五三
現金	一〇五、五五〇	繰越益金	三、七〇二、五四七
		銀行	七七四、二六〇
		利益金	五、五三〇

計 三四、七二三、一九〇 計 三四、七二三、一九〇



一四、市場略圖



五、姫路海産物青物定市場規程

一、取引商品ノ種類

第一條 當市場ニ於テ取引スヘキ商品ノ種類ハ魚鳥、青物、乾物トス

二、賣買取引方法

第二條 商品ハ總テ競賣ニ付シ取引スルモノトス

但シ情況ニ依リ普通賣買取引ノ方法ニヨルコトアルヘシ

第三條 荷主營業主及青物商人以外ノ者ハ其ノ賣買取引ニ干與スルコトヲ得ス

第四條 當市場ニ關スルモノハ本規程ニ基キ誠實ヲ本旨トシ本規程ヲ遵守ス可ク規則ニ違反シ又ハ

市場ノ妨害ヲナシ或ハ不正ノ所爲アリト認ムルトキハ直ニ入場ヲ拒絶スルコトアルヘシ

三、商品取扱方法

第五條 開市ノ定時限ニ至レハ各自所定ノ場所ニ商品ヲ配列セシメ營業主ノ指揮ニテ一定ノ場所ニ

集合シ賣上記帳ニ着手シ賣買ニ従事スルモノトス

第六條 商品ハ取引完了ノ上現場ニ於テ即時引渡ヲ爲スモノトス

四、市場開閉ノ日時

第七條 毎日午前六時ヨリ午前九時マテトス

第八條 商品ニ依リテハ着荷ノ都度各仲買人ニ通知シ隨時取引ヲ爲スコトアルヘシ

五、清潔保持方法

第九條 商品ハ營業主之ヲ検査シ腐敗又ハ有害物ト認知シタルトキハ直ニ之カ賣買ヲ中止シ荷主ニ

返付スルモノトス



第十條 市場内ハ毎日三回洗滌掃除シ汚水ノ搬出、腐敗物ノ取棄方ニ注意シ常ニ場内ノ清潔ヲ保持スルコトヲ勉ムベシ

第十一條 營業主ハ清潔擔當者ヲ命シ充分ニ清潔方法ヲ講スヘキモノトス

第十二條 總テ商品ハ仲買人ヨリ毎月末限其月中ノ賣上金額ヲ計算シ割戻口錢ヲ控除シ支拂ヲ受クルモノトス

荷主ニ對スル仕切金ハ即金ニテ閉市後直ニ手数料ヲ控除シ支拂ヲナスモノトス

六、手数料額並ニ割戻口錢

第十三條 商品販賣手数料ハ賣上金額ノ十分ノ一トス

割戻口錢ハ賣上金額ノ百分ノ三トス

附 則

第十四條 本規程ノ改正追加等ハ監督官廳ノ認可ヲ受クルモノトス

以上

### 六、岡山市

#### 一、岡山市ト消費經濟上一體ヲナスヘキ隣接町村

人口

○岡山市	.....	二二四、二四九人
牧石村	.....	三、二〇三
横井村	.....	三、四一三
○平津村	.....	一、九一二
大野村	.....	二、七六一
今村	.....	二、三七八
芳田村	.....	二、一五五
○福濱村	.....	四、〇四三
○操陽村	.....	一、三〇〇
○平井村	.....	二、二一八



○宇野村……………二、四八九  
 ○三蟠村……………二、一〇五

都市計畫地域(○印)

合計 一四二、二二六  
 人口計 一二六、四〇四  
 (大正十一年末現在)

二、岡山市ニ於ケル新鮮食料品ノ集散及消費ノ狀況

(イ) 入荷高

	旅荷	地廻	計	上欄ノ内市場取扱
鮮魚	一、八〇〇 <small>千円</small>	七〇〇 <small>千円</small>	二、五〇〇 <small>千円</small>	二、五〇〇 <small>千円</small>
鹽干魚	五〇〇	一〇〇	六〇〇	—
蔬菜	三〇〇	八〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇
果物	六〇〇	一、四〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
計	三、二〇〇	三、〇〇〇	六、二〇〇	五、五〇〇

(ロ) 消費及移出高

	移出高	消費高	人口一人當消費高
鮮魚	七〇〇 <small>千円</small>	一、八〇〇 <small>千円</small>	一二、六五 <small>円</small>
鹽干魚	一〇〇	五〇〇	三、五一
蔬菜	一〇〇	一、〇〇〇	七、〇三
果物	五〇〇	一、五〇〇	一〇、五四
計	一、四〇〇	四、八〇〇	三三、七三

備考 一、前二表共當業者ノ意見ニ依ル

二、大正十二年中ノ調査ナリ

大正十二年岡山驛發着噸數調

	發		送		到		着
	噸數	主ナル着驛	噸數	主ナル着驛	噸數	主ナル發驛	
鮮魚	一、六四〇	姫路、福山、那波	七、四四九	下關、長崎	—	—	—
鹽干魚	二二四	—	一、五三二	下關、兵庫、神戸	—	—	—
生甘藷	—	—	八一	—	—	—	—
生馬鈴薯	一二五	—	二六	—	—	—	—



生野菜 四二四 兵庫 一、四四三 佐野、玉島、尾道  
 柑 橘 五五 二四五  
 其ノ他ノ果物 一、〇五三 大阪、兵庫、姫路 一、七五八 兵庫、花島、長崎

岡山市ニ於ケル縣外ヨリノ蔬菜果物移入表 (大正十一年中岡山縣廳調)

蔬菜 二六二、九七五圓  
 果物 五二三、四〇〇圓

蔬菜ノ部

品名	數量	價額	仕出地ノ重ナルモノ
甘藷	六二二、九〇〇	九三、七三〇 <sup>円</sup>	香川、廣島、愛媛、大阪
馬鈴薯	三〇、〇〇〇	六、七五〇	北海道
薑	四六、〇〇〇	三二、二〇〇	—
山葵	九五〇	六、四〇〇	島根、奈良、大阪
胡瓜	二〇、〇〇〇 <sup>本</sup>	一、六〇〇	高知、静岡
促成品	—	五〇、〇〇〇	—
百合根	六、六〇〇	八、四〇〇	北海道

品名	數量	價額	仕出地ノ重ナルモノ
南瓜	一〇、〇〇〇	六、〇〇〇	宮崎
西瓜	二、七〇〇	三、四〇〇	山口、沖繩、小笠原、大和
茄子	—	二、四〇〇	臺灣、愛知
薯蕷	一、八〇〇	二、一七五	奈良、兵庫
甘藍	五、三〇〇	二、二五〇	臺灣、大阪、長野
土當飯	一〇、五〇〇	九、四五〇	大阪、愛知
里芋	五、六〇〇	六、四八〇	同
干瓢	一〇、〇〇〇	二七、〇〇〇	茨城、栃木、群馬
筍	九〇〇	一、八〇〇	臺灣、長崎
莢豌豆	四、二〇〇	二、九四〇	廣島

果物ノ部

品名	數量	價額	仕出地ノ重ナルモノ
密柑	四六九、〇〇〇	二五〇、〇〇〇 <sup>円</sup>	和歌山、廣島、静岡
夏橙	一二〇、〇〇〇	四九、〇〇〇	和歌山、愛媛
ネーブル	四〇、〇〇〇	二五、六〇〇	廣島、和歌山、香川、愛媛



生柿	和梨	櫻桃	ポンカン	橙	金柑	杏子	バナナ	米桃	梅	乾柿	枇杷	苹果
三、五〇〇	二、〇〇〇	一、五〇〇	一、〇〇〇	一〇、〇〇〇	八、四〇〇	二、〇〇〇	一〇五、〇〇〇	二、〇〇〇	一〇、〇〇〇	六、〇〇〇	一三、〇〇〇	一七、九〇〇
四、六〇〇	一、〇〇〇	五、〇〇〇	一、八〇〇	二、五〇〇	五、六〇〇	一、四〇〇	一二五、八〇〇	二、二〇〇	八、〇〇〇	六、〇〇〇	一四、六〇〇	二〇、三〇〇
山陰、廣島、愛媛、香川	香川	福島、山形	臺灣	廣島	和歌山、福岡、廣島	香川	神戸	香川	香川	山陰、廣島、九州		青森、香川、朝鮮

### 三、岡山市ニ於ケル公設小賣市場

大正八年中物價暴騰ニ際シ市内ニ公設市場四ヶ所ヲ開設シタル處其ノ成績良好ナラサリシヲ以テ其ノ内三ヶ所ヲ廢止シ目下野田屋町公設市場一ヶ所アルノミナリ

野田屋町公設市場ノ賣上高

大正八年	一〇八、八四〇 <sup>円</sup>
大正九年	九二、八五四
大正十年	一一三、一三九
大正十一年	五八、五四〇

### 四、岡山市ニ於ケル市場

(イ) 京橋魚市場

一、沿 革

岡山市ニ於ケル魚市場トシテハ當市場及二日市魚市場ノ二ヶ所アリ何レモ古キ歴史ヲ有シ舊藩時代ニ於テ右二ヶ所ノ魚市場ノ外ハ之ヲ差許ササルコトヲ條件トシテ毎朝最モ新鮮ナル鮮魚ヲ藩主ニ献上シタル後ニアラサレハ他ノ鮮魚ハ糶市ニ掛クルコトヲ得サル掟トナリ居タリ。明治維新後ニ至リ舊藩時代ニ特ニ差許サレタル右二ヶ所ノ外新ニ魚市場ヲ開設ス



ルコトハ既設市場ヲ保護スル趣旨ノ下ニ之ヲ許ササルコトトシ高崎縣令時代ニ魚市場規則ヲ設ケ實施シ居リタル處當時當市場ニハ問屋三軒アリ互ニ競争ヲ事トシ各自不利ナルヲ覺リ之ヲ合同シテ株式會社ヲ組織シ魚市場ヲ經營セムトシタルニ法律上ヨリ見ルトキハ株式會社ナル人格者カ新ニ魚市場ヲ開設スルコトトナルヲ以テ右魚市場規則ニ依ルトキハ許可スヘカラサルモノナルヲ以テ問屋ハ縣當局ニ對シ該規則ノ廢止方ヲ懇願シタル結果明治二十七年魚市場規則ハ廢止セラレ明治二十九年ニ至リ問屋ハ合同シテ株式會社トナリ今日ニ至レルモノナリ

(註)舊藩主ヨリ魚市場トシテ正式ニ認メラレタルハ京橋市場ノミニシテ二日市市場ハ雜魚ノミノ賣買所トシテ認メラレ實質上一般ノ魚取引ヲ默認セラレ居リシモノナリト云フ

二、市場名位置

通稱 京橋魚市場

會社名 岡山生魚株式會社

位置 京橋ノ近クニ在リテ略ホ市ノ中央ニ位ス

事務所 市内川崎町十九番地

運 輸 河船ノ便アルモ鐵道トノ連絡宜シカラス岡山驛ヨリ當市場迄約十五町アリ

當市場ヲ距ルコト南方約十二町ノ所ニ二日市魚市場アリ

三、取扱品目

鮮魚介類

四、組織

會社カ市場ヲ經營シ自ラ問屋行爲ヲ爲ス

會社ノ

資本金八萬圓 四千株

拂込金二萬八千圓 一株ノ金額二十圓ノ内七圓拂込

株主ノ數六十三人 (大正十三年八月末現在)

大正十二年三月乃至八月 (第五十六回決算)ノ株主配當率年二割

五、規模設備

會社事務所ノ傍ニ冷室四坪餘アリ

糶市ヲ行フ場所ハ會社事務所ニ接續セル道路及旭川ノ川岸ヲ使用ス糶市ニハ特別ノ設備ナシ



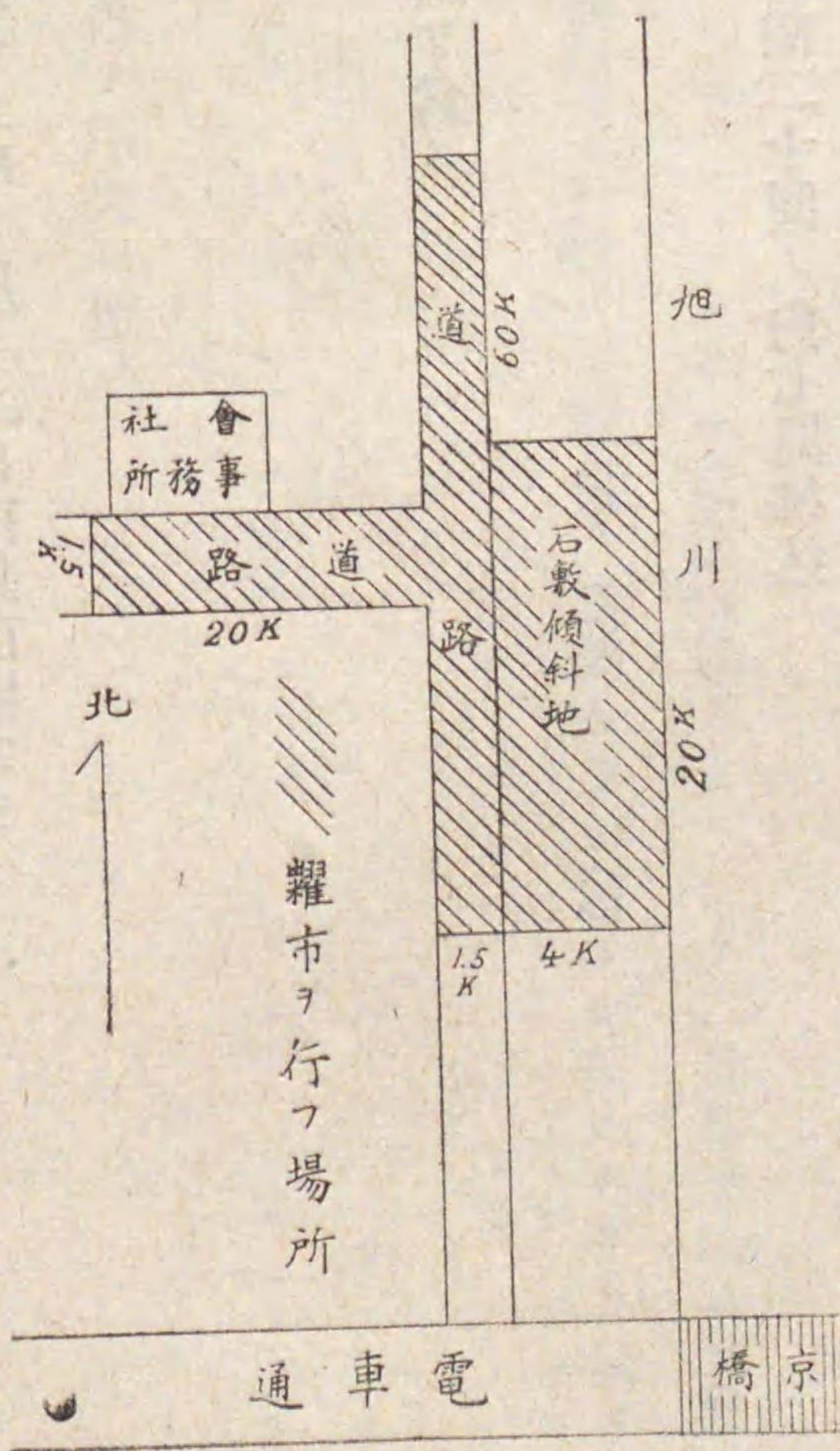
右川岸ハ岡山縣ノ管理ニ屬シ無償ニテ使用ス尤モ市場稅(縣稅及其ノ附加稅)ヲ納付シ居  
レリ

主トシテ右川岸ノ傾斜地石敷約八十坪ヲ用フ

右傾斜地ニ於テ賣買ヲ爲スニハ川ニ船ヲ浮ヘ糶リ手ハ船中ニ買出人ハ傾斜地ニ居リ糶賣買  
ヲ行フコトアルモ斯カル場合ハ極メテ少ナシ此ノ方法ハ二月市魚市場ニ於テ多ク行ハル



京橋魚市場ノ景



六、取引事情

イ、開市時間 夏午前六時ヨリ同十時マテ冬午前七時ヨリ同十一時マテ

ロ、休日 一月一日、八月十六日 舊七月十六日

ハ、荷主對會社

全部委託販賣ナリ

當市場ニ入荷スル鮮魚ハ鐵道ニ依ルモノト船便ニ依ルモノト價額ニ於テ稍相半ス其ノ内  
便ニ依ルモノハ瀬戸内海及兒島灣内ニテ漁獲シタルモノヲ旭川ヲ利用シ入荷スルモノナリ  
トロイル物ニ付テハ荷主ヨリ直接委託ヲ受クルモ其ノ外二日市魚市場ノ問屋ヨリ委託ノ形  
式ニテ荷ノ分與ヲ受クルモノ尠ナカラサル由

二、會社對買出人

賣買ハ糶賣ノ方法ニシテ會社ノ使用人タル値取り(糶リ人)ニ依リ行ハル値取りハ目下八人  
アリ何レモ月給制ニアラス賣上高ノ二歩ヲ會社ヨリ支給セラレ  
買出人トシテハ毎日二百人ヲ超ユ小賣商人、料理屋、旅館等ヲ主ナルモノトス其ノ内會社  
ニ於テ特ニ承認シタルモノヲ仲買人ト稱シ目下約百四十名アリ  
仲買人ニアラサル買出人カ市場ニ於テ掛ニテ買受ケムトスルトキハ仲買人ノ名義ヲ借ルコ



トヲ要ス此場合ニ於テ仲買人ノ利得ハ會社ヨリ受クル歩戻トス耀ニ使用スル符牒ニ口唱、手振ノ二種アリ次ノ如シ

◇百匁ヲ單位トス

◇百匁ヲ十六錢ニ換算ス

(イ) 口 唱

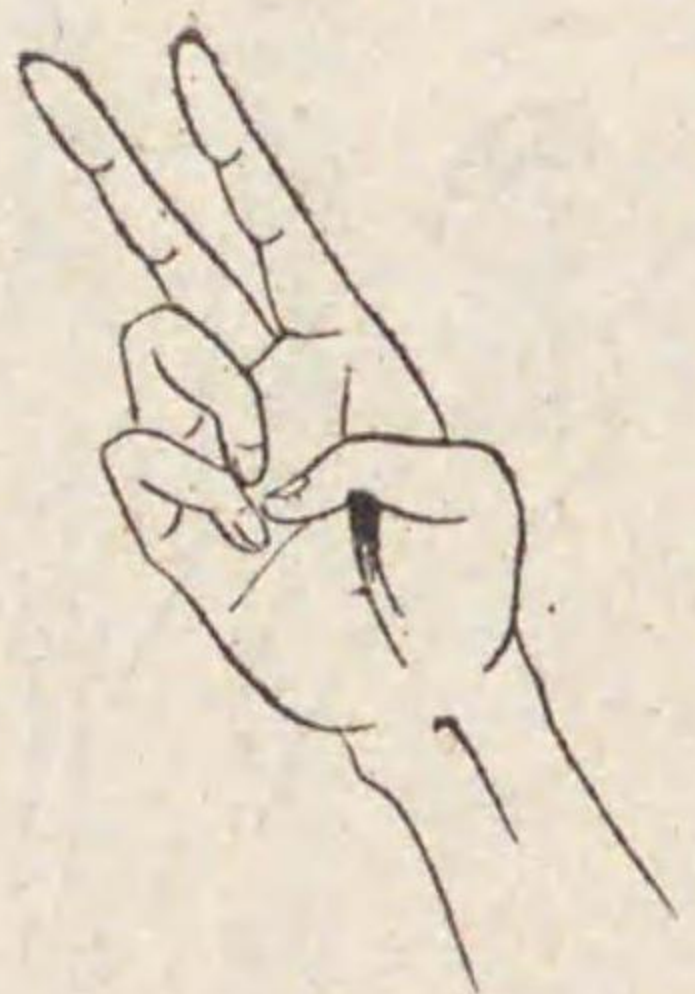
一	スツペリ	(百匁 十六錢)	十五	ア	リ	(一貫五百匁 二圓四十錢)	
二	マ	タ	(二百匁 卅二錢)	廿五	テンジン	(二貫五百匁 四圓)	
三	ヤ	ミ	(三百匁 四十八錢)	卅五	ヤミゲン	(三貫五百匁 五圓六十錢)	
四	ダ	レ	(四百匁 六十四錢)	四十三	ホンメ	(四貫三百匁六圓八十八錢)	
五	ゲ	ン	(五百匁 八十錢)	四十五	ダレゲン	(四貫五百匁 七圓二十錢)	
六	ア	タ	リ	(六百匁 九十六錢)	六十五	アタゴ	(六貫五百匁 十圓四十錢)
七	バ	タ	タ	(七百匁 一圓十二錢)	八十五	バンゲン	(八貫五百匁十三圓六十錢)
八	バン	シユウ	(八百匁一圓二十八錢)	九十五	キワゴ	(九貫五百匁十五圓二十錢)	
九	キ	ワ	(九百匁一圓四十四錢)				

(ロ) 手 振

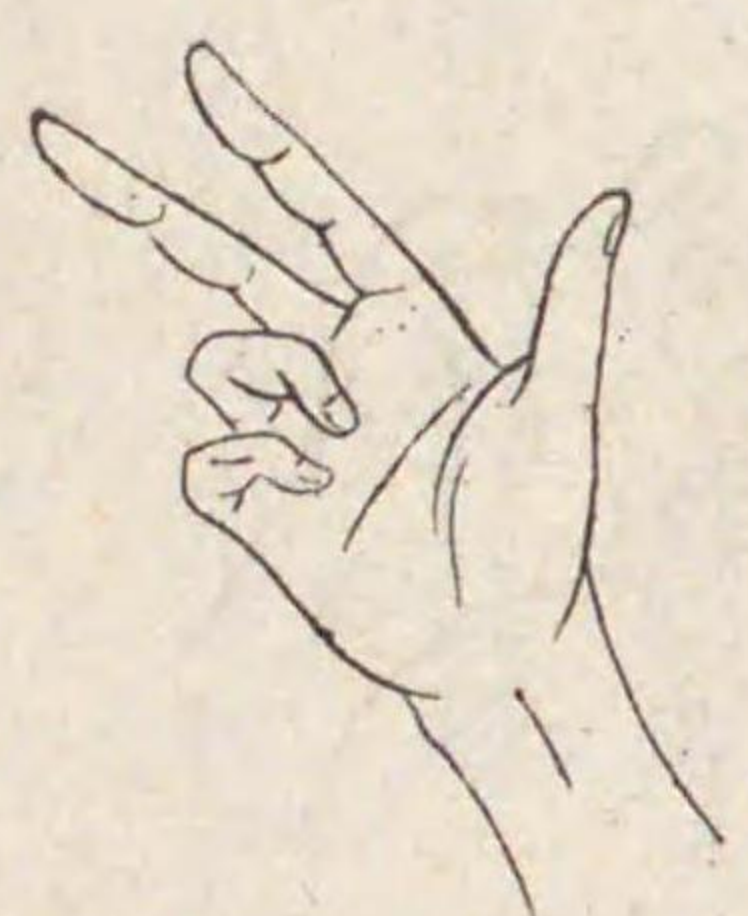
耀ニ際シテハ單ニ手振符牒ノミヲ使用セス口唱符牒ヲモ併用スルコト多シ



一指指ノミヲ伸バシ他ハ全部屈ス



一指指ト中指ヲ伸ハシ他ハ屈ス

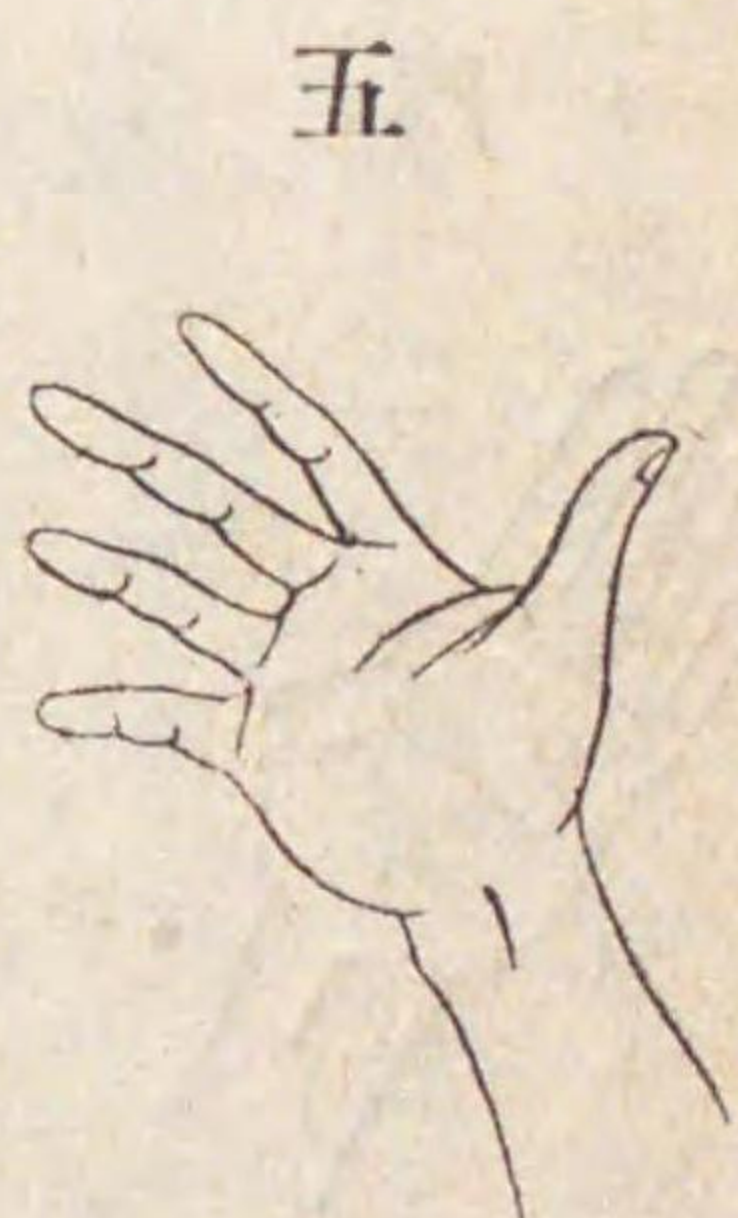


拇、一指、中指ヲ伸ハシ他ハ屈ス



拇指ヲ屈シ他ハ全部伸ハス





全部伸ハス



全部半ハ屈ス



拇、人指、中指ヲ半ハ伸ハシ他ハ屈ス



人指ト中指ヲ半ハ屈シ他ヲ全部屈ス



人指指ノミ半ハ屈シ他ハ全部屈ス

七、口錢及代金決済

イ、荷主、會社間

委託販賣手数料 賣上高ノ一割五歩

旅荷及地廻トモ即日仕切金ヲ送付スルヲ原則トス

旅荷ニ付テハ岡山驛ヨリ當市場迄ノ配達賃大箱四十錢小箱八錢及口錢ヲ差引キ仕切金ヲ郵

便又ハ銀行爲替ニテ送金ス

地廻ニ付テハ荷主自ラ船ニ乗り市場ニ搬入シ來リ毎日取引終了後口錢ヲ差引キ仕切金ヲ受

取リテ歸ル

ロ、會社、仲買人間

仲買人ノ買受代金ハ月二回拂ノモノ(十五日、月末)一回拂ノモノ(月末)ト二種類ノ定メナ

ルモ事實全部ノ支拂ヲ爲スモノ少ナシ多クハ半金又ハ三分ノ一ヲ入金シ置キ大勘定ノ益ノ



十六日、舊歲末ニ皆濟セシム  
會社口錢ノ内ヨリ仲買人ニ對スル歩戻ノ制度アリ五歩乃至七歩トス各仲買人ノ支拂良好ナルモノニハ最高ノ歩戻ヲ爲ス

ハ、會社ノ純收入歩合

會社口錢 一割五歩

内

値取リニ支拂 二歩

仲買人ニ戻ス 六歩—五歩乃至七歩ナルモ假リニ其ノ中間ヲ取リテ計算ス

差引 七歩

八、賣上高

大正十二年約六十五萬圓

九、市場稅

當縣ニ於テハ市場稅ヲ賦課シ居レリ昨年度ニ於ケル當市場ノ該稅額ヲ掲ク

市場稅(縣稅) 六〇〇圓

同附加稅(市稅) 六〇〇

(ロ) 二日市魚市場

一、沿革

京橋魚市場ノ沿革ノ項ヲ參照ノコト

二、市場名位置

二日市魚市場ト通稱ス

岡山市二日市町旭川々岸ニ在リ略ホ市ノ南端ニ位ス當市場ノ北方約十二町ノ所ニ京橋魚市場アリ

市場ト運輸機關ノ連絡ニ關シテハ船運ノ便アルモ鐵道トノ連絡不便ナリ岡山驛ヨリ當市場迄二十五六町アリ

三、取扱品目

鮮魚介類

四、組織

個人問屋店舖ノ集合セルモノナリ其ノ取引ニ關シテハ各問屋間何等ノ連絡統一アルニトナシ

目下問屋五軒アリ此外極メテ少量ノ荷ヲ受ケ問屋行爲ヲ爲スモノ十軒内外アリ

五、規模及設備

糶市ヲ行フ場所ハ縣ノ管理セル旭川々岸石敷傾斜地約百五十坪及之ニ接續セル川ノ水面ト



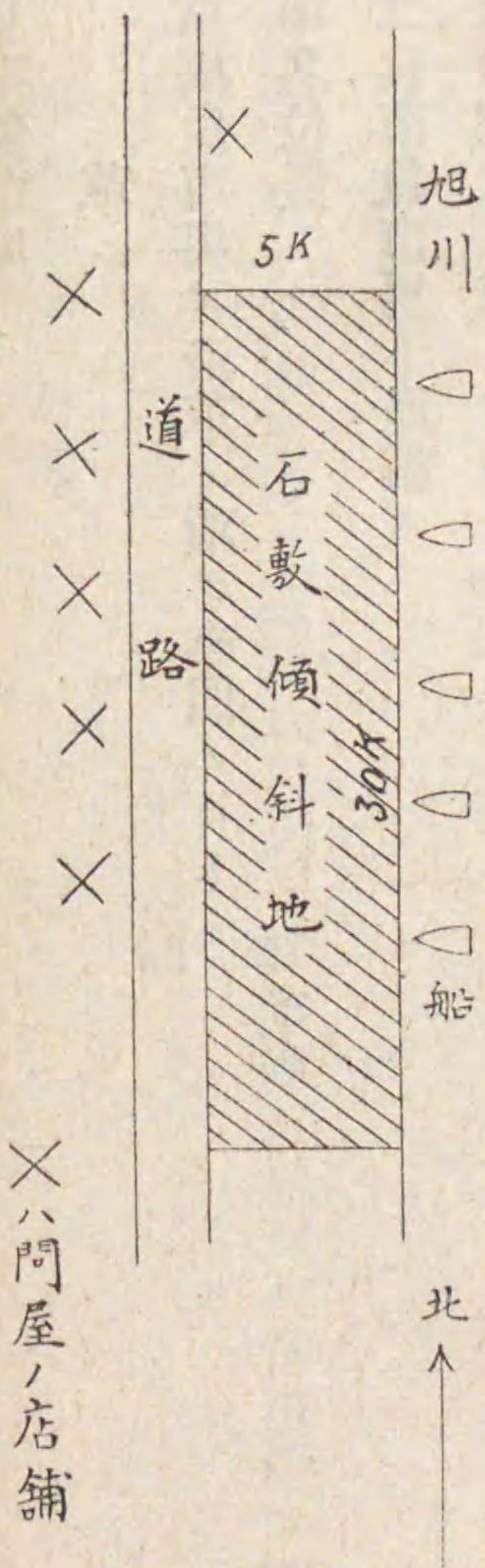
ス

日覆等ノ特別ノ設備ナシ

各問屋ノ値取り(糶リ人)ハ單ニ傾斜地ノミニテ糶市ヲ爲スコトアルモ川ノ水面ト傾斜地ヲ併用スル場合ノ方多シ此場合ニ於テハ川ニ船ヲ浮ヘ値取りハ船中ニ立チテ手ニ鮮魚ヲ摺ミ高ヲ舉ケテ傾斜地ニ居ル買出人ニ對シ値入ヲ促スモノナリ

斯ク値取りハ般中ニ居リテ爲ス糶ノ方法ハ元始的遣リ方トモ云フヘキモノニシテ古クヨリ行ハレ來リタルモノナリ

糶場ハ右ニ述ヘタル如ク傾斜地ヲ使用シ居ルヲ以テ鐵道荷ノ取扱上頗ル不便ヲ感シ居レリ即チ岡山驛ニ到着シタル鮮魚ハ當市場迄二十五六町ノ所ヲ馬車又ハ荷車ニテ運搬シ各問屋ノ店頭ニ卸シ更ニ川岸傾斜地ニアル船ノ近クニ運ヒ置キ糶ニ掛クル際更ニ船中ニ運ヒ入ルル順序ニシテ荷ノ揚卸ニ付テハ當業者ノ頗ル不便トセル所ナリ



### 六、取引事情

大體京橋魚市場ニ於ケル取引事情ト同様ナルカ之ト異ナル點ヲ舉クレハ

イ、荷主對問屋

多クハ委託販賣ナリ多少ノ買付ヲ爲ス

問屋モアリ當市場ニ入荷スル運輸關係

ハ鐵道ニ依ルモノハ全體ノ約五分ノ四

ヲ占メ他ハ船便ニ依ルモノナリ

ロ、買出人ハ毎日四百人位アリト云フ

ハ、糶ニ使用スル符牒ハ百匁ヲ壹圓ニ換算

ス

### 七、口錢及代金決済

荷主ニ對スル仕切及仲買人ノ買受代金ノ勘

定ハ各問屋ニ依リ異ナリ又同一問屋ニテモ

從來ノ取引關係等ニ因リ一様ナラサルモ大



二日魚市場



體京橋魚市場ト同様ナリ

尙入荷量ノ多キトキハ各問屋ハ縣下津山等ニ委託替ヲ爲シ問屋ハ其仕切ヲ受ケタルトキ之ニ基キ口錢運搬費等ヲ差引キ荷主ニ送金ス此方法ハ表面ノ取扱ニシテ事實ハ委託替ヲ爲スモ其ノ日ニ於ケル當市場ノ相場ヲ見テ仕切ルコト尠ナカラサルモノノ如シ

八、賣上高

大正十二年約百八十五萬圓

内約三四十萬圓ハ縣下津山町等鐵道ニ依リ移出セラル

九、市場稅

大正十二年度ニ於ケル主ナル問屋五軒ノ市場稅額ヲ掲ク

市場稅	氏名
九〇、〇〇	松山 八次郎
四〇、五〇	今井 又三郎
五七、〇〇	武田 猪三郎
五一、〇〇	吉野 平四郎
五二、五〇	長船 卯之助

尙之ト同額ノ附加稅(市稅)アリ

(ハ) 内山下青物市場

一、沿革

相當古キ歴史ヲ有スル市場ナルモ判明セス最近二三十年來漸次市場ノ建増ヲ爲シ以前ヨリアリタル地域ヲ舊市場、建増ヲ爲シタル分ヲ新市場ト稱シ居レリ

二、市場名位置

内山下青物市場 (新舊兩市場地域ヲ合シテ内山下青物市場ト云フ)

岡山市内山下町ニ在リ略市ノ中央ニ位シ京橋魚市場ヨリ離ルルコト西北約一町半岡山驛ヨリ約十四町アリ

三、取扱品目

蔬菜、果物、乾物

四、組織

問屋、仲買業者ノ集合ナリ

五、規模

敷地七百三十八坪ハ舊藩主池田侯ノ所有ナリ

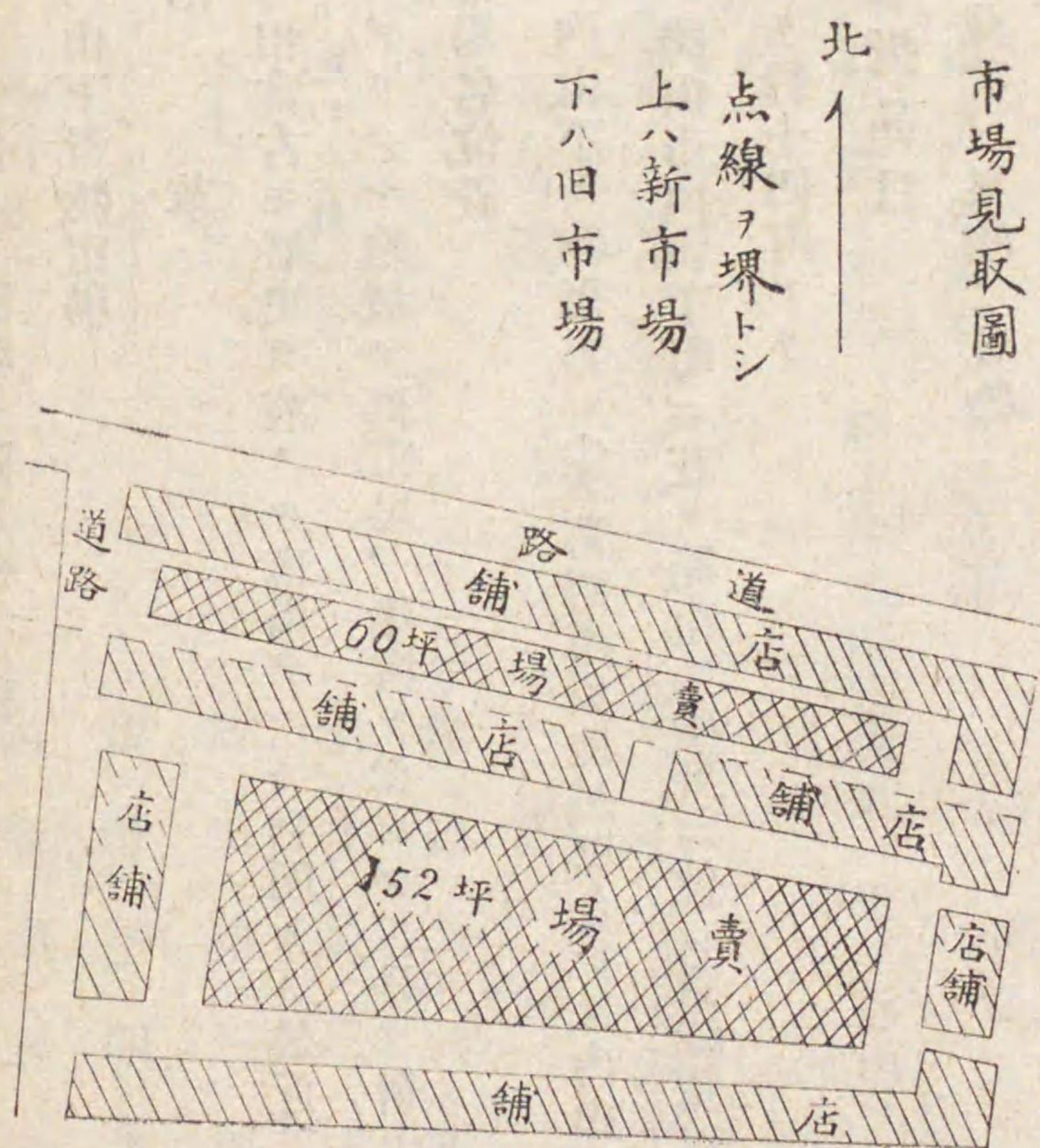
建物ハ問屋仲買ノ内二十名ヲ以テ組織セル組合ノ所有ノモノアリ他ハ各自ノ所有ナリ



敷地ノ内譯

合 計	總坪數	賣 場	店舖ノ分	通 路
新市場	一六〇、〇〇	六〇、〇〇	六〇、〇〇	四〇、〇〇
舊市場	五七八、四六	一五一、八三	三〇五、二七	二二一、三六
合 計	七三八、四六	二二一、八三	三六五、二七	一六一、三六

市場見取圖



六、取引事情

イ、開市時間 略午前七時ヨリ正午迄

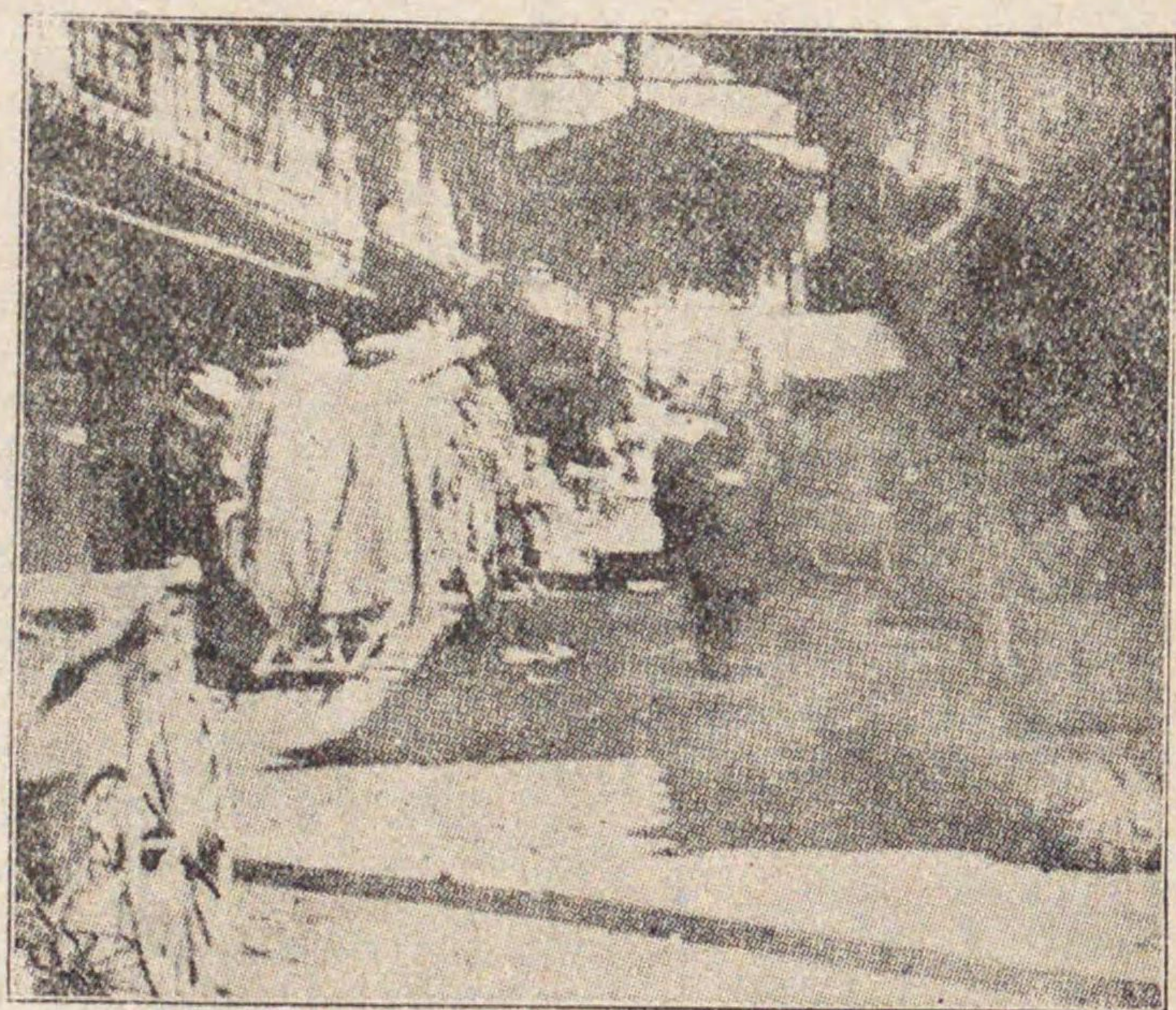
ロ、休 日 ナシ

ハ、荷主對問屋

委託販賣ヲ主トスルモ買付ヲ爲スモノモアリ當  
市場ニ入荷スル蔬菜及果物ハ各地廻モノ七割旅  
荷三割ノ見込ナリ  
旅荷ノ内縣外ヨリ移入ニ係ル主ナル品種別價額  
表ヲ本項末尾ニ掲ク

ニ、問屋對仲買人

兩者合セテ六十軒アリ大部分ハ互ニ他ノ業務ヲ兼業シ居レリ  
問屋ハ市場ニ荷ヲ引キタルモノヲ市場内ノ仲買及小賣商人等ニ販賣シ仲買人ハ問屋ヨリ買  
受ケタルモノヲ小賣商人等ニ販賣スルヲ本則トス  
果物ニ付テハ問屋ヨリ仲買ノ手ヲ經由シテ小賣商人等ニ販賣セラル、モノ相當ニ多キモ  
菜ニ付テハ問屋ヨリ直接小賣商人等ニ販賣セラル、モノ多シ



景ノ場市物青山下内



問屋、仲買人間ノ取引ハ仲間取引ト稱シ問屋ヨリ仲買ニ對シ二步乃至五步ノ歩戻アリ  
ホ、買出人

毎朝五百人以上アリト云フ市内ノ小賣商人旅館料理店ヲ主タルモノトス  
買出人ハ蔬菜ニ付テハ直接問屋ヨリ買受クルコト多キモ果物ニ付テハ主トシテ仲買人ヨリ  
買受ク

ハ、立賣人  
生産者自ラ市場ニ搬入シ直接小賣商人ニ現金賣ヲ爲スモノ毎朝二百人位アリ昨年中ニ於ケ  
ル其ノ賣上金高六十萬圓見當アリ

ト、賣買方法  
問屋ノ内一軒ノミ耀ヲ實行シ居レリ其ノ他ハ總テ相對取引ナリ  
賣買ニ使用セル符牒

一	二	三	四	五	六	七	八	九
舊市場	ジャウ	イリ	ハンマ	ヤ	サ	チ	ワ	ケ
新市場	シ	リ	カワ	ツキ	チャウ	テン	ウガ	ツガ
チ、其ノ他								ガン

當市場昨年ニ於ケル取扱高三百萬圓見當アリ

蔬菜 百萬圓ノ内

小賣商人等ニ販賣セラレタルモノ 九割

問屋又ハ仲買カ他へ移出シタルモノ 一割

果物 二百萬圓ノ内

小賣商人等ニ販賣セラレタルモノ 七割

問屋又ハ仲買カ他へ移出シタルモノ 三割

七、口錢及代金決済

イ、荷主、問屋間

委託販賣手数料 賣上金高ノ一割

地廻モノニ付荷主自ラ市場ニ來ルモノニ對シテハ取引終了後仕切金ヲ交付ス

旅荷ニ付テハ金額相當多額ナルトキハ即日仕切金ヲ送付スルモ多クハ月三回又ハ月末ニ

纏メトシ送金ス

ロ、問屋、仲買間

此ノ間ノ代金決済モ一定シ居ラサルモ月末拂ノモノ多シ尙問屋ハ仲ニ對シ二步乃至五步ノ



歩戻ヲ爲ス

ハ、其ノ他

問屋、買出人間又ハ仲買、買出人間ノ代金決済ニ付テハ現金賣又は月末拂ト云フコトナ  
リ居ルモ實際ハ一定シ居ラヌ月末拂ノモノニ付テハ多クハ内金入ニシテ年四回(三、六、九、  
十一ノ各月)ニ總決算ヲ爲ス

八、取扱高

大正十二年約三百萬圓

内

蔬菜 百萬圓

果物 二百萬圓

## 七、廣島市

### 一、廣島市ト消費經濟上一體ヲ爲スヘキ隣接町村

大正十二年九月末推定人口

廣島市……………一六九、〇〇〇人

隣接町村……………三五、〇〇〇

計 二〇四、〇〇〇

隣接町村名(都市計畫區基ト同一ナリ)

己斐町、古田村、草津町、井ノ口村、五日市町、三篠町、仁保村、牛田村

### 二、廣島市ニ於ケル新鮮食料品ノ集散及消費ノ狀況

當市ハ魚類、蔬菜及果物ノ集散及消費ノ狀況ヨリ觀察スルトキハ消費地タル關係ニ在リテ此等  
ノ商品ノ内鹽干魚ハ市場ヲ經由セス個人問屋ノ取扱ニ係リ其ノ他ノ商品ハ主トシテ市場ノ取扱  
ニ係ルモノナリ



大正十二年廣島市及隣接町村ニ於ケル取扱高

合計	鐵道	合計ニ對スル割合	海路及地廻	合計ニ對スル割合	市場取扱高	合計ニ對スル割合	
總額	八、四五〇 <small>千兩</small>	三、七五〇 <small>千兩</small>	四割四分	四、七〇〇 <small>千兩</small>	五割五分	六、三三〇 <small>千兩</small>	七割五分
鮮魚	四、〇五〇	二、五〇〇	六割一分	一、五五〇	三割八分	四、〇五〇	十割
鹽干魚	一、五〇〇	一、〇〇〇	六割六分	五〇〇	三割三分	—	—
蔬菜	二、〇〇〇	一〇〇	五分	一、九〇〇	六割二分	一、四八〇	七割四分
果物	九〇〇	一五〇	一割六分	七五〇	八割三分	八〇〇	八割八分

市當局及當業者ノ意見ニ依ル

同上消費及移出高

合計	消費	原料トシテ消費	移出
總額	八、四五〇 <small>千兩</small>	六、九〇〇 <small>千兩</small>	一、〇〇〇 <small>千兩</small>
鮮魚	四、〇五〇	二、八五〇	一、〇〇〇
鹽干魚	一、五〇〇	一、三〇〇	二〇〇
蔬菜	二、〇〇〇	一、九〇〇	一〇〇
果物	九〇〇	八五〇	五〇

備考 原料トシテ消費セラレタルモノハ蒲鉾製造用ニ當テラル

前記品目ニシテ鐵道ニ依リ發着スルモノハ己斐驛並廣島驛經由シ己斐驛ノ取扱ニ係ルモノ大部分ヲ占ム

大正十二年己斐驛發着噸數

發着	噸數	重ナル着驛	噸數	重ナル發驛
鮮魚	五三二	長府、梅小路、大阪、吳	六、六〇五	下關、長崎
鹽干魚	一七二	柳井津、下ノ關、大阪、岡山	二、五二四	下關、伏木、敦賀
生甘藷	一三	三田尻、徳山、山口	三二	大曲、大阪、兵庫
生馬鈴藷	六〇	小郡、山口、宇部、新川	九三	大曲、下田
生野菜	一、五五九	吳、大阪、兵庫	一、〇六五	大竹、岩國、人吉
柑橘	一九四	下關、福知山、姫路	二五	岩國、大竹
其他ノ果物	二一四	三田尻、下關、大阪	一、三七四	下關、長崎、岩國

大正十二年廣島驛發着噸數



發送

到着

鮮魚 五

噸數 重ナル發驛 八八 尾道、福山、佐世保

鹽干魚 三五九 大阪、神戸

噸數 重ナル發驛 一四九 神戸、氷見、下關

生甘藷

生馬鈴藷 二

生野菜 四五 大阪、兵庫

噸數 重ナル發驛 一四六 岩國

柑 橘 一一 岐阜

其他ノ果物 一六 八幡

噸數 重ナル發驛 六四 黒石、櫻井

尙前記消費高ヲ大正十二年九月推定人口ニ割當テ一人當ノ消費高ヲ見ルニ左ノ如シ

人口 消費高 一人當消費高

二〇四、〇〇〇 六、九〇〇千円 三三三、八二錢

内

鮮魚 二、八五〇 一三、九七

鹽干魚 一、三〇〇 六、四三

蔬菜 一、九〇〇 九、二四

果物 八五〇 四、一六

### 三、廣島市ニ於ケル公設市場小賣市場

當市ニハ公設市場四ヶ所アリ内三箇所ハ大正九年五月乃至八月一ヶ所ハ大正十二年十二月ノ開設ニ係ル

公設市場ニ於ケル販賣價格ハ市當局ニ於テ毎日其ノ日ノ卸相場ヲ調ヘ之ニ基キ決定シ評價日報ヲ發行シ各公設市場ニ配付ス

公設市場ノ賣上高ハ年々増加シツツアリ即チ次ノ如シ

市場數	賣上高
大正九年 三	五八三、五三八 <small>円</small>
同 十年 三	七五四、〇四〇
同 十一年 三	八六七、二九九
大正十二年 四	一、〇九九、七五四

### 四、廣島市ニ於ケル市場



當市ニ於ケル魚菜卸市場トシテハ魚市場四箇所蔬菜果物市場四箇所アリ當市ニ對スル魚菜ノ配給ヲ爲シツツアルハ前記市場ノ外市ニ隣接セル草津町魚市場トス此等ノ市場名其ノ他ヲ左ニ掲ク

市場名	組織	取扱品目	大正十二年取扱高	位	置
東洋水産市場	株式會社	鮮魚介類	一、二六〇、〇〇〇	同	廣島市大手町七丁目
廣島ヤマ三魚市場	同	同	六三〇、〇〇〇	同	東魚屋町
廣島魚市場	同	同	六二〇、〇〇〇	同	平田屋町
天満市場	共同	蔬菜、果物、乾物、漬物、鮮魚、蒲鉾其ノ他	一、二〇〇、〇〇〇	同	廣瀨町
廣島新市場	同	蔬菜、果物	一、〇〇〇、〇〇〇	同	同
荒神町青物市場	同	蔬菜、果物	六〇、〇〇〇	同	荒神町
草津町魚市場	同	鮮魚介類	一、五〇〇、〇〇〇	同	佐伯郡草津町大字問屋町
宇品魚市場	同	同	四〇、〇〇〇	同	廣島市宇品町
がら／＼橋青物市場株式會社	蔬菜、果物	同	二〇、〇〇〇	同	東がら／＼橋脇

取扱高 鮮魚 四百五萬圓  
蔬菜果物 二百二十八萬圓

右市場ノ内宇品魚市場及がら／＼橋青物市場ハ何レモ規模小ナルト取扱高亦尠ナキヲ以テ此等ヲ除

キタル他ノ七市場ニ付各其ノ概況ヲ記述スルコトトセリ尙各魚市場ニ關シテハ取引事情其ノ他ニ付同様ノ點尠ナカラサレハ先ツ以テ東洋水産市場ニ付テ其ノ概況ヲ掲ケ其ノ他ノ魚市場ニ關シテハ之ト異ナル點ヲ述フルコトトセリ

(イ) 東洋水産市場

一、沿革

大正七年四月市内東魚屋町ニ在リシ魚市場ノ問屋買出人合同シテ東洋魚市場ヲ創設シ大正十年四月之ヲ會社組織ト爲シタリ

二、市場名位置

東洋水産市場株式會社

廣島市大平町七丁目一番地ニ在リ市ノ中央部ニ位シ西方約一丁餘ニ元安川ヲ控ヘ驛トハ約二十町アリテ市場ト水陸ノ運輸連絡共ニ便利ナラス

三、取扱品目

鮮魚介類

四、組織

株式會社ニシテ海産物ノ委託販賣ヲ業トス創立當初ハ當市場買出人等市場關係者ニテ組織



タリシ

資本金五十萬圓拂込金十五萬圓最近株式配當率年一割二分

### 五、規模設備

市内ニ於ケル市場中比較的整備シ居レリ

イ、敷地二百二十坪

ロ、建物二棟(賣場)中央ニ通路ヲ設ケ其ノ周圍ハ凡テ道路ニ面ス

ハ、全部石疊敷ナリ

ニ、場内西方ニ冷室三坪半ノモノニケ

所ヲ設ケアリ

ホ、場内ニ水道栓ニケ設備シアリ

ヘ、賣場ノ南方ノ道路ヲ隔テテ會社ノ

事務所アリ

### 六、取引事情

イ、開市時間午前七時ヨリ同十時半マ

ロ、當市場ニ於テ荷主對會社ハ總テ委託販賣ナリ販賣ノ委託ヲ爲ス所謂荷主トシテハ市場  
專屬ノ問屋四名ト其ノ他ノ荷主トアリ

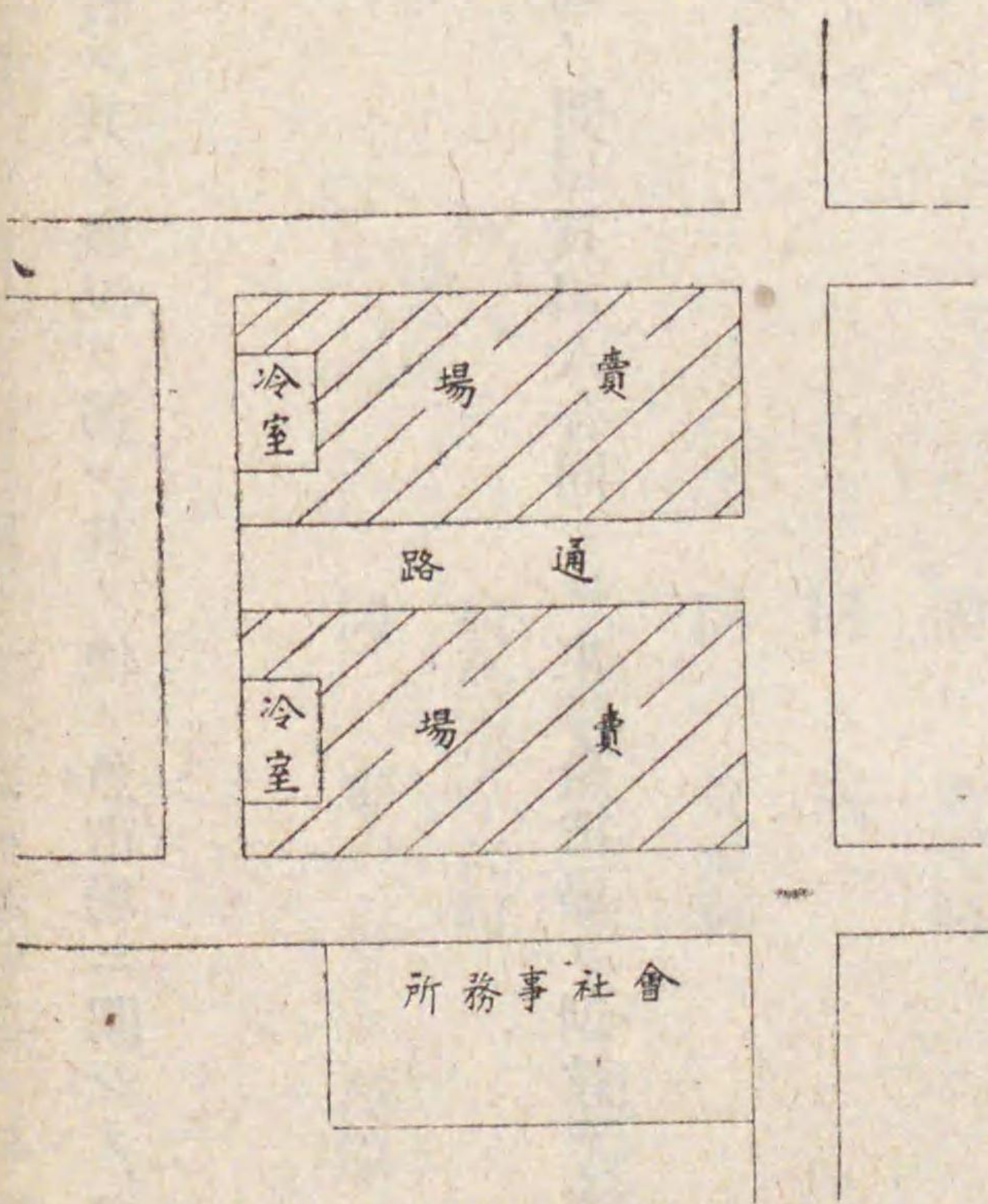
廣島市ニ於ケル魚市場ノ問屋ハ他ノ一般市場ノ問屋ト其ノ業態ヲ異ニシ自己カ他ヨリ委託  
ヲ受ケ又ハ買付ケタル鮮魚ヲ更ニ市場會社ニ販賣ヲ委託スルモノナリ從ツテ市場會社ヨリ  
見ルトキハ荷主ノ地位ニ立ツモノナリ問屋ハ特ニ問屋トシテノ店舗ヲ有セス自己宛ノ荷ヲ  
直ニ市場ニ運搬シ會社ニ販賣ヲ委託スルモノナリ

問屋ハ當市場ニ於テハ重要ナル地位ヲ占メツツアリ即チ昨年ニ於ケル賣上高百二十六萬圓  
ノ内問屋ノ委託ニ係ルモノハ其ノ三分ノ二ヲ占ムト云フ

尙問屋ハ會社ヨリ半期毎ニ賣上高ノ二歩ノ戻ヲ受ク

其ノ他ノ荷主ノ内ニハ普通ノ荷主ト沖宿ノ手ヲ經由スル荷主トアリ沖宿ナル制度ハ古クヨ  
リ存シタルモノナルカ當市ニ入荷スル地浦モノハ漁夫又ハ買集人カ市内宇品ニ荷揚ヲ爲シ  
タル上各市場マテ(二十町乃至三十町)之ヲ運搬セサルヘカラス然ルニ右漁夫等ハ宇品ヨ  
リ市場マテノ運搬ハ甚タ厄介視シテ自ラ之ヲ爲サス他人ヲシテ之ヲ爲サシメ居レリ之レ沖  
宿ノ濫腸ナルモノノ如シ

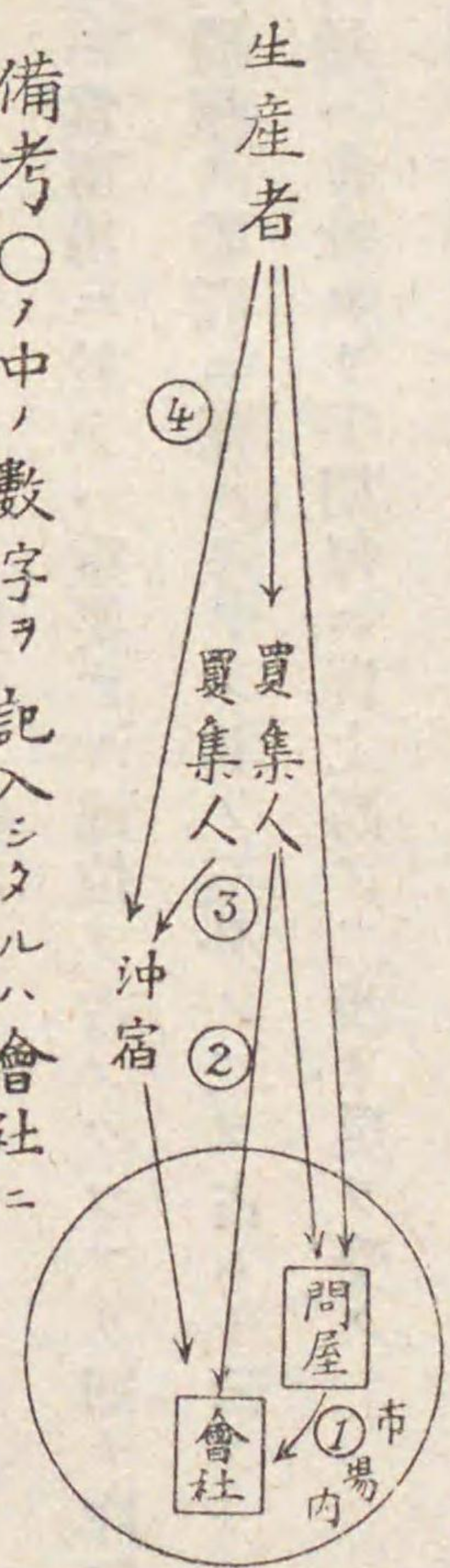
沖宿ハ右運搬ノ請負ヲ爲スヲ主ナル業務ト爲スモノナルヲ以テ一種ノ運送業者ナリ又荷主





ハ市場ヲ指定セスシテ沖宿ニ一任スルコトアリ斯カル場合ニ沖宿ハ自己ノ適當ナリト信スル市場ニ持チ行キ販賣ヲ委託スルヲ以テ此ノ場合ニハ一種ノ仲立業者ナリト思考セラル沖宿ハ字品ニ八軒アリテ右運搬ノ駄賃トシテ賣上高ノ三分ヲ荷主ヨリ受ク但シ此三步ハ會社ニ於テ仕切ノ際同時ニ之ヲ差引キ置キ會社ヨリ沖宿ニ對スル歩戻一步ト合セテ四歩ヲ沖宿ニ交付ス

尙生産者ヨリ會社ニ至ル關係ヲ圖解セハ次ノ如シ



備考 ○ノ中ノ數字ヲ記入シタルハ會社ニ對スル委託主トナル

會社ハ毎日賣上高ノ内ヨリ口錢一割其ノ他諸掛ヲ差引キ問屋、沖宿等市場へ來クル者ニ對シ仕切金ヲ交付ス

中宿其ノ他市場ニ荷ヲ搬入シ來タルモノニ對シテハ會社ハ從來朝飯ト酒一本ヲ供シ居タルモ昨年ヨリ之レヲ改メ食事代トシテ其ノ日ノ賣上高五圓ノモノニハ十五錢十圓以上ノモノ

ニハ三十五錢ヲ現金ニテ交付スルコトトシタリ最近毎日此金額十七八圓ニ上ルト云フ

ハ、會社對買出人

此ノ間ノ賣買方法ハ糶賣ニ依ル買出人ノ多クハ市内ノ小賣商人ナリ此ノ内一人遠地送リノ仲買アリ其ノ買入高毎月一萬數千圓ニ上ルト云フ

買出人ハ會社ノ承認ヲ得タルモノニ限ル目下約三百人アリ當會社ハ主トシテ問屋、買出人ノ組織ニ係リ最初ハ買出人ヨリ保證金ヲ徵セサリシモ中途ヨリ之ヲ改メ後記契約書ト共ニ保證金ヲ徵スルコトトセリ其ノ額ハ信用程度ニ依リ一定セサルモ最高百五十圓最低百圓ナリ此ノ保證金ヲ徵セラレ居ル買出人二百四十人アリ

買出人ノ代金ノ支拂ハ月六回ト一回ノモノアリ前者ニ對シテ會社口錢ノ内三步後者ニ對シテ二歩ノ戻アリ

七、賣買方法

糶賣ノ方法ニ依ル糶ニ掛カル單位ハ一定セス糶手ハ適宜ノ數ヲ定ム例へハ地浦ノ鯛一尺五寸位ノモノ一尾ニテ七八寸位ノモノハ二尾若ハ三尾ヲ單位ト爲ス

糶ノ順序ハ初メ糶手ハ入荷數量ヲ考慮シテ其ノ日ノ大體相場ノ倍位ノ値ヲ呼ヒ之ニ對シテ買出人ハ最低額ヨリ順次糶リ上ケ適當ノ時最高値ニ落ス







口錢ノ外差引クヘキモノ左ノ如シ

(左記荷主ノ區分ハ第六取引事情ノ圖解ニ依ル)

(1) 問屋ニ對シテハ單ニ口錢ノミ

(2) 買集人(沖宿ヲ經由セサルモノ)

イ、直接市場ニ搬入スルモノニ付テハ口錢ノミ

ロ、旅荷ニ付テ配達賃、爲替料、書留料、電信料ヲ差引ク

(3) 買集人

(沖宿ヲ經由スルモノ)

(4) 生産者

イ、此等荷主ニ對シテハ會社ハ仕込金トシテ目下約八千圓ノ貸金アリ此貸金ハ荷主ト  
ノ取極ニ依リ仕切ノ際賣上高ノ二分乃至五分ヲ仕込ノ返濟ニ當ツ

ロ、沖宿ニ對スル駄賃トシテ三分ヲ差引ク

ハ、此等荷主ノ希望ニ依リ會社ハ仕切ニ端金ヲ生シタルトキハ其ノ端金ヲ預リ置クコ  
トアリ

此端金ハ益、暮其ノ他入用ノ際會社ヨリ受取ルモノナリ

端金預リノ例

賣上金額

六九、五五錢

口錢及仕切返濟トシテ一割二分

八、三五

扱宿ノ駄賃三分

二、〇九

仕切金ハ差引殘高五九、一一錢ナルモ此ノ端金一一錢ヲ預リ金トシテ差引キ結  
局五九圓ノ仕切トナル

會社ヨリ荷主ニ對スル歩戻

a 問屋ニ對シテハ半期毎ニ各問屋委託物ノ賣上高ノ二分

b 沖宿ニ對シテハ一步

ロ、會社買出人間

此間ノ代金決濟ハ月六回ノモノト月一回ノモノト二種アリ月六回拂ノモノハ五日、十日  
十五日、二十日、二十五日、月末ヲ支拂日トシ各前五日間ノ買受代金ヲ拂フモノナリ  
月一回拂ノモノハ翌月二十日迄支拂フモノトス

實際ハ月一回拂ノモノ多シ

會社ヨリ買出人ニ對スル歩戻ハ月六回拂ノモノニハ會社口錢ノ内三步月一回拂ノモノニ  
ハ二歩ヲ戻ス何レモ半期毎ニ計算ス



九、賣上高

大正十二年百二十六萬圓

物品買掛契約證書（東洋水産市場會社用）

一、自分儀貴社市場ニ於テ自分取引商號（ ）ヲ以テ魚類其ノ他ノ物品ノ買掛ヲ爲スニ付左ノ條項ヲ  
確守履行可致候

第一條 貴會社ニ於テ自分及自分商號ヲ以テ買掛爲シタル代金支拂方法左ノ如シ

一、毎月一日ヨリ其ノ月末日迄ノ金額ヲ翌月 日迄ニ支拂可致候事

二、毎月一日ヨリ五日迄ノ金額ヲ十日迄ニ六日ヨリ十日迄ノ金額ヲ十五日迄ニ遞次五日間毎ニ支

拂可致候事

但貴社ノ都合ニ依リ期間内ト雖御請求相成候トキハ其ノ都度支拂可致候事

第二條 第一條ノ支拂期日ニ其ノ支拂ヲ怠リ又ハ貴社ノ都合ニ依リ中途買掛ヲ停止セラレタル場合

ニ於テ最終買受當日迄ノ買掛金額全部ヲ一時ニ支拂フヘシトノ御請求相成候トモ異議ナク  
其ノ責ニ應スヘシ候事

第三條 貴社ノ都合ニ依リ供託セル保證金（五日勘定ノ分ハ十日間一ヶ月勘定ノ分ハ五十日間買入  
見積金額ニ依ル金額トス）ヲ以テ買掛代金ニ充當セラルル場合アルトモ異議無之候事

第四條 買掛金額ノ證明ハ貴社ノ帳簿ニ依リ之ヲ承認可致候事

第五條 保證人ハ前記各條項ノ契約ヲ承諾ノ上保證人トナリ本人ト連帶シ尙保證人間ヲモ連帶シ其  
ノ支拂義務ヲ負擔可致候事

第六條 本契約之存續期間ハ契約當日ヨリ滿 〇 年〇 月 〇 日 〇 時 〇 分 〇 秒

右條項ヲ確守スル爲保證人連署シ契約證書一札如件

年 月 日

買受人

連帶保證人（三名）

會社宛



會社ニ於テ毎日各委託主別ニ清算ニ用フル傳票

**傳票支拂切仕**

No. \_\_\_\_\_ 社長印

大正 年 月 日

主任印 荷主 殿

		千	百	拾	圓
計算係	賣揚金額				
	歩合口錢				
出納係	預り金				
	仕切支拂高				
營業係	扱宿運搬費拂戻金				
	扱宿歩拂戻シ金				
扱	食費				
	扱宿拂戻シ金合計				

扱者印 東洋水産市場株式会社 (計)

(口) 廣島ヤマ三魚市場

一、沿革

當市場(東魚屋町)ト軒ヲ並ヘテ隣接セル廣島魚市場(平田屋町)トハ最モ古キ歴史ヲ有シ右兩町ハ市場地帯トシテ二百年前ヨリ存シタルモノナリト云フ明治維新後右兩町ニハ魚問屋數軒アリタルモ後會社組織トナリ又ハ廢業シタルモノアリ現今前記ニ市場ノミトナレリ

二、市場名位置

廣島ヤマ三魚市株式會社

廣島市東魚屋町ニ在リ附近ハ市中繁華ノ地ニシテ廣島驛ヨリ約十町己斐驛(トロールモノノ着驛)ヨリ約二十町、宇品(地浦モノノ陸揚場)ヨリ約二十五町アリテ海陸運輸ノ連絡便ナラス

三、取引品目

鮮魚介類

四、組織

大正元年十一月株式會社ヲ組織シ自ラ委託販賣ヲ爲ス  
資本金十二萬五千圓拂込金五萬圓



從前ノ問屋ノ組織ニ依ルヲ以テ株主ハ僅十名ナリ

五、規模及設備

イ、建物二五〇坪

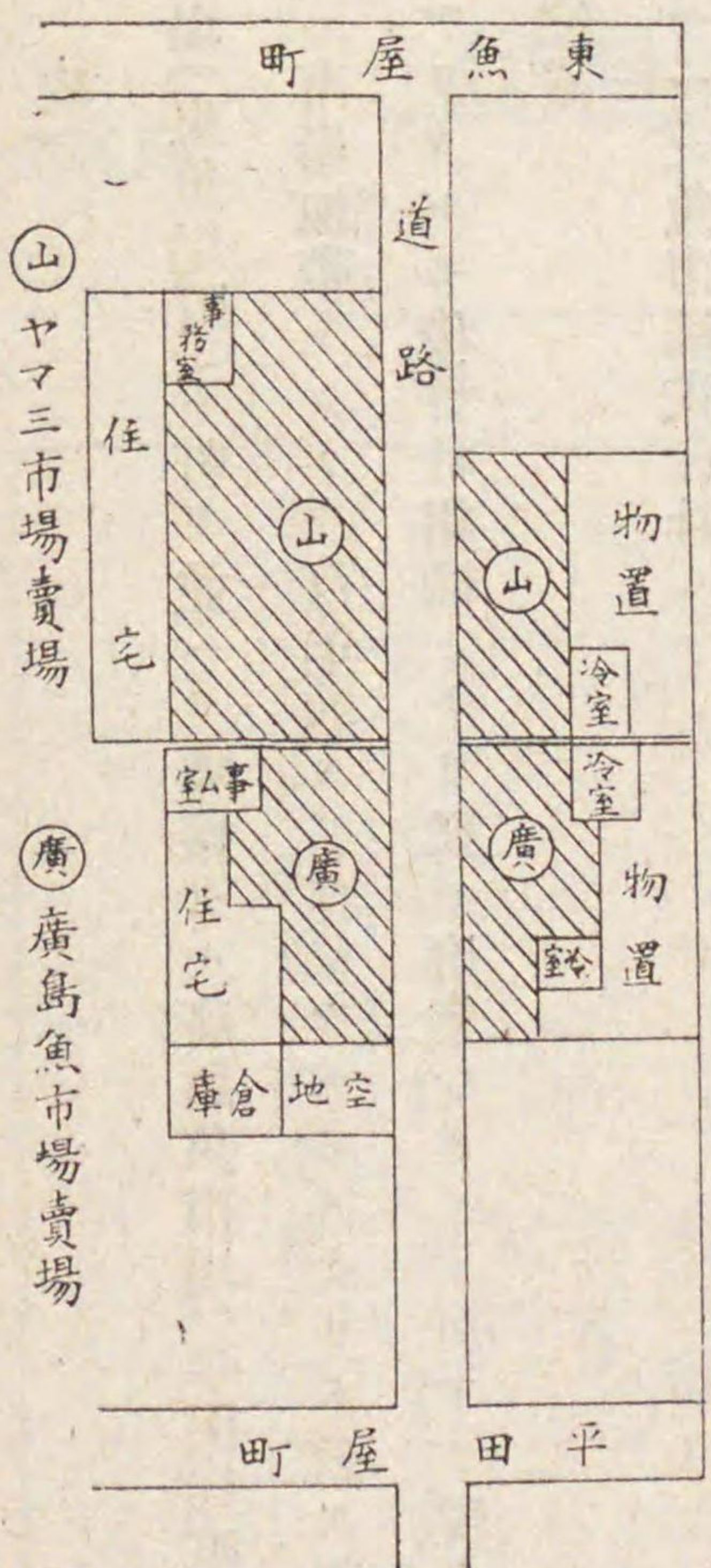
賣場 二〇〇坪

住宅 五〇坪(役員住宅)

ロ、冷室二屯收容(賣場ノ一隅ニ在リ)

ハ、共同便所、事務室アリ

ニ、賣場ハ全部石疊敷ナリ



六、取引事情

賣買方法、口錢及代金決済

此等ノ關係ハ大體東洋水産市場ト同様ナリ之ト異ナル點ヲ擧クレハ

(イ) 當市場ニ於ケル專屬問屋ハ二名アリテ當市場ノ取扱高ノ半分ハ右問屋ノ委託ニ係ルモノナリ

(ロ) 會社カ問屋以外ノ荷主ニ對スル仕込ハ二萬圓位ノ見込ナリ

(ハ) 沖宿其ノ他市場ニ荷ヲ搬入スル者ニ對シテハ朝飯及酒一本ヲ供シ此ノ見積金高年額

三、〇〇〇圓位アリ

(ニ) トロール物ト地浦物トハ略相半ス

(ホ) 糶手ハ總テ會社ノ使用人之ニ當リ其ノ員數九人アリ

(ヘ) 買出人ハ廣島魚市場ト共通ニテ毎日三四百人位アリ此ノ内遠地送りノ仲買二人アリ買出人ニ對シテハ保證人二人以上ノ連帶ニテ契約書ヲ會社ニ届出サシム此ノ契約書ヲ差出ササルモノニハ二百圓乃至百圓ノ保證金ヲ徴ス現在保證金ヲ差出セルモノ約二十人アリ

七、賣上高

大正十二年度六十三萬圓







六、取引事情

賣買方法、口錢及代金決済

此等ノ關係ハ大體東洋水産市場ト同様ナリ之ト異ナル點ヲ擧クレハ

イ、專屬問屋四軒アリ當市場ノ取扱高ノ五分ノ二位ハ右問屋ノ委託ニ係ルモノナリ

ロ、問屋以外ノ荷主ニ對スル仕込金ハ約四萬圓アリテ當市ニ於ケル魚市場中最モ多額ナリ

ハ、糶手ハ總テ會社ノ使用人之ニ當リ入荷量ノ多キトキハ其ノ員數十一人アリ

ニ、沖宿其ノ他市場ニ荷ヲ搬入スル者ニ對シテハ賄ヲ供ス

此見積金高年額三、〇〇〇圓ヲ下ラス

ホ、トロール物ト地浦物トハ稍相半ス

ヘ、買出人ハ廣島ヤマ三魚市場ト共通ニシテ毎日三四百人位アリ此ノ内遠地送りノ仲買二

人アリ

買出人ニ對シテハ保證人二人以上ノ連帶ニテ契約書ヲ會社ニ差出サシム、此契約書ヲ

差出ササルモノニハ二百圓乃至百圓ノ保證金ヲ徴ス現在保證金ヲ差出セルモノ約二十

人アリ

ト、荷主ニ對スル歩戻ハ

a 遠地モノニハ 一步

b 活魚 三步

c 其ノ他 二步

七、賣上高

大正十二年六十二萬圓

(三) 天満市場

一、沿革

當市場ハ相當古キ歴史ヲ有スル由ナルモ其ノ沿革判明セス以前市場ハ天満橋ノ傍ニ在リタルモ明治三年現在ノ場所ニ移轉セリ

明治二十二年一部ノ當業者ハ當市場ヨリ分離シテ他ニ廣島新市場ヲ設置シタリ

二、市場名位置

天満市場——天満舊市場トモ稱ス

廣島市廣瀨町天満川端ニ在リテ水運ノ便アリ横川、己斐兩驛迄十町内外アリ

三、取扱品目

蔬菜、果物、乾物、漬物、鮮魚、蒲鉾、履物、雜貨



但シ蔬菜、果物ハ卸賣ヲ主ナルモノトス

四、組織

問屋、仲買、小賣商等當業者ノ集合ナリ

五、規模

(イ) 敷地

千百五十坪ノ内通路ヲ除キ七百四十坪ハ廣瀨町外七箇町ノ共有地ニシテ市長ノ管理  
スル所ナリ當業者ハ市長ヨリ之ヲ

借受ケ居レリ

(ロ) 建物ハ

當業者各自ノ建設ニ係ル

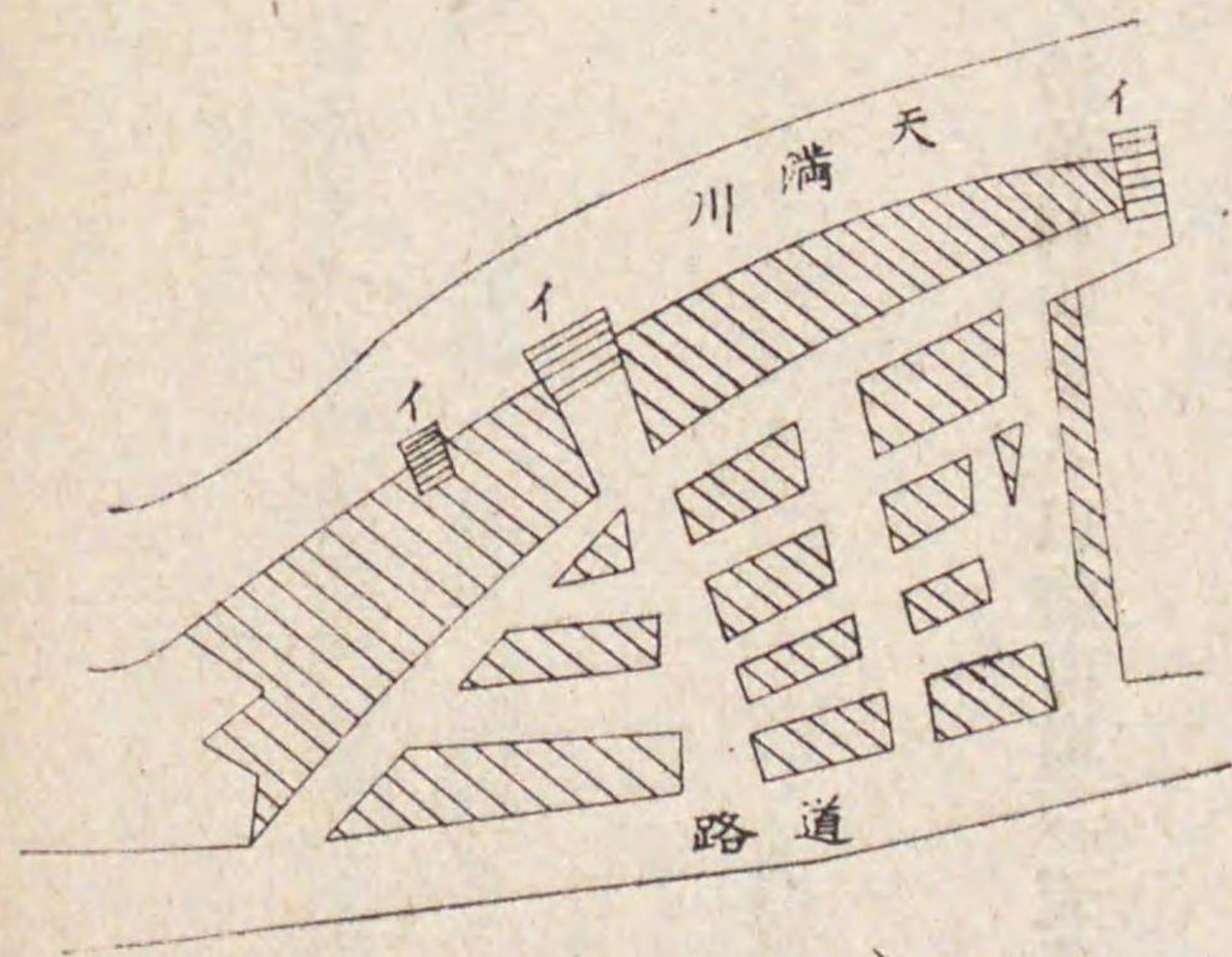
(ハ) 市場ノ見取圖

六、取引事情

當市場ハ卸小賣併用ノ市場ナリ

(イ) 開市時間

略午前八時ヨリ夕方マテ



ハ賣場  
イハ石ノ階段

(ロ) 卸取引ハ主トシテ蔬菜果物ニ付テ行ハル

(ハ) 問屋十五軒アリ荷主トノ關係ハ委託販賣ヲ主トス

(ニ) 問屋ハ市場内ニ店舗ヲ構フル仲買六十人及買出人ニ對シ相對賣ヲ爲ス

(ホ) 仲買ニシテ問屋業ヲ兼ヌルモノ多少アリ

(ヘ) 仲買ハ買出人ニ對シ相對賣ヲ爲ス

(ト) 買出人ハ毎日七百七百人位アリ其ノ内小賣商ハ約五百人消費者ハ二百人位アリ

七、口錢及代金決済

問屋ニ委託シタルモノ、口錢ハ各問屋間一定シ居ラサルモ普通

旅荷 一割

地廻 五歩乃至七歩

問屋、仲買ノ内問屋八名仲買十八名ヲ以テ組合ヲ組織シ居リ此組合間ノ取引ニ付キ仲買ニ

對シテハ問屋口錢ノ内旅荷ニ付キ三步ノ戻アリ

仲買及小賣商人ノ買受代金ハ月末拂ノモノ多ク消費者ハ現金買トス

八、賣上高

問屋ノ賣上大正十二年約百二十萬圓



(木) 廣島新市場

一、沿革

明治二十二年天満市場ノ當業者分離シテ開設シタルモノナリ

二、市場名、位置

廣島新市場——單ニ新市場トモ稱ス

廣島市廣瀬町ニ在リ天満市場トノ距離一町弱ナリ

三、取扱品目

蔬菜、果物トス

此時乾物、漬物モ取扱フモ少量ナリ

四、組織

問屋、仲買ノ集合ナリ

五、規模

(イ) 敷地 千坪

内 三百三十坪ハ組合員ノ所有地

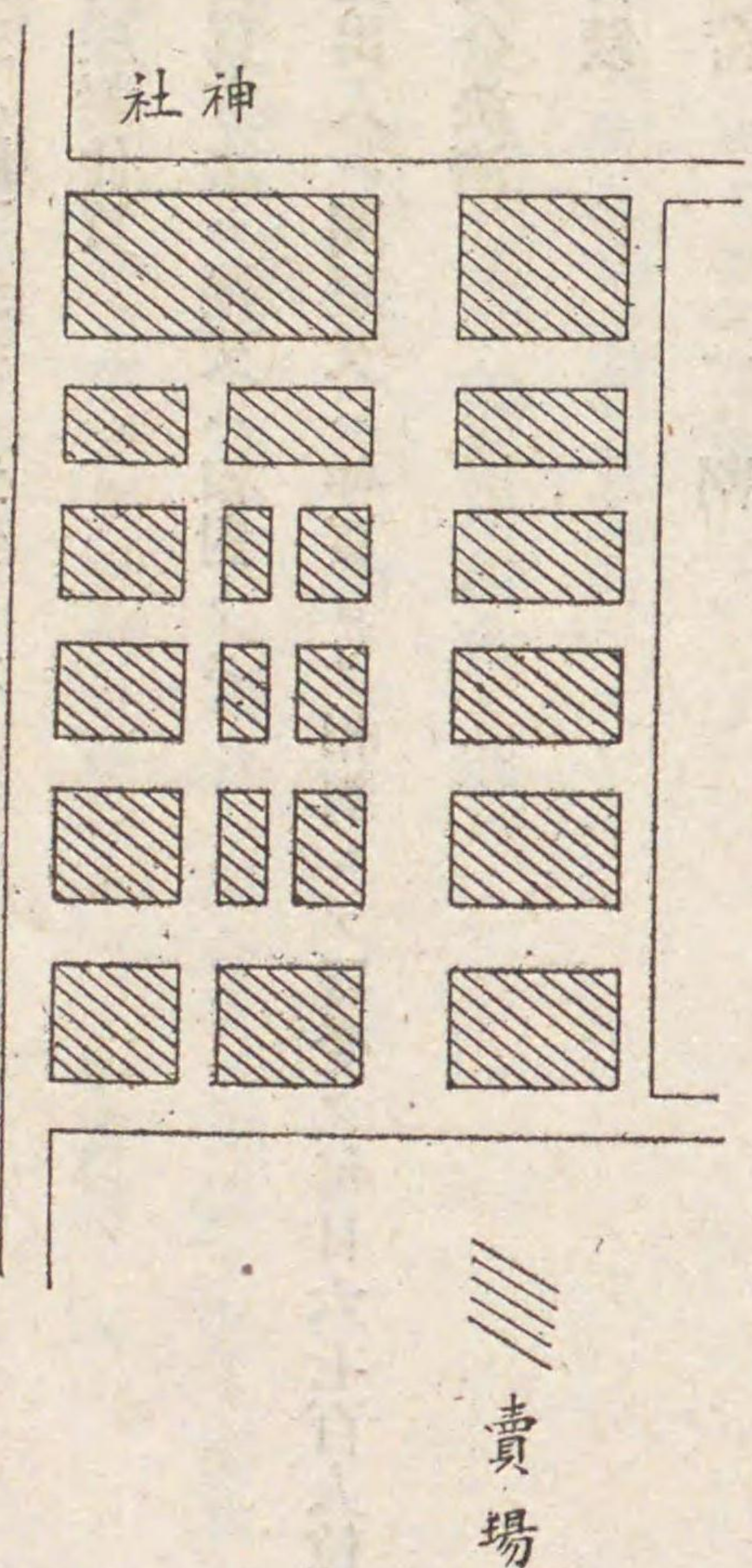
六百七十坪ハ森川某ノ所有地ニシテ同人ヨリ當業者ニ賃貸シ居レリ

(ロ) 建物 約六百坪

問屋、仲買、附屬商各自ノ建築ニ係ル

附屬商ハ荒物、蒲鉾等七軒アリ

(ハ) 市場ノ見取圖



六、取引事情

(イ) 開市時間

夏期午前五時ヨリ十時マテ 冬期午前六時ヨリ十一時マテ

(ロ) 問屋、仲買ノ數



問屋十三軒、仲買二十軒

問屋、仲買各別ニ組合ヲ組織シ居レリ

(ハ) 荷主對問屋

委託販賣ナリ

荷主ハ縣下安藝、安佐、安伯各郡ノ生産又ハ此等ノ買集商人ヲ主ナルモノトス

(ニ)、問屋對仲買

賣買方法ハ糶又ハ相對トス

(ホ) 買出人ハ問屋又ハ仲買ヨリ相對ニテ買受ク毎日六七百人位アリ

七、口錢及代金決済

問屋口錢

旅 荷 一割

地廻モノ、内

松 茸 七 步

其ノ他 五 步

問屋ヨリ仲買ニ對スル歩戻

旅 荷 三 步

松 茸 三 步

仲買人及買出人ノ買受代金ハ月末拂ヲ主トス

八、賣 上 高

大正十二年度約百萬圓

新市場問屋同業組合規約

第一條 本組合ハ新市場青物問屋組合ト稱ス

第二條 同業者ノ親善ヲ計ルヲ目的トス

第三條 同業者ニ於テ事故ヲ生シタル場合ハ組合全員ヲ以テ之ヲ援助ス

第四條 組合長一名幹事二名ヲ置ク但シ年期ハ三ヶ年滿期トス

第五條 組合員ニ於テ營業上過失ヲ生シタル場合ハ役員ニ通知スヘシ

第六條 役員ニ於テ整理出來サル場合ハ臨時總會ヲナス

第七條 本組合積立金トシテ毎月金五圓ヲ徴收ス但シ集金ハ順番トス

第八條 積立金ハ組合ノ費用ニ使用ス

第九條 本組合ハ總會ヲ四期ニ開催ス



第十條 本組合ニ於テ違約セシ者ハ役員ヲ以テ注意ヲ與ヘ改メサル場合ハ總會ノ上除名ス  
廣島新市場青物仲買組合誓約並ニ規則書

今般世運ノ進展ニ伴ヒ諸種ノ惡弊ヲ驅除シ舊習ノ不利ヲ矯正シ時勢利福ヲ永遠ニ計ラン爲左ノ各項ヲ協議シ更ニ決定セントス

第一條 新市場ニ關連スル青物商之仲買業者ヲ以テ新市場仲買組合ト稱ス

第二條 當組合員ノ組織ハ青物仲買業ヲ以テス

第三條 當組合員ハ商業ノ發展及互ニ親睦ヲ計リ殊ニ共同一致以テ諸事ニ當ルヲ以テ眼目トス

第四條 當組合員信認金及基金ノ目的ヲ以テ一日一人金拾錢宛ヲ支出スル事  
保管及集金ハ互選ニ於テ決定シ集金ニ對シテハ滿一ケ年間毎ニ處理協議ス

第五條 當組合ニ組合長一名及幹事若干名ヲ置キ幹事ノ内一名及二名ノ常任幹事ヲ互選ス

第六條 當組合ノ決議事項ハ其都度集會若クハ口頭又ハ筆紙ニ依リ組長又ハ幹事ヨリ通牒ス

第七條 當組合ノ規約及決議ニ反對ノ行動ヲナシ又ハ違反シタル組合員ハ組合員ニ於テ絶對ニ取引

ヲ中止シ違反者ハ當市場ニ於ハ商事セサル事ヲ誓約シ尙ホ信認金タル積立ハ當組合ヘ收ス

ル事ニ於テ異議ナキ事ヲ契約ス

第八條 當組合ハ右ノ各條ニ異議ナク承認セシモノヲ當組合員ト見做シ左ニ署名捺印セシム

九條 當組合ノ設立ト實行ハ各員ノ捺印ト同時ニ効果アルモノトス  
右ノ各項ヲ堅ク遵守シ信義道德ノ實行ヲ期スル爲賛同之上左ニ署名捺印ス

追而各項ノ不備及法則ニ就テハ當組合完備ノ上組合員半數以上ノ決議ニ依リ修正加除スル事トス

(ハ) 荒神町青物市場

一、沿革

明治四十一年ノ開設ニ係ル

二、市場名、位置

荒神町青物市場

廣島市荒神町二百六十一番地

三、取扱品目

蔬菜 果物

四、組織

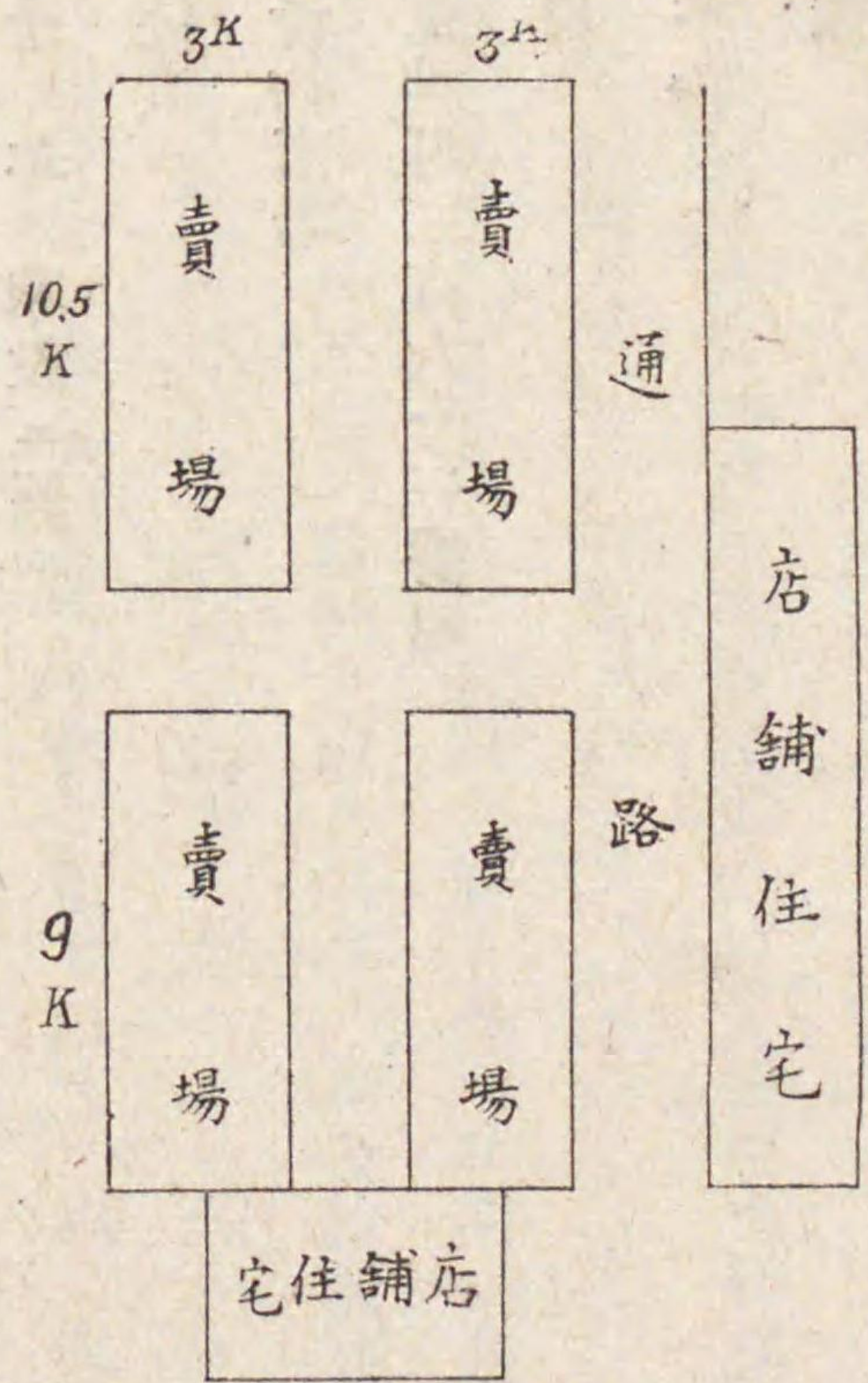
建物ハ菅尾如意智外數名ノ所有ニシテ之ヲ問屋ニ貸付ク現在ノ問屋ハ山本源助外二名ナリ

五、規模、設備

(イ) 敷地 四百三十九坪



(ロ) 建物 二百十二坪餘  
 内 店舗住宅併用 九十五坪餘  
 糶賣場(四棟) 百十七坪



六、取引事情

(イ) 開市時間 早朝ヨリ十時頃マテ

(ロ) 荷主對問屋

當市場ニ入荷スル蔬菜ハ地廻物大部分ヲ占ム果物ハ旅荷多ク荷主トノ關係ハ總テ委託販賣ナリ

(ハ) 問屋對買出人

買出人ハ市内ノ所謂八百屋ニシテ毎日百二十三人ノ買出人アリ此ノ間ノ賣買方法ハ糶賣ヲ主トス

七、口錢及代金決済

(イ) 荷主問屋間 口錢五歩

地廻物ニ付テハ生産者自ラ市場ニ搬入シ取引終了後問屋口錢ヲ差引キ仕切金ヲ受取ル旅荷ニ付テモ毎日仕切金ヲ送付スルモ少額ノモノニ付テハ數日ノ分ヲ一纏メトシテ送金スルコトアリ

(ロ) 問屋對買出人

買受代金ノ支拂ハ普通月末勘定ナリ現金賣モ多少アリ問屋ヨリ買出人ニ對スル歩戻ハ一步トス

八、賣上高

大正十二年度約六萬圓

(ト) 草津町魚市場

一、沿革



當市場ハ古クヨリ廣島市ニ對スル鮮魚ノ配給ヲ爲シツ、アリタルモノニシテ古キ沿革ヲ有シ少クモ二百年以前ノ開設ナリト云フ

二、市場名・位置

草津町魚市場

佐伯郡草津町大字問屋町海岸ヨリ約二町餘リ己斐驛ヨリ約二十町ノ所ニ在リテ現在ノ位置ハ海陸運輸ノ便尠ナシ

三、取扱品目

鮮魚介類

四、組 織

問屋八軒相隣接シ個々ニ營業シ居レリ共同シテ市場ヲ經營セルニアラス問屋ノ氏名次ノ如シ

- |        |         |       |       |
|--------|---------|-------|-------|
| 望月 庫之助 | 八ツ井 八重市 | 三島 淳三 | 島原 廣治 |
| 増村 正之  | 吉本文 右衛門 | 西 素一  | 小西辰五郎 |

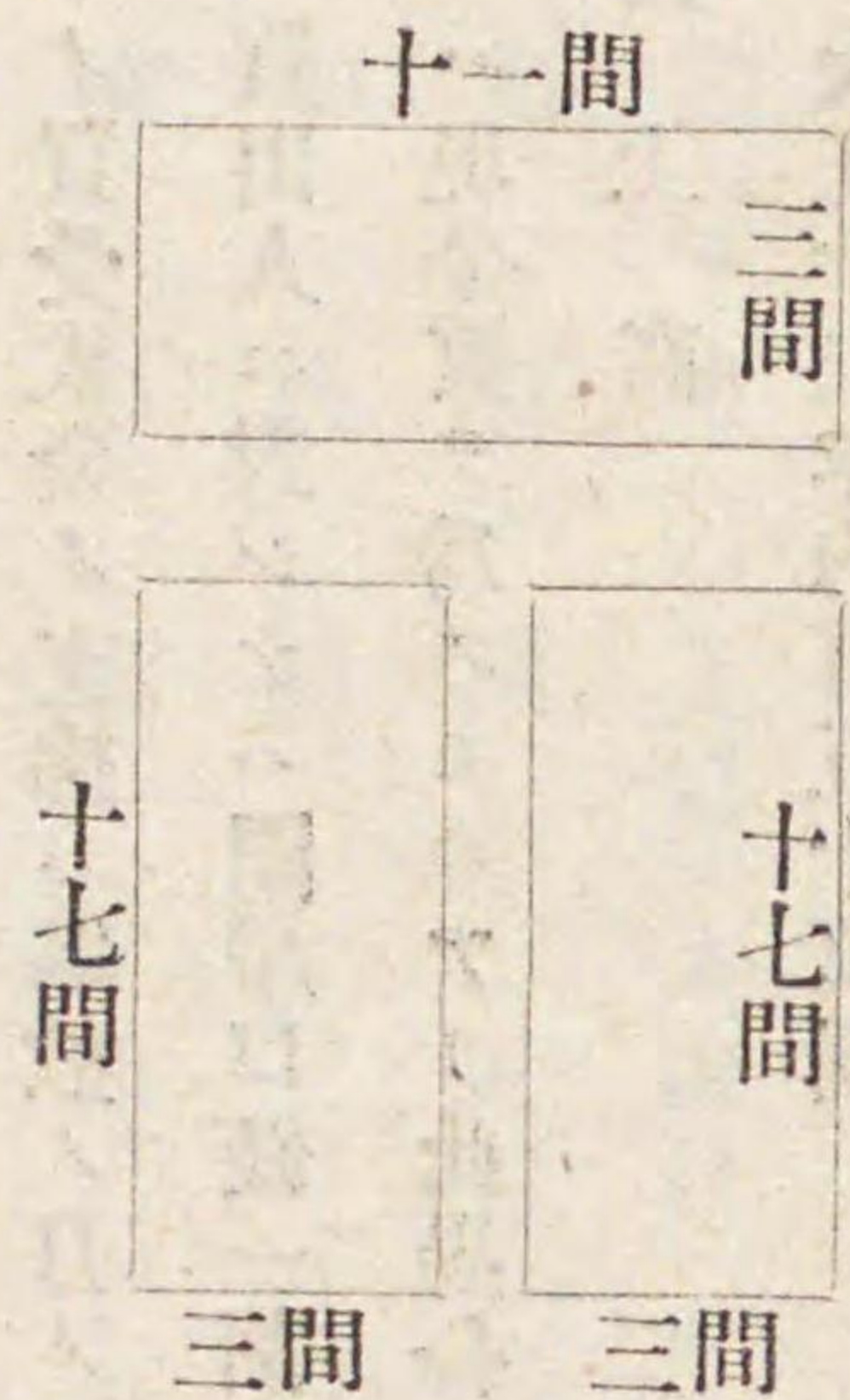
五、規模設備

イ、敷地ヲ除キ建物(賣場)ノ坪數一三五坪

ロ、賣場及通路ハ全部石敷

ハ、各問屋ト一坪半乃至四坪ノ冷室ノ設ケアリ

ニ、賣場ニハ各二ヶ若クハ三ヶノ糶臺ノ備アリ



六、取引事情及賣買方法

問屋個々ノ取引事情及賣買方法ハ大體廣島市東洋水産市場ト同様ナリ特ニ異ナル點ヲ舉ク

イ、當市場ニ於ケル昨年ノ賣上高約百五十萬圓ノ内其ノ半ハ當草津町ニ於ケル蒲鉾製造ノ原料ニ供セラル當地ハ古來ヨリ蒲鉾ノ產地トシテ世人ニ知ラル

ロ、當市場ニ於ケル鮮魚ノ取扱高ノ内地浦モノトロールモノトノ割合ハ約六對四ノ比ナリ

ハ、買出人トシテ問屋ノ承認ヲ受ケ居ルモノ(仲買人ト稱ス)ハ四百人内外アリ此外問屋ノ



承認セサル買出人(小賣人ト稱ス)アリ此等ニ付テハ直接問屋ヨリ買受クルコト能ハス  
 仲買人ノ名義ヲ以テ買受ク即チ仲買人ノ名義貸ノ關係ニ在リテ仲買人カ問屋ヨリ受ク  
 ル歩戻一步五厘ハ右名義貸ノ代償トシテ小賣人ニ交付セス自己ノ取得スルモノナリ  
 此等買出人ノ内約八十名ハ廣島市天満舊市場ニ於テ主トシテ小賣ヲ爲ス其ノ他買出人  
 ハ廣島市並草津町等ニ於ケル店舗ヲ構フル所謂魚屋又ハ振賣人ナリ

七、口錢及代金決済

東洋水産市場ト大體同様ナリ唯異ナル點ハ買出人ノ代金ノ支拂時期及歩戻ノ點ナリ買出人  
 ノ買受代金ノ支拂ハ偶數ノ月ノ末日拂トス即チ年六回ノ勘定ナリ  
 買出人ニ對シテハ問屋口錢一割ノ内一分五厘ヲ戻シ各計算期ニ一纏メトシテ交付ス又稀ニ  
 ハ現金買ヲ爲スモノアリ此場合ニハ三分ノ戻アリ

八、賣上高

大正十二年約百五十萬圓

八、下關市

一、下關市ト消費經濟上一體ヲ爲スヘキ隣接町村

下關市	人口	八四、一一〇	面積	一、〇一 <sup>方里</sup>
彦島町	同	一五、三二七	同	
川中村	同	三、一〇〇	同	
長府町	同	一〇、一七七	同	三、七五
勝山村	同	三、〇八二	同	
合計人口	大正十一年末	一二五、七九六	面積	四、七七 <sup>方里</sup>

二、下關市ニ於ケル新鮮食料品ノ集散及消費ノ狀況

當地ハ魚類、蔬菜、果物ニ付テハ集散地タル關係ヲ有シ殊ニ魚類ニ付テハ其ノ關係著シキモノアリ  
 大正十一年中之等ノ商品ニシテ當市ニ入荷セルモノ及其生産高合計ノ見込價額ハ六千九百九十三萬餘  
 圓ニシテ内他ニ輸移出セラレタルモノ五千九百十七萬餘圓(九割五分)ノ多キニ達セリ



斯ク大集散地タルニ至リシ重ナル理由ハ

(イ) 鮮魚ニ付テハ當地ハトロール漁業根據地ニシテ現在本邦ニ於ケルトロール船七十隻(總噸數一萬六千九百五噸平均一隻二百四十一噸五)アリ其ノ内下關ニハ五十六隻アリテ全體ノ八割ヲ占メ

(ロ) 蔬菜果物ニ付テハ縣下厚狹、豊浦、美彌各郡共其ノ栽培盛ナルト

下關ハ本州ノ咽喉ヲ扼シ朝鮮及臺灣トノ交易上便利ナル地點ヲ占ムル爲ナルヘシ

今大正十一年ニ於ケル入荷及生産高ヲ左ニ掲ク

大正十一年下關市魚類、蔬菜、果物入荷及生産高

鮮魚	鹽干魚	蔬菜	合計		鐵道		合計ニ對スル割合	
			海路	合計ニ對スル割合	合計ニ對スル割合	地廻生産品	合計ニ對スル割合	
噸 二六、〇一五	噸 三〇、三四八	噸 二、五〇〇、〇〇〇	一二、八九二	九割六分	三、三六六	二分	七五七	九割六分
圓 三〇、九三三、七五	圓 一五、一七四、一五	圓 二、五〇〇、〇〇〇	三、六八、七〇〇	九割六分	一、〇三、一六六	二分	二四一、八九〇	九割六分
噸 二五、二五〇	噸 一、四一、〇〇〇	噸 二、〇七三	八割三分	八割三分	二、八八二	九分	二、二六	七分
噸 一、二、二八二	噸 一、一〇、〇〇〇	噸 八、一五〇	八割三分	八割三分	一、四一、〇〇〇	九分	一、一〇、〇〇一	七分
噸 二、五〇〇、〇〇〇	噸 六〇、四九七	噸 二、五〇〇、〇〇〇	八、五二〇	三分	二、四八、四八〇	九割六分	九割六分	九割六分

果物

噸 三、一、八七四	噸 一〇、二五	噸 二、九三	噸 一八、八六	噸 五割九分
圓 六、三三〇、八〇〇	圓 二、〇一五、〇〇〇	圓 五、六、六〇〇	圓 三、一〇九、二〇〇	圓 五割八分

總計

噸 二四八、七四	噸 一五七、三六七	噸 六割三分	噸 一一、二五四	噸 四分	噸 八〇、二三	噸 三割二分
圓 二、九六、七〇七	圓 五、三三、八五〇	圓 八割二分	圓 三、三三、二六六	圓 五分	圓 七、四七、五七一	圓 一割二分

備考

一、本表ハ下關市統計年表市當局及當業者ノ意見ニ基キ作成セリ

二、特ニ判明セルモノヲ除クノ外ハ鮮魚一噸三百一圓、鹽干魚五百圓、蔬菜四十圓、果物二百圓トシテ換算セリ

前表ノ内

海路ニ依リ入荷シタルモノノ内

- a 鮮魚ハトロール船漁獲物ヲ主ナルモノナリ
- b 鹽干魚ハ朝鮮各港ヨリ積出セルモノ多シ
- c 果物ハ臺灣バナナ大部分ニシテ紀州味柑之ニ次ク

更ニ同年ニ於ケル魚類、蔬菜、果物ノ輸移出及消費狀況ノ大體ヲ見ルニ輸移出價額五千九百十七萬餘圓消費價額三百十二萬餘圓アリ之ヲ入荷及生産額六千九百九十三萬餘圓ニ比較スルトキハ前者ハ九割五分後者ハ五分ニ當ル







(ロ) 鐵道ニ依リ移出セラレタルモノハ小口扱並貸切扱ノ合計ナリ  
 内鮮魚ニ付貸切扱ニ係ルモノニ付主要仕向驛別表ヲ左ニ掲ク  
 大正十一年下關發鮮魚鐵道輸送主要仕向驛別

仕向	貨切	貨車數	發送數量	價額
大 阪	三、一三	八四六	三、九五九	二八、三三六
京都梅小路	一、八四五	四一八	一、二、六四	一六、二〇〇
兵 庫	五、六	一五二	七、四三	五、三三九
神 戶	四、〇	六二	四、七二	三、三七九
津	二、〇	一	二	一、五〇
熱 田	四、三	七〇	四、三	三、四七
名古屋	三	六	三、八	二、七二
靜 岡	二、三	三	二、五	一、八一
濱 松	二	七	二、六	二、〇〇
沼 津	一、八	四	二、二	一、五七
沙 留	一、二、〇九	一、八三	一、三、九二	九、九六六
岡 山	五、二	一、七四	七、三六	五、二六九
己 斐	四、九六	一、八七	七、〇	五、二六
福 山	一、六七	六〇	二、二七	一、六五
吳 路	九、四	二、三	一、二六	九、〇二
姫 路	八、九	二、四	一、三	八、〇九
糸 崎	二、六	九	一、三	八、〇九
尾 道	四	二	一、六	一、四
福 井	六	六	二、四	一、七
山 形	三	一	二、三	一、六四
盛 岡	三	一	一、五	一、〇七
土 崎	五	二	一、七	一、二
仙 臺	九	一	一、〇	一、二
其ノ他	八、〇八	四、三	四	一、〇
合 計	一〇、三三	二、六九三	三、三、九八	九、二、九七〇

沙 留	一、二、〇九	一、八三	一、三、九二	九、九六六	一、九六四、六六九	三、〇一七、七三二
岡 山	五、二	一、七四	七、三六	五、二六九	一、〇三八、七九〇	一、五九五、五八一
己 斐	四、九六	一、八七	七、〇	五、二六	一、〇三〇、三三二	一、五八二、五七五
福 山	一、六七	六〇	二、二七	一、六五	三、三〇、三八八	四、九二、一六
吳 路	九、四	二、三	一、二六	九、〇二	一、七、八三	二、七三、一五六
姫 路	八、九	二、四	一、三	八、〇九	一、五九、四八八	二、四四、九三六
糸 崎	二、六	九	一、三	三、〇〇	五、九、二七九	九、〇、五二
尾 道	四	二	一、六	一、四	二、三、五八一	三、四、六八六
福 井	六	六	二、四	一、七	三、三、八七四	五、二、〇三一
山 形	三	一	二、三	一、六四	三、三、四三二	四、九、八六二
盛 岡	三	一	一、五	一、〇七	二、二、一七一	三、一、五九九
土 崎	五	二	一、七	一、二	二、三、九九四	三、六、八五五
仙 臺	九	一	一、〇	一、二	一、四、一四	二、一、七九
其ノ他	八、〇八	四、三	四	一、〇	八、八、三四	一、一、四一、六六八
合 計	一〇、三三	二、六九三	三、三、九八	九、二、九七〇	一、八、三三、一、五五	二、八、〇五、六、二八九



(噸六七、八九二)

備考 一、本表ニ依ルトキハ一噸當(風袋込)價額三百一圓

一噸當(正味)同 四百十三圓

二、正味噸數ハ風袋噸數ニ對シ約七割三分ニ當ル

消費狀況ノ大體ヲ見ルニ大正十一年ニ於ケル魚類、蔬菜、果物ノ消費價額ハ三百十二萬餘圓アリ之ヲ同年ニ於ケル入荷及生産額六千九十三萬餘圓ニ比較スルトキハ僅ニ五分ニ當ル

内他ノ製品原料トシテ消費セラレタルモノ鮮魚約六十四萬餘圓アリ之ヲ除キタルモノヲ大正十一年末人口一人當リ消費額ハ左ノ如シ

人	口	消費額	一人當
一一五、七九六		二、四七五、〇〇〇 <sup>円</sup>	二一、三七 <sup>銭</sup>

内

鮮魚	六〇〇、〇〇〇	五、一八
鹽干魚	四〇〇、〇〇〇	三、四四
蔬菜	六二五、〇〇〇	五、三九
果物	八五〇、〇〇〇	七、三四

但シ當地ヲ通過スル旅行者ニシテ鹽干魚及果物ヲ土産物トシテ購求スルモノ相當多額(殊ニ果物ニ多シ)ノモノアル見込ナルモ其ノ額不明ニ付總テ當地ノ消費額トシテ計上シタリ

### 三、下關市ニ於ケル公設小賣市場

當市ニハナシ

### 四、下關市ニ於ケル市場

(イ) 唐戶魚市場

一、沿革

大正十三年六月二日阿彌陀寺魚市場ヲ唐戶町ニ移轉シ唐戶町魚市場ト稱セリ  
移轉シタル理由

イ、阿彌陀寺魚市場ハ明治四十二年ノ建築ニ係リ場所ハ市ノ東端ニ位シ當時ノ沿岸漁獲者ノ漁獲物ヲ主タル目的ニテ設置シタルモ現在ノ需給關係上其ノ位置適當ニアラサルコト

ロ、魚類ノ集散ハ漸次西方ニ推移シ目下唐戶町ヲ中心トシテ取引行ハレ加之當町ニ在ル港



市場業者三軒ハ次第ニ優勢ノ地位ヲ占メムトシツツアリテ阿彌陀寺魚市場ハ甚々シク機能ヲ失シタルコト

阿彌陀寺魚市場ノ賣上高

大正十一年度十九萬二千圓

二、市場使用料

一ヶ年 一五、八七七、三四〇

尙他ノ市營ニ係ル新地魚市場ノ使用料年額

三、七二三、六〇〇

三、規 模

イ、敷地七十九坪三合

ロ、建物坪數五十四坪八合

ハ、建築費四、五二八、四九

外ニ電燈 三五、五八

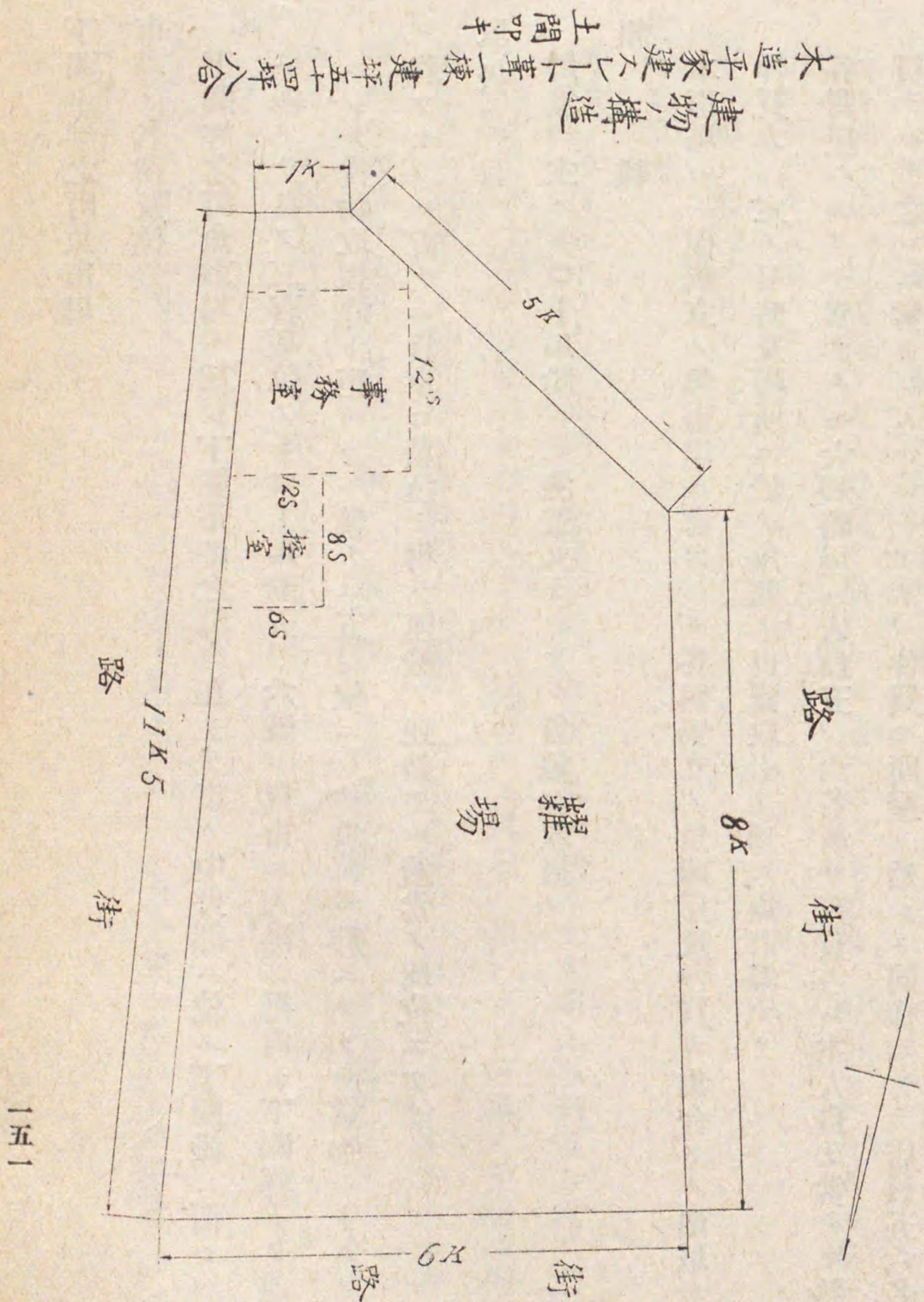
給 水 一〇三、四〇

計 四、六六七、四七

二、平面見取圖

唐戶魚市場平面圖

敷地坪數 七十九坪三合  
建坪數 五十四坪八合



木造平家建大トト葺一棟建坪五十四坪八合  
土間叩キ



(口) 下關市岬之町魚市場

一、市場ノ名稱及位置

下關岬之町魚市場ト稱シ下關市岬之町ニ在リテ市ノ中央部ニ位ス下關港ニ面シテ水利ノ便ハ極メテ良ク三百噸位ノトロール船五、六艘ハ自由ニ入港シ得尙ホ下關驛トノ連絡モ適當ニシテ貨物取扱驛ト距ルコト僅カニ五町位ニシテ魚荷ハ舩ニヨリテ貨物ホームノ岩壁ニ横着ケセラレ直チニ貨車ニ積込ミ得テ運輸ノ連絡アル適當ノ地位ニアリ

二、取扱品目

鮮魚、主ニトロール船ニテ漁獲セラレタル魚類ヲ取扱フ

三、組織

本市場ハ一個獨立ノ魚市場ニ非スシテ各個獨立ノ魚問屋及仲買カ集合スル地域ニシテ問屋仲買カ一定ノ日時及場所ニ於テ魚類ノ賣買取引ヲ爲ス魚市場ナリ  
各問屋ニヨリテ異ナルモ大體問屋ハ店員五、六名居リ賣買ニハ主人自ラ當ルモ熟練セル店員ヲシテ之レニ當ラシムルコトアリ、仲買モ問屋ト殆ント同様ニシテ店員五六名居リテ事務ヲ司ル

四、面積

建物 一千五百坪  
道路 二百四十坪 (二間道路約二町ニ亘ル)  
魚荷陸揚場ハ各問屋約五坪位ノ場所ヲ有ス  
排水路ハ巾一尺位深サ五六寸位ノ溝アリテ見エサル様道路ノ兩側ニアリテ汚水ハ海中ニ排出セラレル設備ナリ  
車置場ハ道路ヲ用ユ

五、建物及設備

問屋ハ各自店舗ヲ有シ木造二階建瓦葺ナリ下ハ荷捌所即チ土間ト事務室ト成リ二階ハ住宅ニ當テラル土間ハ全部コンクリート十二坪位ナリ魚類ハ總テコノ店舗ノ土間ニ列ヘラル市場内ニハ倉庫ナク物置場モ亦特別ノ設備ナク店舗裏濱岸ニ面セルコンクリート敷ノ僅カノ空地ニ容器ヲ積重ネ道路ハ極メテ狭シ仲買ハ荷造リ場トシテ十坪位ヲ有スルモノ普通ナリ岸壁ノ延長一町半アリテ階段ヲ備ヘテ荷揚場トス

六、出荷者

本市場ニ於テ取引セラレル魚類ハ總テトロール物ニシテトロール漁業ヲ經營スルモノハ次ノ會社ナリ



- 日本水産株式会社
- 日本トロール株式会社
- 株式會社日鮮組
- 旭水産株式會社
- 日正水産株式會社
- 共同漁業株式會社

現今本邦ニ於ケルトロール漁業ノ中心ハ實ニ下關ニシテ本邦ニ存スルトロール船ノ殆ント大部分ハ下關ヲ根據トスルモノナリ本邦ノ法規ニヨレハトロール船ハ七十艘ニ規定セラレ下關ニハ實ニ五十七隻アリテ約八割以上ヲ占ム

トロール漁業ノ船體ハ一〇〇噸以上二百七十五噸位マテアリテ頑丈ナル鐵船ニシテ午前二時乃至四時ニ入港シ荷役ヲ終リ出帆ノ用意ノ出來上ル迄即チ三十時間停船シテ直ニ次航海ニ出帆スルモノナリ一航海ハ凡ソ十二日乃至十五日間ニシテ月ニ凡ソ二回年ニ二十八回ノ航海ヲ以テ普通トス

而シテ之等ノ船ハ概ネ無線電信ヲ設備シアリテ漁獲ノ豊凶及歸港ノ日取等ハ漁獲ヲ行ヒツツ已ニ下關ニ通知スルモノナリ之ニヨリテ下關ニ於テハ市況ニ鑑ミテ入港ノ日ヲ通知スルモノトス、又下關ニ於テハ大阪方面ニ出張員ヲ置キテ東京、京都、阪神岡山地方ノ商況ヲ

見テ毎朝五時頃電報ヲ以テ通知シ來ルカ故ニソレニ準シテ市價ヲ定メ當地ニ於ケル販賣ヲ加減スルモノナリ

漁獲物ノ需要状態ヲ地方別ニスレハ次ノ如シ

	數量
下關	四〇%
大阪	三五%
京都神戸	一〇%
廣島其他	五%

輸送スルニ用ユル箱ハ三種アリ

- トロール箱 十貫目入
- レンコ箱 五貫目入
- 改良箱 五貫目入

トロール船ハ二週間以上ノ航海ニ堪ヘ約三、四十噸ノ碎氷ヲ積載シ漁獲セル鮮魚ヲ直チニトロール箱ニ入レテ其ニ碎氷ヲ詰メ込ミテ氷藏シ置ク設備ヲ有シ遠ク黄海及支那東海方面ニ出漁ス



氷ノ需用高ハ一隻ニシテ年ニ凡ソ九百噸ヲ使用スルモノナリ氷一噸ハ凡ソ九圓五十錢位ニシテ彦島日東製氷會社製造高ノ凡ソ九十%ヲ漁業用トシテ使用スルモノナリ而シテトロール漁業ハ一隻一ケ年間ニ四千圓以上ノ純利アル時ニ於テ引合フモノニシテソレ以下ノ時ハ營業ヲ中止スルモノナリトイフ

下關驛ニ集マル冷蔵貨車ハ二百七十輛(八噸積)ニシテ年ニ八萬噸以上ヲ取扱フ

トロール船一隻ノ漁獲物ハ貨車五、六車ヲ滿ストイフ

トロール船ノ積載量トロール箱七百個位ニシテ平均漁獲ハ四百五十箱乃至五百箱ナリ

### 七、問屋

問屋十七名問屋ハ荷主ヨリ委託ヲ受ケテ仲買人ニ魚類ヲ販賣スルナリ問屋ハ各々五、六名ノ店員ヲシテ事務ヲトラシム

日本水産株式會社ハ市場内ニ販賣所ヲ設ケテ自家ノ漁獲物ヲ販賣ス

問屋ハ下關鮮魚問屋組合ヲ組織シ新ニ組合員タラントスルモノハ組合員二名以上ノ紹介ニ依リ組合ノ定ムル加入金ヲ提供シ尙他ノ組合員ト同額ノ積立金ヲ爲スモノナリ

問屋ハ各自ニ店舗ヲ有シ廣サハ大イナルモノニテ四十坪(間口四間奥行十間)小ナルハ三十坪アリテ土間ハコンクリート敷キニシテ賣場ニアテ二階ハ大體住宅ナリ

### 八、仲買人

仲買四十二名

問屋ヨリ魚類ヲ買受ケテ之レヲトロール箱ニ荷造リシテ各地方ヘノ配給ニ従事スルモノナリ然レトモ市内ノ小賣人ニモ供給スルモ殆ント地方向キニセラル

仲買人モ問屋ト同様ニ各自ノ店舗ヲ有ス設備モ問屋ト同シ

### 九、附屬運送業者

運送業者ハ六名アリ之等ハ專屬セルモノニ非ス問屋及仲買ノ依頼ニヨリテ魚荷ノ運送ニ従事ス運送店ハ市場内ニ出入スル荷擔キノ労働者ヲ日給ニテ雇フ

### 十、運賃諸掛

トロール船ハ漁獲物ヲ積載シテ下關港ニ入船スレハ直チニ市場ニ魚荷陸揚ケノ準備ヲナシ問屋ノ契約ノ下ニ運送店ハ舩ヲ出シテ本船ヨリ魚荷ヲ積込ミテ岸壁ヨリ指定ノ問屋ニ運搬スコノ運搬賃トロール箱(十貫入)一個ニ付キ三錢五厘ナリ

問屋ト仲買トノ取引終レハ仲買人ハ直チニソノ場所ニ於テ或ハ自家ニ運ヒテトロール箱レシコ箱改良箱ニ各々荷造リシテ之レハ再ヒ舩ニテ貨物驛(下關驛構内ニアル)ノ岸壁ニ横付ケシテ冷蔵貨車ニ積込ミテ關東關西方面ニ發送セシムコノ時各箱ニ氷ヲ詰メルニ約二貫



目位ヲ要ス水代四錢位ナリ

市場ヨリ驛マテノ解賃トロール箱一個ニ付キ十錢レンコ箱、改良箱一個ニ付キ六錢ヲ要ス

十一、賣 買 高

年額約二五、〇〇〇、〇〇〇圓

十二、市場開閉時刻

午前三時ヨリ同九時

十三、賣 買 方法

問屋ハ各自ノ店頭ヲ糶場ニ當テテ魚類ヲトロール船ヨリ荷揚ケシテ店頭内ニ列ヘテ取引ヲ開始ス先ツ開始セントスル時ハ問屋ハ鈴ヲ振リテ豫報シ之レニヨリテ仲買人ノ集合スルヲ見テ相對賣買(袖下馬喰)ニヨリ取引ス建相場ハ一箱建トシ但シ小物大物ハ貫建ナリ

問屋ハ荷主ヨリ一割ノ手数料ヲトリ歩戻ニ對シテハ一步五厘乃至一步二厘ヲ長年行ヒツ、アリシカ相當ノ紛糾アリテ漸ク最近一步ノ戻シト決定セリト、賣買ハ總テ現金取引ヲ原則トスルモ相互間ノ約束ニ依ルモノハ後拂ヒニヨル問屋ノ荷主ニ對スル仕切金ノ支拂方法ハ現金取引ニシテトロール船、發動機船ノ荷主ハ送荷ト同時ニ來場シテ市場ノ取引狀況ヲ觀察シテ其ノ終ルヲ待テテ仕切金ヲ受取ルヲ通則トス或ハ問屋ニ於テ買金ヲ有スル荷主カ他

ノ問屋ニ販賣ヲ委託シタル場合ハ貸金ヲ爲シタル問屋ノ要求ニ依リ委託ヲ受ケタル問屋ハ荷主ニ對シ仕切金ノ支拂ヲ見合セ要求セル問屋ト協定ノ上圓滿ナル解決ヲ期スル權利ヲ有ス

問屋仲買ノ仕切ハ十五日勘定ニシテ若シ不拂者又ハ延滞者ニシテ督促ヲ受ケルモ尙支拂ハサル者ハ全ク取引ヲ停止セシム

十四、集金組織ニ關スル件

當市場ハトロール船及發動機船ニ依ル漁獲物ヲ賣捌キ其ノ取扱高ハ大正十一年中約三千萬圓ト稱セラレ其内當市場ニ於テ問屋ニ委託シ販賣セラルルハ三割三分乃至四割二分見當ニシテ他ハ荷主カ直接遠地送りヲ爲ス從ツテ當市場ニ於テ賣買セラルルハ千萬圓内外アリ從來仲買カ問屋ヨリ買受ケタル代金ハ仲買連帶ニテ支拂フヘキ規約ナルモ實際ハ實行セラレ居ラス本年三月現在ニテ仲買ノ不拂額約三十萬圓ニ達シタリ於茲各問屋ハ聯合シテ代金回收ノ圓滑ヲ企圖シ集金組合ナルモノヲ作り本年四月ヨリ之ヲ實行シ來リタルカ目下ノ處成績良好ニ向ヒツ、アリ

集金組合規約ノ要旨

- 一、仲買現制度ヲ改メ專屬仲買制度ヲ設ク
- 二、從來ノ仲買連帶ヲ解除ス



三、仲買ヲ甲乙ニ分チ信認金ヲ問屋組合ニ預ケシム

甲ハ千圓

乙ハ五百圓

四、各問屋ハ賣上ケノ一步ヲ問屋組合ニ提供シ問屋ニ對スル不拂ノ準備金ニ充ツル趣旨ヲ以テ積立ツ

五、從來ノ問屋ニ對スル不拂額ノ半額ハ前記準備金ヲ以テ支拂ニ充ツ

六、準備積立金ハ三年間積立テ三年目ニ前ノ二年間ノ積立金ヲ賞與トシテ仲買ニ支拂フコト

七、仲買ノ信用程度ハ問屋組合ニ於テ決定ス

八、集金ハ事務所ニ於テ行フ

九、毎日ノ賣上高ハ各問屋ヨリ問屋組合ニ通知ス

十、仲買ノ勘定ハ月三回トシ

イ、十日迄ノ分ハ十五日迄七割ヲ入金シ殘額ヲ翌月三日迄

ロ、二十日迄ノ分ハ二十五日迄五割ヲ入金シ殘額ヲ翌月三日迄

ハ、月末迄ノ分ハ翌月三日迄皆濟スルコト

十一、前項期間内ニ信用程度以上ノ買入ヲ爲シタル仲買ニ對シテハ超過分ヲ即時入金セシム

下關市魚市場規則 (明治三十八年五月十三日市會議決六月十四日市規則第一號)

第壹條 本市場ハ毎日午前八時ヨリ開場ス但シ時宜ニ依リ時間ヲ變更シ又ハ臨時休業スルコトア

ヘシ

第貳條 賣買ハ總テ競賣ノ方法ニ依リ(糶聲ヲ定メ)最高額ヲ以テ決定シ賣込人買受人ハ之ニ對シ一

切異議又ハ取消ヲ申立ツルコトヲ得ス但シ賣込人ニ於テ豫メ最低價格ヲ申立テタルトキハ

競落ノ結果該價格ニ達セルトキハ此限ニ在ラス

第參條 競賣ノ順序ハ總テ着場ノ前後ニ依リ之ヲ定ム

第四條 本市場ハ競賣手數料トシテ賣込人ヨリ競賣金高ノ百分ノ十ヲ收受スルモノトス

第五條 競賣代金ハ競賣手數料ヲ控除シ賣買決定後直ニ賣込人ニ拂渡スモノトス

第六條 競賣代金ハ總テ現金拂トス

賣買當事者間ノ申合セニ依リ別ニ支拂期限ヲ約スルモノハ前項ノ限リニ在ラス但シ手數料

ハ即日納付スヘキモノトス

第七條 買受人前條ノ債務ヲ履行セス若クハ競賣上共謀其他不正ノ行爲アリト認メタルトキハ出場



ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

第八條 本市場ニハ左ノ諸帳簿ヲ備ヘ日々之ヲ記入シ日計及ヒ通計ヲ付スヘシ

一 競 賣 帳

一 競賣代金取立簿

一 競賣代金支拂簿

一 金錢出納帳

以上ノ諸帳簿ハ使用期限ハ一ケ年トス

第九條 前條ノ帳簿ハ總テ明瞭ニ記載スヘシ

第十條 市場開場中ハ賣込人買受人其關係者及ヒ監視官吏々員ノ外入場ヲ許サス

第十一條 市場開場中喧嘩口論其ノ他苟クモ妨害トナルヘキ行爲アルモノハ退場ヲ命ス

第十二條 場内ハ常ニ清潔ニ注意シ毎日閉場ノ後淨水ヲ以テ充分ニ場内及ヒ魚類ノ容器等ヲ洗滌スヘシ又衛生上有害ト認メラル、魚類ハ競賣ヲ拒絕ス

魚市場請負規程 (明治四十一年二月十二日市會議決三月十八日市規程第一號)

第一條 本市立魚市場ハ本規程ニヨリ請負料ヲ徵シ營業ヲ請負ハシムルモノトス

前項請負人ハ本市ニ現住スルモノ若クハ本市ニ本店又ハ支店ヲ有スル法人ニシテ左記各項

ニ抵觸セサルモノニ限ル

一 破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サルモノ及身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサルモノ

二、禁錮以上ノ刑ニ處セラレ滿期又赦免ノ後ハ滿三ケ年ヲ經サルモノ

第二條 請負ハ競争入札又ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ定メ其他ニ關スル規程ハ本規程ニ定ムルモノノ外

市費支辨ニ屬スル工事請負及物件賣買貸借規程ヲ準用ス

第三條 請負期限ハ滿三ケ年以内トス

本市ノ都合ニ依リ請負期限中ト雖モ契約ヲ解除スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ保證金ヲ還付ス請負年限中請負人ノ申出ニ依リ契約ヲ解除スルトキハ保證金ヲ沒收ス

第四條 請負人ハ其市場營業ニ對スル租稅公課ヲ負擔シ且ツ營業上ニ要スル器具其他必要ノ設備ヲ

ナスモノトス但シ之カ爲メ建物ノ模様替ヘヲ要スルトキハ豫メ市長ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 請負料金ハ年額ヲ月割トシ前月分ヲ翌月五日迄ニ納入スヘシ

第六條 請負人請負料金ヲ怠納シ又ハ責務ヲ完フセサル爲メ損害ヲ生シタルトキハ保證金ヲ以テ其辨償ニ充テ尙ホ不足アルトキハ更ニ追徵スルモノトス

第七條 請負人ハ市場建物ノ管理ハ勿論賣買代金ノ取立仕拂其他營業上諸般ノ責ニ任シ常ニ場主ニ



代リ出場シ場内ノ取締ヲナスヘシ

第八條 市場規程ニ定ムル時間ヲ變更シ又ハ臨時休業ヲナサントスルトキハ豫メ市長ノ承認ヲ受クヘシ

第九條 市長又ハ命令ヲ受ケタル吏員ハ何時ニテモ市場ニ臨檢シ其業務ヲ監督スルコトアルヘシ  
此場合ニ於テ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十條 請負人ハ其請負業務ヲ以テ債權ノ擔保ニ供シ又ハ他人ニ讓渡シ若クハ賣渡スコトヲ得ス  
但シ請負人死亡シ家督相續者ニ於テ其業務ノ繼續ヲ願出ツル場合ハ此限リニアラス

第十一條 請負人ニ於テ左ノ行爲アリト認ムルトキハ市長ハ何時ニテモ保證金ヲ沒收シ契約ヲ解除スルコトヲ得此場合ニ於テハ何等ノ事由アルモ請負人ニ對シ一切損害賠償ノ責ニ任セス

- 一 魚市場ニ關スル法令其他本市立魚市場規程及契約ニ違背シタルトキ
- 二 不正ノ行爲アリタルトキ

三 魚市場ノ管理及營業上市長ノ命セル條件ニ違ヒ若クハ請負人ノ行爲公益ニ害アリト認メタルトキ

第十二條 請負人ハ開業以前ニ於テ左ノ事項ヲ詳具シ市長ノ承認ヲ受クヘシ

- 一 市場ニ使用スル事務員職人仲仕等ノ住所氏名

二 市場ノ業務ニ付市場ト魚類持付者及仲買人トノ間ニ於ケル賣買上ノ契約及慣例

(ハ) 下ノ關市青物市場

一、沿革

當市場ノ古キ沿革ニ付テハ判明セサルモ對岸門司、八幡、小倉、若松等ノ一帯ハ商工業地トシテ發達シ從テ其ノ附近ニハ蔬菜果物ノ生産少ナシ然ルニ本市ニ接續セル豊浦、厚狹兩郡ノ村落ハ從來トモ蔬菜果物ノ栽培盛ニシテ生産者ハ其ノ產物ヲ當市ニ持チ來リテ賣捌クヲ常トシタリ而シテ現在市場ノ在ル場所ハ唐戶棧橋通りノ道路ニシテ關門連絡ニ便利ナル地點タル關係上自然ニ多數ノ生産者及商人ノ集合シテ取引ノ行ハレシモノ當市場ノ濫觴タルモノ、如シ

斯クシテ逐年取引ノ盛ナルニ連レ多數ノ者道路ニ蟻集シ擔籠、手車ヲ置キ商品ヲ羅列シ一般交通ノ妨害ヲ爲スコト尠ナカラス茲ニ於テ市當局ニテハ相當取締ヲ爲スヲ適當ナリト明治四十二年七月市ニ於テ道路使用ノ認可ヲ得テ唐戶町道路ノ一定區域ヲ限リ市場取引ノ場所ト定メ蔬菜果物ノ販賣ヲ公許スルニ至レリ

然ルニ年々取引ノ盛大ナルニ隨ヒ制限區域外ニ逸外シテ販賣ヲ爲ス者續出シ交通上支障尠ナカラサルヲ以テ大正六年四月以降一層取締ヲ勵行スルコト、ナリ同時ニ指定區域内ニ於



テ取引スル者ヨリ使用料ヲ徴スルコト、シ以テ今日ニ至レリ

二、名稱、位置

下關市青物市場

下關市字唐戸町棧橋通ニ在リ關門連絡ニ便ナリ

三、取扱品目

蔬菜、果物ヲ主トシ盆栽、鶏卵、乾物ヲモ販賣ス

四、組織

市ニ於テハ市場區域タル道路ヲ管理シ其區域ニ出入スル營業者ヨリ使用料ヲ徴收スルニ過

キス

五、規模、設備

設備トシテハ殆トナシ

唐戸町道路幅員八間ヲ二分シ中央線ヨリ東へ二間半ヲ市場幅員ト定メ總延長七十九間ニ達

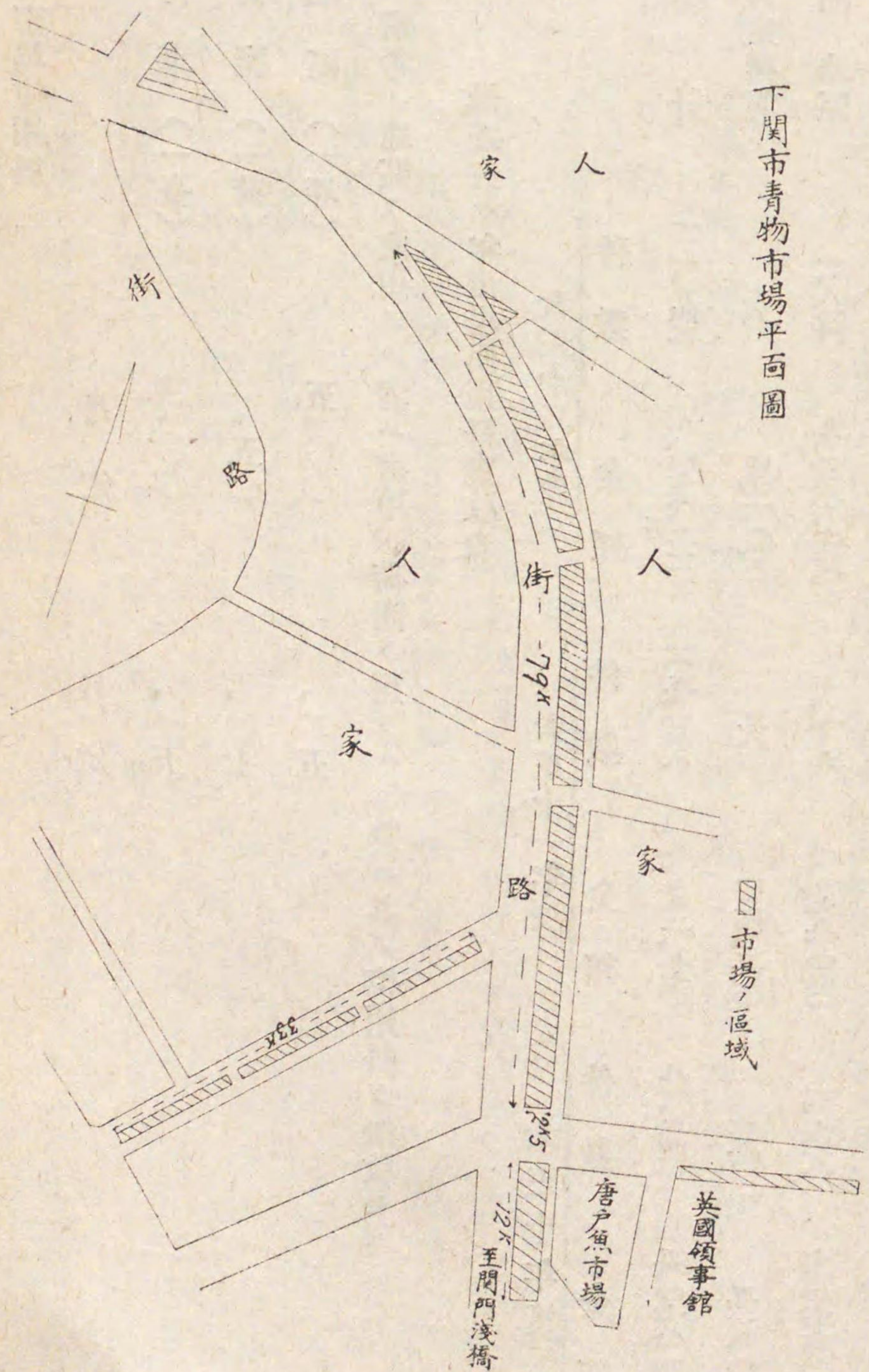
シ總面積百九十七坪五合ヲ市場區域トシ(市場區域兩側ニハ西方四間幅ト東一間半幅ノ通

路ヲ存ス)開場中一般通行面ニ市場界標タル棕柵繩張ヲ假設シ閉場時限ニ至リ之ヲ撤シ完

全ニ跡掃除並ニ撒水シ道路ノ原狀ニ復スルコトトセリ

然レモ現在ハ右區域外ノ通路ニ於テモ取引行ハレツ、アリ

市場ノ平面見取圖



下關市青物市場平面圖



六、市場使用料

	月定	日定
荷車 (一臺)	三、〇〇 <small>円</small>	一、一五 <small>円</small>
荷籠 (一荷)	一、五〇	〇、七
地區 (一坪)	五、〇〇	二、五

備考 地區ヲ使用スル者ハ荷車、荷籠ヲ用フルモ特ニ其ノ使用料ヲ徴收セス

最近三ヶ年市場使用料實收表

	大正十二年度		大正十一年度		大正十年度	
	件數	金額	件數	金額	件數	金額
總計	一一、五五	一九、四七六、二一〇	一五、四八	一八、九九一、九七〇	八、二四三	一五、〇七八、四九〇
月定荷籠	二六八	四〇一、〇〇〇	二八三	四四、五〇〇	三五四	五三、〇〇〇
同地區	一、八〇四	九、〇一〇、〇〇〇	一、七九	八、九九五、〇〇〇	一、七六	七、〇七二、〇〇〇
日定荷車	一、九〇一	二八五、一五〇	一、八一〇	二七一、五〇〇	一、八八〇	二二、〇〇〇
同荷籠	九五、一三三	六、六五九、三〇〇	八八、八二七	六、二二七、三三〇	六三、四九八	四、四四、八九〇
同地區	一一、四三九	三、一〇九、七五〇	一二、三三九	三、〇〇四、七五〇	一一、七四三	二、七二八、六〇〇

七、賣買機關

(イ) 販賣業者トシテ市場ニ入場セルモノ昨大正十二年中毎日平在四百六十人アリ其ノ大部分ヲ占ムルモノハ當市ニ接續セル厚狹、豊浦兩郡村落ニ於ケル生産者又ハ其ノ買集商人ナリ

此外果物ニ付テハ市内ニ店舗ヲ有シ當市場ニ來リテ卸賣ヲ爲スモノモアリ

(ロ) 買出人

- a 市内ノ小賣商人
- b 門司、八幡、小倉、若松、戸畑等ノ各地ニ於ケル小賣商人
- c 九州並朝鮮其ノ他遠地送リヲ業トセル市内ノ商人

八、取引事情

(イ) 開場時間 日出ヨリ午前十時マテ

(ロ) 休日 一月一日

(ハ) 荷主對問屋

地廻物ニ付生産者又ハ地方買集商人自ラ市場ニ於テ販賣スルモノ多ク旅荷ニ付テハ市内ニ店舗ヲ有スル問屋ニ對シ委託ヲナス



(ニ) 賣買方法

相對賣ニシテ現金取引ヲ主トス。

(ホ) 當市場ハ集散市場ナリ

大正十二年當市場ニ於ケル取扱高五百九十八萬圓ノ内遠地送りノモノ四百十萬圓ニシテ市内ノ消費額ハ百八十萬圓ノ見込ナリ

取扱高 五、九八〇千円

内

市内消費 一、八七〇

九州方面へ移出 二、七四〇

朝鮮其他ハ 一、三七〇

九、賣上高

大正十二年 (市當局ノ調査)

總額 五、九八〇千円

内

蔬菜 二、五〇〇

果物 二、五〇〇

内 五〇〇千円バナナ

蔬菜其ノ他 九八〇

下關市青物市場使用料條例

大正五年三月十八日市會議決  
大正六年三月十七日市條例第二號

第一條 本市ハ本市青物市場ヲ使用スル者ヨリ左ノ使用料ヲ徴收ス

一、荷車ヲ用ヒ從業スル者

荷車一臺ニ付一日金十五錢 一箇月金三圓

二、荷籠ヲ用ヒ從業スル者

荷籠一荷ニ仕一日金七錢 一箇月金一圓五十錢

三、一區(間口一間奥行一間)ヲ使用シ從業スル者

一區ニ付一日二十五錢 一箇月金五圓

前項第三號使用者ニシテ荷車又ハ荷籠ヲ用ユル場合ハ第一第二ノ各號ヲ適用セス

第二條 使用料ハ入場證ヲ交付スルト同時ニ使用者ヨリ之ヲ徴收ス

第三條 本市場ノ使用ハ一人ニ付荷車ハ車臺六尺以下ノモノ一臺、荷籠ハ一人持一荷地區ハ一區

(間口一間奥行一間)ヲ以デ限度トス

使用者ハ日々一定ノ場所ヲ繼續使用スルコトヲ得ス但他ニ使用者ナキトキハ此限ニアラス



第四條 使用料ヲ納付シタル後使用ノ種別ヲ變更シ又ハ使用ヲ取消シタルトキ並市場管理者ニ於テ使用ヲ停止若シクハ禁止ヲ命シタルトキト雖モ既納ノ使用料ハ還付セス但使用ノ種別ヲ變更シタルトキ使用料既納額ヨリ増加ノ場合ニ限り其差額ヲ徵收ス

第五條 市ノ都合ニ依リ市場ノ休業引續キ五日以上ニ涉ルトキハ第一條一箇月前納者ニ對シテハ日割計算ヲ以テ既納ノ使用料ヲ還付ス

附 則

第六條 本條例ハ大正六年四月一日ヨリ施行ス

下關市青物市場規則

大正五年三月十八日市會議決  
大正六年三月十七日告示第二四號

第一條 本市場ハ下關市青物市場ト稱シ下關市宇唐戸町棧橋通ニ之ヲ設ク其區域左ノ如シ

- 一、道路中央線ヨリ唐戸町側巾二間五分長五十九間及物揚場巾二間五分長二十間市場標設置區域内

第二條 本市場ニ於ケル賣買品ノ種類ハ果實、蔬菜、盆栽、鶏卵、乾物トス

第三條 前條販賣ニ従事スル者並購買ノ爲メ荷車又ハ荷籠ヲ携帶入場スル者ヲ以テ本市場使用者トス

第四條 本市場開場時間及休業日ハ左ノ通り定ム但時宜ニ依リ時間ヲ變更シ若クハ臨時休業スルコトアルヘシ

一、開場時間 毎日出時ヨリ午前十一時迄

二、休業日 一月一日

第五條 本市場ニ於ケル賣買ハ總テ自由賣買トス

第六條 本市場ヲ使用セントスル者ハ市場管理者ニ對シ住所、氏名、使用ノ種別及販賣者ニアリテハ賣品ノ種類ヲ申出テ入場證ノ交付ヲ受クヘシ

第七條 本市場使用者ハ左ノ各項ヲ遵守ス可シ若シ之ニ違背シタルトキハ其使用ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ

一、荷車、荷籠ノ排列ヲ亂シ又ハ市場外ニ逸出シ若クハ土地ヲ掘鑿シ杭木ヲ打込等ノ行爲ヲナス可カラス

二、惡臭ヲ發シ衛生上有害ノ虞アル物ヲ市場ニ搬入スルコトヲ得ス

三、他人ノ賣買ヲ妨ケ若クハ不正ノ行爲アル可カラス

四、入場證ハ賣買讓受又ハ貸借スルコトヲ得ス

五、入場證ヲ毀損亡失シタルトキハ再交付ノ申出テヲ爲ス可シ

六、其他本市場ニ關スル規定及市場管理者ノ命シタル條件ニ違背スルコトヲ得ス



大正六年三月十九日市長決定  
同日下關市訓令第三號

下關市青物市場細則

第一條 本市場ニ左ノ管理人ヲ置ク

一、市場主任 一名

市場主任ハ市場ノ取締其他市場諸般ノ事務ヲ掌ル

二、市場事務員 一名

市場事務員ハ市場主任ノ事務ヲ補佐シ場内ノ取締其他ノ事務ニ従事ス

三、常備夫 若干名

第二條 市場ノ開場時間ヲ變更シ若シクハ臨時休業ヲ爲サントスルトキハ其都度之ヲ市場内ニ公示スルモノトス

第三條 本市場使用料ハ市場主任ニ於テ使用人ヨリ現金ヲ受領シ入場證ヲ交付スヘシ

入場證ハ第一號様式ニ據ル

第四條 前條ニ依リ現金ヲ受領シタルトキハ第二號様式ノ帳簿ニ依リ之ヲ整理シ入場證使用原票及不使用票ニ添付シ當日主務係ヲ經テ市長ノ決裁ヲ受ケ現金ハ拂込書ヲ添ヘ市金庫ニ拂込ムヘシ

當日休暇ニ當ルトキハ其翌日前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 市場主任ハ入場證ヲ領置シ第三號様式ノ帳簿ヲ設ケ其受拂ヲ明瞭ニスヘシ

第一號様式

入場證

<p>役所印 下關市 青物市場</p>		<p>第 號 使用料金何錢納入濟</p>		<p>大正(何年)何月(何日) 入場證</p>		<p>第 號 下關市</p>		<p>役所印 下關市</p>	
<p>(荷車 一臺) (荷籠 一荷) (地區 一區)</p>		<p>何月何日</p>		<p>何月何日</p>		<p>下關市青物市場入場證原票</p>		<p>(荷車 一臺) (荷籠 一荷) (地區 一區)</p>	
<p>第 號</p>		<p>氏 名</p>		<p>住所</p>		<p>入用使</p>		<p>第 號</p>	
<p>錢</p>		<p>受領濟</p>		<p>使用料金何</p>		<p>錢</p>		<p>第 號</p>	







期限三ヶ年ナレトモ市當局トシテハ繼續延期セシムル方針ナリトイフ、魚市場トイフモ單ナル鮮魚小賣商店ノ規模ヲ大ニセルモノニ等シク荷主ヨリ委託ヲ受ケテ魚類ヲ仲買人ニ賣渡スモノナリ

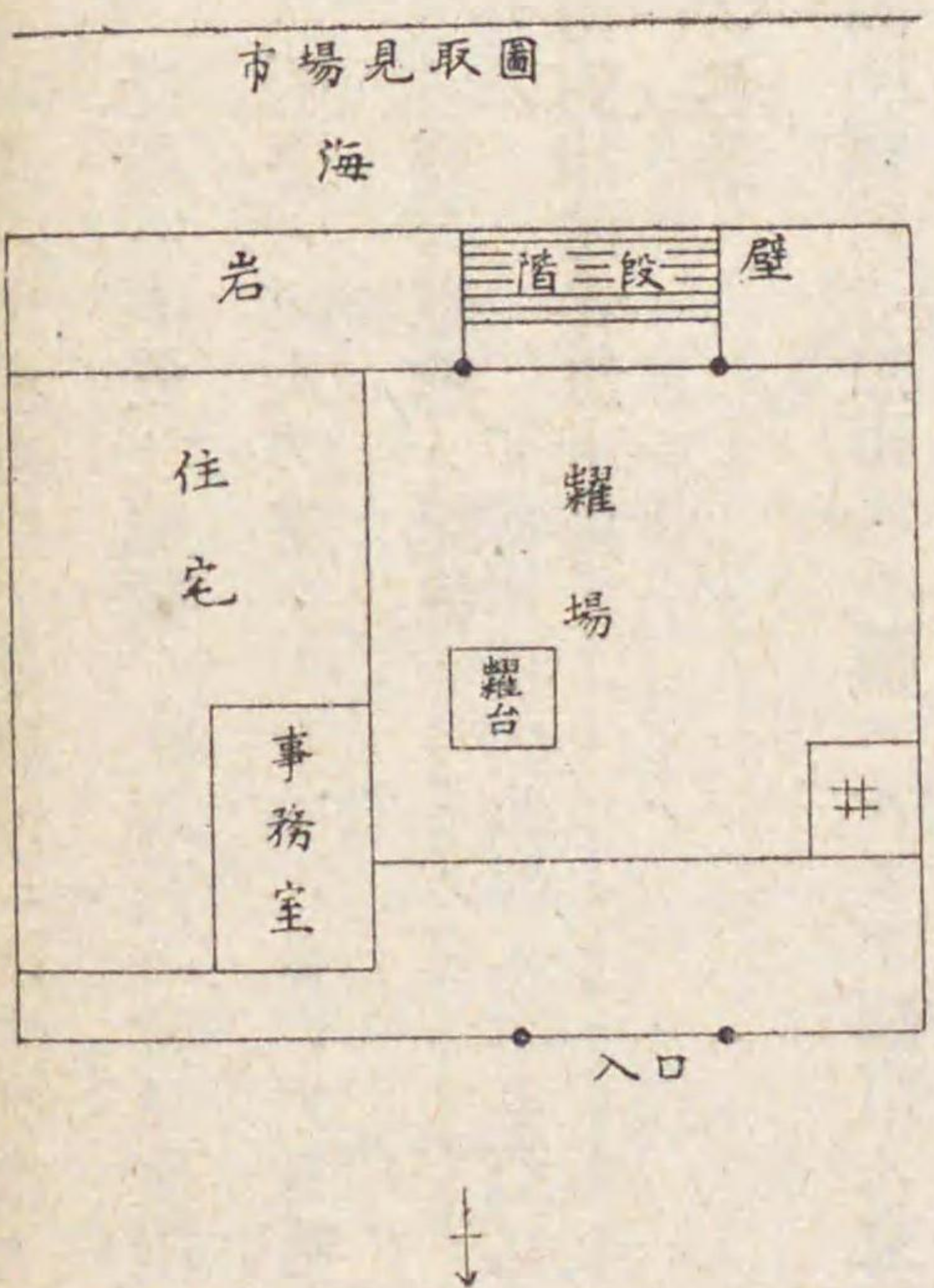
五、面 積

木造二階建瓦葺一棟 四十九坪

糶場平家瓦葺一棟(コンクリート敷) 十四坪

事務室庇建二ヶ所 七坪六

仲買人控所 十二坪



糶場ヲ洗滌セル汚水ハ直接海ニ洗ヒ流サルル設備トナレリ、五坪岩壁アリテ魚荷ハ總テココヨリ陸上ケセラル

六、出 荷 者

出荷スルモノ二十五人アリテ近在ノ漁業者及對岸ノ福岡縣下ノ田之浦、野江谷、喜多久、姫島附近ノ漁業者ノ漁獲セルモノヲ直接漁船及發動機船ヲ以テ發送シ來タル總テ水路ニヨルモノナリ

七、問 屋

問屋トハ市營タル魚市場ヲ門林岩松氏一個人カ之レヲ請負ヘテ經營スルモノナリ、出荷者ノ發送シ來リシ魚類ノ委託ヲ受ケテ之レヲ仲買人ニ販賣スルナリ問屋ニハ店員三名居リテ事務販賣ノ手傳ヒヲナサシム糶人ニハ問屋主腦者自ラ之レニ當リ問屋ハ荷主ヨリ一割ノ手數料ヲトリ仲買人ニ對シテハ一分五厘ノ歩戻シヲナス  
荷主ハ送荷ト同時ニ市場内ニ來リテ糶賣ノ現狀ヲ見テ居リ糶賣終レハ問屋ヨリ仕切金ヲ受取リテ歸ヘルナリ、仲買人ニ對スル取引モ現金取引ナレトモ大體ハ四、五日後拂ヒナリ然レトモ毎日取引後ハ幾分カノ内金ヲ入レシメテ保證金トナサシム不拂者ニ對シテハ後日ノ取引ニ參加スルヲ停止セシム若シ參加スルモ小市場ナレハ糶人ハ常ニ顔ヲ知り居ル故ニ糶



落トササル様注意ス

八、仲買人

仲買人十五名アリ仲買人トイフモ市内ノ小賣商人ニシテ買受ケタル魚類ヲ持チ歸ヘリテ自家ノ店頭ニ於テ一般消費者ニ賣リ捌クナリ中ニハ料理店ノ仲買人モ居リ仲買人ノ外ハ一切市場ニ於テ賣買ニ參加スルヲ得ス、新タニ仲買人トナラントスルニハ仲買人二名以上ノ推薦ニ依ルモノナリ

九、賣買高

賣上金額(大正十一年度)

一九二、〇〇〇圓

十、市場開閉時刻

夏季 午前六時頃ヨリ九時頃迄

冬季 午前九時頃ヨリ十一時頃迄

十一、賣買方法

糶賣法ヲトリ魚類ハ到着順ヲ以テ糶ニ掛ケラレ魚ハ適量(直徑一尺五寸ノ稍々深キ平籠ノ容器ヲ用ユ)ニ分チテ高サ三尺位ノ一間半四方ノ糶臺ニ運ヒテ問屋ノ主腦者カ糶人ニ當リテ其ノ日ノ魚類ノ相場(多年ノ經驗ニテ決定スル)ニヨリテ魚値ヲ定メテ符牒ヲ用キス金高ヲ呼ヒ上ケテ景氣付ケナカラ買人ノ心ヲ誘フ買人ハ自己ノ欲スル値段トナレハ指ヲ以テ之レニ應ス

糶落サレタルトキハ直チニ買人ノ名ト値段トヲ記入シテ後ニ仕切ノ時ノ原本トナス

糶人一人記帳係一人其ノ背後ニ記帳記入ノ正誤ヲ常ニ監視スル者一人居レリ

問屋ハ荷主ヨリ一割ノ手数料ヲトリ仲買人ニ對シテ一步五厘ノ歩戻ヲナス

(ホ) 下關新地魚市場

一、市場ノ名稱

下關新地魚市場(西魚市場)

二、位 置

下關市新地町ニ在リテ市ノ西部ニ位ス故ニ單ニ西魚市場トモ稱セリ

三、取扱品目

鮮魚(地廻リモノヲ主トス)

四、組 織

東魚市場ト全ク同シ請負人大津勝次郎氏ナリ



五、面 積

敷地總坪數

内

六十五坪

耀場木造平家建瓦葺(コンクリート敷)

十二坪

事務室

三坪

仲買人控所

三坪

土 間

二坪

住宅木造平家建瓦葺

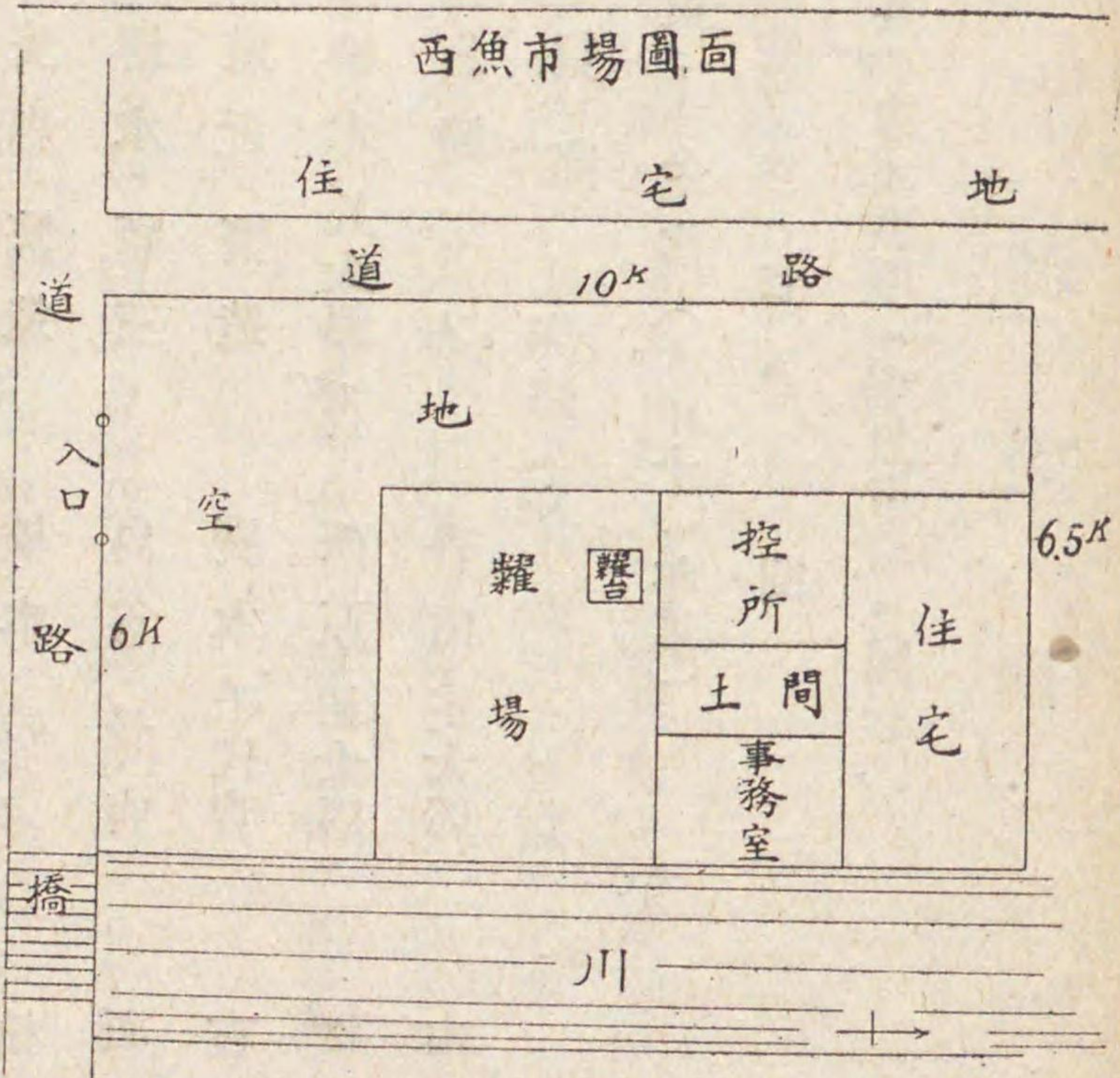
八坪

空 地

二十七坪

計

六十五坪



六、設 備

設備トシテハ特ニ記スベキモノナク周圍ハ商店街ニシテ一面ハ川ニ面スルモ水利ノ便ナシ  
魚荷ハ總テ陸路ニヨル

七、出 荷 者



彦島ノ漁業者近在ノ漁業者ニシテ陸路ニテ擔キテ市場ニ出荷スルモノ多シ出荷者二十八居  
レリ

八、仲買人

仲買人十九名其人名ハ次ノ如シ

安森 繁造	橋本のぶ	松永 つる	島村國太郎
清水 新三	島谷 音吉	石井 ユカ	支村 岩吉
道近 繁造	廣本 千代吉	古根 家	脇木 クラ
松木 久太郎	西原 初太郎	伊勢 三造	長濱 トヲ
岩崎 トメ	香田 正太郎	山田 米太郎	

九、賣買高

賣上金高(大正十一年度)

一七〇、〇〇〇圓

其ノ他ノ事項ハ東魚市場ニ同シ

九、防府町

(イ) 防府町三田尻魚市場

一、位置名稱及沿革

防府町三田尻魚市場ト稱シ防府町ノ中央部入江ニ面シ水運ノ便ヲ有シ鐵道ト僅ニ十町ヲ距  
ツル位ニシテ配給上略々適當ノ地位ニアリ

大正六年迄ハ株式會社ノ經營ニカ、リシモ魚市場ニ關スル縣當局ノ方針ニ基キ之ヲ町營ト  
スルコト、シ會社所有ノ土地、建物ヲ五千圓ヲ以テ買受ケ町ニ於テ事業ヲ經營スルコト、  
シタリ

町營開始ト同時ニ請負ノ制度トシ五ケ年ヲ期限トシタリ其ノ期限ト共ニ更ニ之ヲ町直營ト  
スルコト、シ大正十年ヨリ之ヲ實施シ爾來三年ノ成績ハ極メテ順調ニシテ懸念セラレタル  
貸倒等ノコトモナク純收益トシテ二萬五千圓ヲ生スルニ至レリ

二、組織

町直營ニシテ之カ事務ニ當ル者ハ全部町吏員ニシテ書記三人、事務員十人、糶人二人外ニ  
當直及荷捌ニ從事スル仲仕七人アリテ一切ノ市場事務ヲ行フ出荷者ハ近在ノ漁業者又ハ同



郡西浦村、向島、江泊、野島、富海村及遠地ヨリハ山口縣北海岸仙崎、萩地方ヨリ荷馬車自動車ヲ以テ出荷ス

二 下關ヨリ鐵道又ハ發動船ヲ以テトロール物ヲ相當出荷スルモノアリ之ニ從事スル發動機船二隻アリ

出入商人ハ仲買人及其名義ヲ借用スル小賣人(マルト稱ス)等合計二百人位アリ

三、設備

河口ニ面シ滿潮時ニハ發動機船ハ自由ニ横着トナリ得冷蔵庫ノ設備ナキモ目下其ノ計畫中ナリ出入者待合所及當番人住宅アルモ其ノ他ノ附屬商舖等ナシ荷捌所及競賣所ハ總敷石トナス

敷地 二百〇三坪 建物 七十九坪二合五勺

四、出荷者

前述ノ通り(地方別)

五、仲買人

仲買人ハ定員七十名ニシテ目下其ノ缺員二名アリ新ニ仲買人トナラントスル者ハ仲買人組合總會ノ決議ヲ以テ推薦セラレ町ニ於テ之ヲ許可ス別ニ保證金制度ナキモ不拂等ノ不都合

ハ殆ト皆無ナリ然レ共現在仲買人ニ對シテハ町ハ三分ノ歩戻ヲナシツ、アルヲ以テ將來其ノ内ノ幾分カラ町ニ積立テシメ之ヲ保證金ニ爲サムトスル計畫アリ之取引上必要ト云フヨリモ寧ロ仲買人ニ貯蓄ヲ獎勵セムトスルノ趣意ニ出ツ仲買人ノ取引高ハ最高五萬圓位ニ達スルモ資産、信用状態ハ云フニ足ラス仲買人ト云フモ殆ト一般ノ小賣商人ニシテ大ナルモノハ遠地ニ送荷ス此ノ仲買業ヲ爲ス者二、三アリ

六、小賣商人

小賣商人(マル)ハ仲買人ノ名義ヲ借り其ノ支拂保證ノ下ニ仲買人ト相並テ糶賣ニ參加スルコトヲ得ルナリ仲買一人付キニ多キハ三十人ヲ有スルモノアリ其總數百餘人ナリ

七、附屬運送業者

干潮時海岸陸揚場ヨリ市場迄又ハ停車場ヨリ市場迄ノ運送ヲ請負フ町指定ノ運送店一アリ

驛ヨリ ビール箱一個 三十錢

海岸ヨリ (手車一臺) 五十錢(内陸揚賃十五錢)

八、手数料

町ハ賣上高ノ一割ヲ荷主ヨリ收受ス而シテ町在住ノ漁業者ニハ一分ヲ戻ス  
仲買人ニ對シ三分ヲ戻ス



九、賣買高

大正十年度

四六八、九三五・七六〇

大正十一年度

五二一、八〇二・一八三

大正十二年度(自四月至十二月)

三八九、七二七・〇五二

備考 宮市魚市場ノ取扱高ヲ含ム 宮市魚市場ハ二萬圓見當ナリ

十、市場開閉時

午前八時半ヨリ同十一時(長キ時ハ四時開モ要ス)

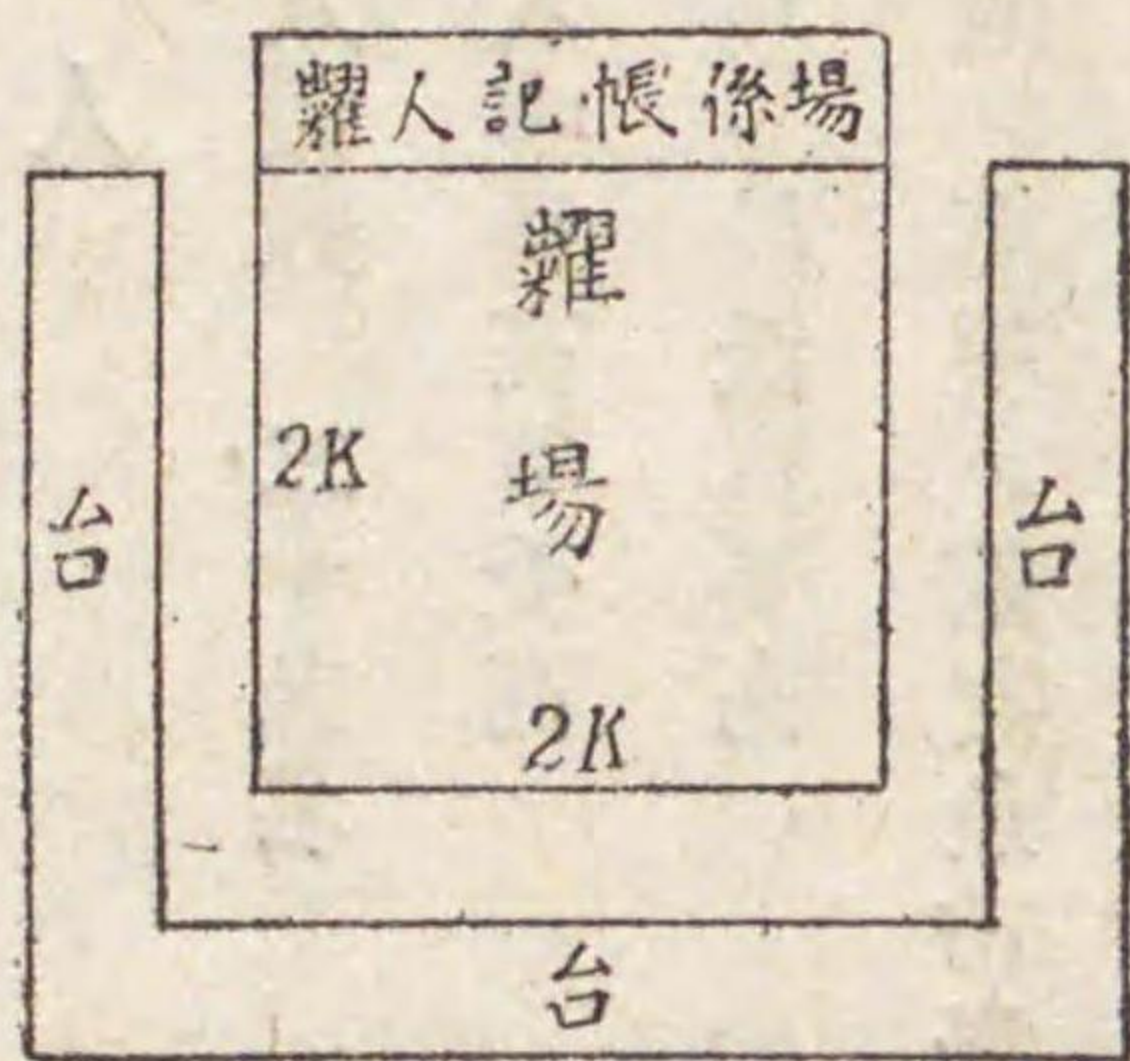
十一、賣買方法

魚荷ハ之ヲ到着順ニ記帳シ糶賣開始前迄ニ之ヲ整理ス此ノ到着順ニ從ビ適當ノ量ニ分チテ之ヲ糶臺ニ上シ(直徑二尺位ノ平籠ニ盛ル)一個宛糶賣ス

糶人ハ先ツ其ノ値ヲ呼ヒ上ケ之レニ應シテ買人ハ多クハ指ヲ以テ値段ヲ指シ糶人ハ其値段ヲ金錢ヲ以テ呼ヒ上ケ更ニ他ノ者ノ高値ヲ附スルヲ誘フ糶賣終レハ糶値段段及買人ノ名稱ヲ同時ニ呼ヒ上ケ記帳係ハ直チニ水揚帳ニ記入シテ次ノ糶賣ニ移ル

記帳ハ二人ニテ之ヲ爲シ一帳五枚綴リヨリナリ逐次事務員計算シ出荷者ニ之レニ依リテ代金ヲ支拂フモノナリ

糶場ノ構造ハ敷石ニシテ二間四方ニ柵ヲ圍ラシ其一方ニ糶人一人記帳係二人ノ場所ヲトリ三方ニ一尺位ノ高サノ臺ヲ造リテ買人ノ登リテ糶場内ノ魚類ノ容易ニ見得ラル、ニ便セリ



十二、代金決済ノ方法

制度上ハ現金取引トナリ居レトモ大體七分方ノ内金ヲ入レシメ残りハ月末勘定ナリ

代金不拂者ハ賣買ニ參加セシメヌ又參加スルモ糶人ニ於テ糶落サ、ル等ノ手加減ヲ爲ス

マルハ代金決済ニ就イテハ全然仲買人ノ名義ニ依ル而シテ仲買ハ此ノ關係ニ於テ市場ヨリ歩戻シ三步ヲ保険料トシテ得ルコト、ナル仲買人トマルトノ關係ニ付テハ市場ハ一切ノ交渉ヲ爲サス

十三、金融制度

株式會社時代ニハ仕込金ノ貸付ケヲ爲シタルモ町營トナリテハ之ヲ全廢シ之ニ代フルニ獎



勵金ヲ豫算中ニ計上シ仕込金ノ借入ヲ爲シタル場合ニハ其ノ利子ヲ町ニ於テ負擔スルコトス此ノ外出荷者ニ對シ相當ノ寄附ヲナス位ナリ

(口) 防府町宮市魚市場

一、位 置

防府町宮市町

二、設 備

敷地 百〇二坪 建物 四拾五坪

競賣所、荷捌所及魚置場ハ總敷石ナリ

三、仲 買 人

仲買人員數 二十九名

仲買人中最高買受高 一一、二〇二圓

同 最低買受高 二九六圓

其ノ他ノ事項ハ前記魚市場ト同シ

賣買高ハ前述ノ通り

十、鳥 取 市

一、鳥取市ト消費經濟上一體ヲ爲スヘキ隣接町村

鳥取市ハ大正十二年五月本市ト接續スル富桑村ヲ併合シ現在戸數六、九一五戸、人口三八、五七三人ヲ有ス

本市ト消費經濟上一體ヲ爲ス隣接町村ハ左ノ三ヶ村ニシテ其ノ人口次ノ如シ

隣接町村	戸 數	人 口
鳥 取 市	六、九一五戸	三八、五七三人
隣接町村		
面 影 村	二四五	一、五四〇
稻 葉 村	一七五	九七六
美 保 村	四九五	二、八七五
計	九一五	五、三九一

大正九年十月一日國勢調査ニ依ル人口

鳥 取 市 二九、二七三人